

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	コリウガク'信'フクシマ'ン トウクイ'コリウガク'信'フクシマ 国立大学法人 東海国立大学機構									
フリガナ大学の名称	ギフダ'信'フクシマ 岐阜大学 (Gifu University)									
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸1番1									
大学の目的	独創的かつ先進的研究の拠点として、知の創造と統合に努めるとともに、高度な教育を通してそれを継承発展させ、豊かな人間性と学識を養い、判断力と実行力及び構想力に富む人材の育成を行い、もって地域社会と人類の発展に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	生物科学・生命科学・生物環境科学の学理を究め、それらに関連した技術を開発し、それらの成果を生物産業や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全及びヒトと動物との共生に応用することにより良い社会の実現に貢献できる人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【】内は社会システム経営学環に関する連携協力学部定員内訳
	応用生物科学部 [Faculty of Applied Biological Sciences]	年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	応用生命化学科 [Department of Applied Bioscience and Chemistry]	4	58 【3】	3年次 3	238 【12】	学士（応用生物科学） [Bachelor of Applied Biological Science]	農学関係	令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	岐阜県岐阜市 柳戸1番1	
	食農生命科学科 [Department of Food and Agricultural Science]	4	59 【4】	3年次 4	244 【16】	学士（応用生物科学） [Bachelor of Applied Biological Science]	農学関係	令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	岐阜県岐阜市 柳戸1番1	
	生物圏環境学科 [Department of Biosphere and Environmental Sciences]	4	53 【3】	3年次 3	218 【12】	学士（応用生物科学） [Bachelor of Applied Biological Science]	農学関係	令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	岐阜県岐阜市 柳戸1番1	
計										
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	（岐阜大学） ・医学科 医学科〔定員減〕 (△25)（令和7年4月） ※1 ・工学部 電気電子・情報工学科〔定員増〕 (20)（令和6年6月意見伺い） ・応用生物科学部 応用生命化学科 (58)（令和6年4月事前相談） 食農生命科学科 (59)（令和6年4月事前相談） 生物圏環境学科 (53)（令和6年4月事前相談） 応用生命科学課程（廃止） (△85) ※令和7年4月学生募集停止 生産環境科学課程（廃止） (△85) ※令和7年4月学生募集停止 ・地域科学研究科 地域政策専攻〔定員増〕 (1)（令和7年4月） ・自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻(M)〔定員増〕 (2)（令和7年4月） 環境社会基盤工学専攻(M)〔定員増〕 (3)（令和7年4月） 知能理工学専攻(M)〔定員増〕 (10)（令和7年4月） ・社会システム経営学院(M) (6)（令和6年4月事前相談） （名古屋大学） ・情報学部 自然情報学科〔定員増〕 (6)（令和6年6月意見伺い） コンピュータ科学科〔定員増〕 (8)（令和6年6月意見伺い） (3年次編入学定員)〔定員増〕 (2)（令和6年6月意見伺い） ・医学科 医学科〔定員減〕 (△7)（令和7年4月） ※1 ・工学部 電気電子情報工学科(M)〔定員増〕 (10)（令和6年6月意見伺い） 機械・航空宇宙工学科(M)〔定員増〕 (10)（令和6年6月意見伺い） ・情報学研究科 複雑系科学専攻(M)〔定員増〕 (8)（令和7年4月） 情報システム学専攻(M)〔定員増〕 (1)（令和7年4月） 知能システム学専攻(M)〔定員増〕 (11)（令和7年4月）							※1臨時定員増の延長がない場合		
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	応用生物科学部 生物圏環境学科	325科目	42科目	19科目	386科目	128単位				
新	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
	応用生物科学部 応用生命化学科	9 (10)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	19 (20)	0 (0)	26 (26)	令和6年4月事前相談	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (10)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	19 (20)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人	

設	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (41)	令和6年4月事前相談 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	小計(a~b)	9 (10)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	19 (20)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a~d)	9 (10)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	19 (20)				
	応用生物科学部 食農生命科学科	9 (10)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	19 (20)				
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (10)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	19 (20)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a~b)	9 (10)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	19 (20)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a~d)	9 (10)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	19 (20)				
	応用生物科学部 生物圏環境学科	6 (7)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	17 (18)				
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	17 (18)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計(a~b)	6 (7)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	17 (18)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計(a~d)	6 (7)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	17 (18)					
分	計	24 (27)	23 (23)	0 (0)	8 (8)	55 (58)	0 (0)	115 (116)		

既	教育学部 学校教育教員養成課程	40 (40)	37 (37)	0 (0)	5 (5)	82 (82)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	40 (40)	37 (37)	0 (0)	5 (5)	82 (82)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	40 (40)	37 (37)	0 (0)	5 (5)	82 (82)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	40 (40)	37 (37)	0 (0)	5 (5)	82 (82)				
地域科学部 地域政策学科		8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	18 (18)				
地域科学部 地域文化学科		6 (6)	5 (5)	1 (1)	6 (6)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	1 (1)	6 (6)	18 (18)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	6 (6)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	6 (6)	18 (18)				
医学部 医学科		41 (41)	39 (39)	30 (30)	103 (103)	213 (213)	0 (0)	54 (54)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 105人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	41 (41)	39 (39)	30 (30)	103 (103)	213 (213)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	41 (41)	39 (39)	30 (30)	103 (103)	213 (213)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (84)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	41 (41)	39 (39)	30 (30)	103 (103)	213 (213)				
医学部 看護学科		6 (6)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	28 (28)	1 (1)	0 (0)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	28 (28)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	6 (6)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	28 (28)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	6 (6)	10 (10)	0 (0)	12 (12)	28 (28)				
工学部 社会基盤工学科		12 (12)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	7 (7)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a～d)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (18)				
設									

	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
	計(a～d)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	18 (18)		
工学部	機械工学科	18 (18)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	39 (39)	0 (0)	2 (2)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	39 (39)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	18 (18)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	39 (39)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等での教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	18 (18)	14 (14)	0 (0)	7 (7)	39 (39)		
工学部	化学・生命工学科	22 (22)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	50 (50)	0 (0)	3 (3)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	22 (22)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	50 (50)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	22 (22)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	50 (50)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等での教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	22 (22)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	50 (50)		
工学部	電気電子・情報工学科	25 (25)	24 (24)	0 (0)	12 (12)	61 (61)	0 (0)	3 (3)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	25 (25)	24 (24)	0 (0)	12 (12)	61 (61)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	25 (25)	24 (24)	0 (0)	12 (12)	61 (61)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等での教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	25 (25)	24 (24)	0 (0)	12 (12)	61 (61)		
応用生物科学部	共同獣医学科	12 (14)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	32 (34)	0 (0)	42 (43)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (14)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	32 (34)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	12 (14)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	32 (34)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等での教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	12 (14)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	32 (34)		
社会システム経営学環		8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	3 (3)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計(a～b)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等での教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計(a～d)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)		
分	計	198 (200)	173 (173)	31 (31)	171 (171)	573 (575)	1 (1)	114 (115)
合	計	222 (227)	196 (196)	31 (31)	179 (179)	628 (633)	1 (1)	229 (231)
職	種		専 属		そ の 他		計	
事	務 職 員		人 351 (351)		人 384 (384)		人 735 (735)	
技	術 職 員		1,166 (1,116)		243 (243)		1,409 (1,409)	

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人

図書館職員		6 (6)	0 0	6 (6)				
その他の職員		0 0	107 (107)	107 (107)				
指導補助者		0 0	0 0	0 0				
計		1,523 (1,523)	734 (734)	2,257 (2,257)				
校 地 等	区分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他の内 附属病院 63.614㎡		
	校舎敷地	368,279㎡	0㎡	0㎡	368,279㎡			
	その他	6,839,816㎡	11,712㎡	0㎡	6,851,528㎡			
	合計	7,208,095㎡	11,712㎡	0㎡	7,219,807㎡			
校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	別途附属病院 74.874㎡		
		199,963㎡ (199,963㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	199,963㎡ (199,963㎡)			
教室・教員研究室		教室	811室	教員研究室	736室	大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため 大学全体の数
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
		939,133 (326,441) (939,133 (326,441))	23,991 [23,057] (23,991 [23,057])	24,730 [11,884] (24,730 [11,884])	7,747 [6,195] (7,747 [6,195])	12,448 (12,448)	2,217 (2,217)	
	計	939,133 (326,441) (939,133 (326,441))	23,991 [23,057] (23,991 [23,057])	24,730 [11,884] (24,730 [11,884])	7,747 [6,195] (7,747 [6,195])	12,448 (12,448)	2,217 (2,217)	
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚生補導施設	大学全体		
		1,800㎡		625㎡	14,471㎡			

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		-
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし								
大学等の名称 岐阜大学										
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	取容定員充足率	開設年度	所在地		
教育学部		年	人	年次人	人					
学校教育教員養成課程	4	220	-	880	学士(教育学)	1.09 《1.05》	平成10年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和2年度入学定員増(20人) 令和3年度入学定員減(△30人)	
特別支援学校教員養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	1.09 《1.05》	平成19年度	同上	令和2年度より学生募集停止	
地域科学部						1.06 《1.04》				
地域政策学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	1.19 《1.16》	平成18年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
地域文化学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	0.94 《0.92》	平成18年度	同上		
医学部						0.99 《0.97》				
医学科	6	110	-	660	学士(医学)	0.98 《0.96》	昭和39年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.00 《0.99》	平成12年度	同上		
工学部						1.05 《1.01》				
社会基盤工学科	4	68	3年次10	292	学士(工学)	1.02 《0.96》	平成14年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	【 】は社会システム経営学環(学部等連係課程実施基本組織等)への拠出数(内数) 令和3年度入学定員増(8人) 令和3年度3年次編入学定員増(10人)	
機械工学科	4	134	3年次10	556	学士(工学)	1.09 《1.05》	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4人) 令和3年度3年次編入学定員増(10人)	
化学・生命工学科	4	154	3年次2	620	学士(工学)	1.03 《1.02》	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4人) 令和3年度3年次編入学定員増(2人)	
電気電子・情報工学科	4	174	3年次8	712	学士(工学)	1.05 《1.00》	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4人) 令和3年度3年次編入学定員増(8人)	
応用生物科学部						1.05 《1.03》				
応用生命科学課程	4	85	3年次5	350	学士(応用生物科学)	1.06 《1.04》	平成23年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	【 】は社会システム経営学環(学部等連係課程実施基本組織等)への拠出数(内数) 令和3年度入学定員増(5人)	
生産環境科学課程	4	85	3年次5	350	学士(応用生物科学)	1.04 《1.02》	平成16年度	同上	令和3年度入学定員増(5人)	
共同獣医学科	6	30	-	180	学士(獣医学)	1.04 《1.03》	平成25年度	同上		
獣医学課程	6	-	-	-	学士(獣医学)	-	平成16年度	同上	平成25年度より学生募集停止	
社会システム経営学環	4	【30】	-	【120】	学士(経営学)	1.04 《1.03》	令和3年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	学部等連係課程実施基本組織等のため、定員は工学部、応用生物科学部のもを活用	
教育学研究科						1.02 《0.98》				
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	-	-	-	教職修士(専門職)	-	平成20年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和4年度より学生募集停止	
心理発達支援専攻 (修士課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	平成20年度	同上	令和4年度より学生募集停止	
総合教科教育専攻 (修士課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	平成25年度	同上	令和4年度より学生募集停止	
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	40	-	80	教職修士(専門職)	1.03 《1.00》	令和4年度	同上		
教育臨床心理学専攻										

既設 大学等 の 状 況	(修士課程)	2	5		10	修士(教育学)	0.90 ≪0.90≫	令和4年 度	同上	
	地域科学研究科									
	地域政策専攻						0.77 ≪0.70≫			
	(修士課程)	2	12	-	24	修士(地域科学)	0.25 ≪0.16≫	平成13 年度	同上	岐阜県岐阜市柳戸1番1
	地域文化専攻									
	(修士課程)	2	8	-	16	修士(地域科学)	1.56 ≪1.50≫	平成13 年度	同上	
	医学系研究科									
	医科学専攻									
	(博士課程)	4	47	-	188	博士(医学)	1.29 ≪1.14≫	平成14 年度	同上	岐阜県岐阜市柳戸1番1
	再生医科学専攻									
	(博士課程)	3	-	-	-	博士(再生医科学)	-	平成14 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
	看護学専攻									
	(修士課程)	2	8	-	16	修士(看護学)	1.06 ≪0.87≫	平成17 年度	同上	
	医療者教育学専攻									
	(修士課程)	2	6	-	12	修士(医療者教育学)	1.08 ≪1.08≫	令和2年 度	同上	
	工学研究科									
	数理デザイン工学専攻									
	(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18 年度	同上	岐阜県岐阜市柳戸1番1 平成29年度より学生募集停止
	環境エネルギーシステム専攻									
	(修士課程)	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成18 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
	生産開発システム工学専攻									
	(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年 度	同上	平成31年度より学生募集停止
	電子情報システム工学専攻									
	(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成3年 度	同上	平成31年度より学生募集停止
	環境エネルギーシステム専攻									
	(博士課程)	3	-	-	-	博士(工学)	-	平成11 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
	工学専攻									
	(博士課程)	3	23	-	69	博士(工学)	1.24 ≪0.98≫	平成31 年度	同上	
	岐阜大学・インド工科大学 グワハチイ校国際連携 統合機械工学専攻									
	(博士課程)	3	2	-	6	博士(学術)	1.50 ≪0.83≫	平成31 年度	同上	
岐阜大学・マレーシア 国民大学国際連携材料 科学工学専攻										
(博士課程)	3	2	-	6	博士(学術)	1.50 ≪1.00≫	平成31 年度	同上		
自然科学技術研究科										
生命科学・化学専攻										
(修士課程)	2	74	-	148	修士(工学または応用 生物科学)	1.33 ≪1.32≫	1.43 ≪1.43≫	平成29 年度	同上	岐阜県岐阜市柳戸1番1
生物生産環境科学専攻										
(修士課程)	2	42	-	84	修士(応用生物科学)	1.41 ≪1.36≫	平成29 年度	同上		
環境社会基盤工学専攻										
(修士課程)	2	29	-	58	修士(工学)	1.32 ≪1.29≫	平成29 年度	同上		
物質・ものづくり工学専攻										
(修士課程)	2	67	-	134	修士(工学)	1.45 ≪1.44≫	平成29 年度	同上		
知能理工学専攻										
(修士課程)	2	81	-	162	修士(工学)	1.30 ≪1.28≫	平成29 年度	同上		
エネルギー工学専攻										
(修士課程)	2	72	-	144	修士(工学)	1.20 ≪1.19≫	平成29 年度	同上		

岐阜大学・インド工科大学クワハティ校国際連携食品科学技術専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(食品科学技術)	0.80 《0.75》	平成31年度	同上	
共同獣医学研究科 共同獣医学専攻 (博士課程)	4	6	-	24	博士(獣医学)	1.04 《0.95》	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
連合農学研究科 生物生産科学専攻 (博士課程)	3	7	-	21	博士(農学)	2.05 《1.65》	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物環境科学専攻 (博士課程)	3	5	-	15	博士(農学)	1.61 《1.23》	平成31年度	同上	
生物資源科学専攻 (博士課程)	3	6	-	18	博士(農学)	1.80 《1.46》	平成31年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学クワハティ校国際連携食品科学技術専攻 (博士課程)	3	2	-	6	博士(学術)	2.94 《2.44》	平成31年度	同上	
連合獣医学研究科 獣医学専攻 (博士課程)	4	-	-	-	博士(獣医学)	1.50 《1.16》	平成21年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	平成31年度より学生募集停止
連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻 (博士課程)	3	3	-	9	博士(工学または薬科学)	1.27 《1.05》	平成19年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医療情報学専攻 (博士課程)	3	3	-	9	博士(医科学または薬科学)	1.33 《1.00》	平成19年度	同上	
大 学 等 の 名 称 名古屋大学									
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	取容定員充足率	開設年度	所在地	
文学部	4	125	3年次10人	520	学士(文学)	1.10 《1.05》	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次10人	520	学士(文学)	1.10 《1.05》	平成8年度	同上	
教育学部	4	65	3年次10人	280	学士(教育学)	1.12 《1.08》	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次10人	280	学士(教育学)	1.12 《1.08》	平成9年度	同上	
法学部	4	150	3年次10人	620	学士(法学)	1.09 《1.05》	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次10人	620	学士(法学)	1.09 《1.05》	平成9年度	同上	
経済学部	4	205	3年次10人	840	学士(経済学)	1.07 《1.03》	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
経済学科	4	140	-	560	学士(経済学)	1.08 《1.04》	昭和24年度	同上	
経営学科	4	65	-	260	学士(経済学)	1.06 《1.03》	昭和24年度	同上	
情報学部	4	135	3年次10人	560	学士(情報学)	1.10 《1.06》	平成29年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
自然情報学科	4	38	3年次4人	160	学士(情報学)	1.15 《1.12》	平成29年度	同上	
人間・社会情報学科	4	38	3年次4人	160	学士(情報学)	1.10 《1.06》	平成29年度	同上	
コンピュータ科学科	4	59	3年次2人	240	学士(情報学)	1.16 《1.11》	平成29年度	同上	
理学部	4	270	-	1,080	学士(理学)	1.11 《1.07》	昭和24年度	愛知県名古屋市中種区不老町1	
数学科	4	55	-	220	学士(理学)	1.15 《1.09》	平成7年度	同上	
物理学科	4	90	-	360	学士(理学)	1.10 《1.05》	昭和24年度	同上	
化学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.14 《1.11》	昭和24年度	同上	
生命理学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.10 《1.06》	平成8年度	同上	
地球惑星科学科	4	25	-	100	学士(理学)	1.10 《1.06》	平成4年度	同上	

医学部	4・6	307	2年次 4	1,459	学士(医学) 学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.05 ≪1.03≫	昭和24 年度	—	
医学科	6	107	2年次 4	659	学士(医学)	1.05 ≪1.03≫	昭和24 年度	愛知県名古屋市中区鶴舞町65	令和4年度編入学定員変更(3年次5名→2年次4名)
保健学科	4	200	—	800	学士(看護学) 学士(保健学) 学士(リハビリテーション学)	1.04 ≪1.02≫	平成9年 度	愛知県名古屋市中区大幸南1-1-20	
工学部	4	680	—	2,720	学士(工学)	1.07 ≪1.03≫	昭和24 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1	
物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成9年 度	同上	平成29年度より学生募集停止
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成7 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成8年 度	同上	平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	—	396	学士(工学)	1.07 ≪1.05≫	平成29 年度	同上	
物理工学科	4	83	—	332	学士(工学)	1.09 ≪1.02≫	平成29 年度	同上	
マテリアル工学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.07 ≪1.02≫	平成29 年度	同上	
電気電子情報工学科	4	118	—	472	学士(工学)	1.07 ≪1.04≫	平成29 年度	同上	
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.06 ≪1.04≫	平成29 年度	同上	
エネルギー理工学科	4	40	—	160	学士(工学)	1.04 ≪1.02≫	平成29 年度	同上	
環境土木・建築学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07 ≪1.04≫	平成29 年度	同上	
農学部	4	170	—	680	学士(農学)	1.08 ≪1.06≫	昭和26 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1	
生物環境科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.07 ≪1.04≫	平成18 年度	同上	
資源生物科学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.04 ≪1.02≫	平成18 年度	同上	
応用生命科学科	4	80	—	320	学士(農学)	1.12 ≪1.09≫	平成18 年度	同上	
文学研究科							昭和28 年度 平成12 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
人文学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(文学) 博士(歴史学)	—	—	—	
人文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程)	2	104	—	208	修士(文学) 修士(歴史学) 修士(学術)	1.12	平成29 年度 平成29 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	61	—	183	博士(文学) 博士(歴史学) 博士(学術)	1.05			
教育発達科学研究科 教育学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(教育学) 修士(教育)	0.87	昭和28年度 (平成12年 度名称変更) 平成12 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(教育学) 博士(教育)	2.00			
心理発達科学専攻 (博士前期課程)	2	22	—	44	修士(心理学) 修士(臨床心理学)	0.88	平成12 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1	
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(心理学)	1.55			
法学研究科 総合法政専攻 (博士前期課程)	2	35	—	70	修士(法学) 修士(比較法学) 修士(現代法学)	1.04	昭和28 年度 平成16 年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1 同上	

(博士後期課程)	3	17	—	51	博士 (法学)	1.11		
					博士 (比較法学)			
					博士 (現代法学)			
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	3	50	—	150	法務博士 (専門職)	0.96	平成16年度	同上
経済学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1
社会経済システム専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (経済学)	1.43	平成12年度	同上
(博士後期課程)	3	15	—	45	博士 (経済学)	0.77		
産業経営システム専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (経済学)	0.96	平成12年度	同上
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (経済学)	0.66		
情報学研究科							平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1
数理情報学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (情報学)	0.96	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (情報学)	1.66		
					博士 (学術)			
複雑系科学専攻 (博士前期課程)	2	36	—	72	修士 (情報学)	1.33	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (情報学)	1.00		
					博士 (学術)			
社会情報学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (情報学)	0.86	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (情報学)	1.00		
					博士 (学術)			
心理・認知科学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (情報学)	0.93	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (情報学)	1.14		
					博士 (学術)			
情報システム学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士 (情報学)	1.09	平成29年度	愛知県名古屋千種区不老町1
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (情報学)	0.74		
					博士 (学術)			
知能システム学専攻 (博士前期課程)	2	29	—	58	修士 (情報学)	1.39	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (情報学)	2.86		
					博士 (学術)			
理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋千種区不老町1
素粒子宇宙物理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成7年度	同上
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—		
物質物理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成7年度	同上
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—		
生命理学専攻 (博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (理学)	—	平成8年度	同上

令和4年度より学生募集停止

令和4年度より学生募集停止

令和4年度より学生募集停止

(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (理学)	—	—	—	—	—	—	—	—
理学専攻						令和4年度	同上						令和4年度新設
(博士前期課程)	2	188	—	376	修士 (理学)	1.10							
(博士後期課程)	3	70	—	140	博士 (理学)	0.83							
名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻						平成28年度	同上						
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (理学)	0.00							
医学系研究科						昭和30年度 (平成14年度 名称変更)	—						
総合医学専攻						平成25年度							愛知県名古屋市中 区鶴舞町65
(博士課程)	4	151	—	604	博士 (医学)	1.14							
名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻						平成27年度	同上						
(博士課程)	4	4	—	16	博士 (医学)	0.25							
名古屋大学・ヘルンツ 大学国際連携総合医学専 攻						平成29年度	同上						
(博士課程)	4	4	—	16	博士 (医学)	0.12							
名古屋大学・フライブルク大学 国際連携総合医学専攻						平成30年度	同上						
(博士課程)	4	2	—	8	博士 (医学)	0.00							
医科学専攻						平成13年度	同上						
(修士課程)	2	20	—	40	修士 (医科学)	1.07							
医療行政コース	1	10	—	10	修士 (医療行政 学)	0.50							
総合保健学専攻						令和2年度							愛知県名古屋市中東 区大幸南1-1-20
(博士前期課程)	2	70	—	140	修士 (看護学)	0.88							
(博士後期課程)	3	20	—	60	修士 (医療技術 学) 修士 (リハビリテーション療 法学)	0.90							
看護学専攻						平成14年度	同上						令和2年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (看護学)	—							
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (看護学)	—							
リハビリテーション療法学専攻						平成14年度	同上						令和2年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (リハビリテーション療 法学)	—							
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (リハビリテーション療 法学)	—							
工学研究科						昭和28年度 (平成16年度 再編)							
結晶材料工学専攻						昭和28年度 区不老町1							愛知県名古屋市千種 区不老町1
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—							平成29年度より学生募集停止
有機・高分子化学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	0.92							
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.54							
応用物質化学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.07							
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	1.16							
生命分子工学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	28	—	56	修士 (工学)	0.98							
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (工学)	0.88							
応用物理学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (工学)	1.02							
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.74							
物質科学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (工学)	0.92							
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.48							
材料デザイン工学専攻						平成29年度	同上						
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	0.94							
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (工学)	0.72							
物質プロセス工学専攻						平成29年度	同上						

	(博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (工学)	1.15			
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	1.66			
	化学システム工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.07			
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (工学)	1.94			
	電気工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.16			
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.88			
	電子工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (工学)	1.17			
	(博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (工学)	0.92			
	情報・通信工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	1.06			
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.83			
	機械システム工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	66	—	132	修士 (工学)	1.31			
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士 (工学)	0.97			
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	36	—	72	修士 (工学)	1.16			
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	1.16			
	航空宇宙工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	38	—	76	修士 (工学)	1.42			
	(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	1.08			
	エネルギー理工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (工学)	1.11			
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (工学)	0.60			
	総合エネルギー工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (工学)	1.11			
	(博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (工学)	0.33			
	土木工学専攻							平成29年度	同上	
	(博士前期課程)	2	36	—	72	修士 (工学)	1.08			
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	1.51			
	名古屋大学・チュフロンコン大 学国際連携サステイナブル材料 工学専攻							令和4年 度	同上	令和4年度新設
	(博士後期課程)	3	5	—	10	博士 (工学)	0.53			
	生命農学研究科							昭和30年度 (平成47年 名称変更)	愛知県名古屋千種 区不老町1	
	森林・環境資源科学専攻							平成30 年度	同上	
	(博士前期課程)	2	27	—	54	修士 (農学)	1.38			
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (農学)	1.77			
	植物生産科学専攻							平成30 年度	同上	
	(博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (農学)	1.26			
	(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (農学)	1.11			
	動物科学専攻							平成30 年度	同上	
	(博士前期課程)	2	28	—	56	修士 (農学)	1.03			
	(博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (農学)	1.23			
	応用生命科学専攻							平成30 年度	同上	
	(博士前期課程)	2	66	—	132	修士 (農学)	1.12			
	(博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (農学)	0.77			
	名古屋大学・カセサート大 学国際連携生命農学専攻							平成30 年度	同上	
	(博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (農学)	0.50			
	名古屋大学・西オーストラ リア大学国際連携生命農学専攻							平成31 年度	同上	
	(博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (農学)	0.16			
	国際開発研究科							平成3年 度	愛知県名古屋千種 区不老町1	
	国際開発専攻							平成3年 度	同上	平成30年度より学生募集停止

(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (国際開発学)	—	—	—	—
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士 (学術) 博士 (国際開発学) 博士 (学術)	—	—	—	—
国際協力専攻						平成4年度	同上		平成30年度より学生募集停止
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (国際開発学)	—	—	—	—
(博士後期課程)	3	—	—	—	修士 (学術) 博士 (国際開発学) 博士 (学術)	—	—	—	—
国際コミュニケーション専攻						平成5年度	同上		平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (学術)	—	—	—	—
国際開発協力専攻						平成30年度	同上		
(博士前期課程)	2	44	—	88	修士 (国際開発学)	1.14			
(博士後期課程)	3	22	—	66	修士 (学術) 博士 (国際開発学) 博士 (学術)	1.27			
多元数理科学研究科						平成7年度	愛知県名古屋市中種 区不老町1		
多元数理科学専攻						平成7年度	同上		
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (数学)	1.17			
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士 (数学)	0.73			
環境学研究科						平成13年度	愛知県名古屋市中種 区不老町1		
地球環境科学専攻						平成13年度	同上		
(博士前期課程)	2	53	—	106	修士 (環境学)	1.07			
(博士後期課程)	3	24	—	72	修士 (理学) 博士 (環境学) 博士 (理学)	0.90			
都市環境学専攻						平成13年度	同上		
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (環境学) 修士 (工学) 修士 (建築学)	1.29			
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士 (環境学) 博士 (工学) 博士 (建築学)	0.63			
社会環境学専攻						平成13年度	同上		
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士 (環境学) 修士 (社会学) 修士 (地理学) 修士 (法学) 修士 (経済学)	0.81			
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (環境学) 博士 (社会学) 博士 (地理学) 博士 (法学) 博士 (経済学)	1.35			
情報科学研究科						平成15年度	愛知県名古屋市中種 区不老町1		平成29年度より学生募集停止
情報システム学専攻						平成15年度	同上		
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (情報科学) 修士 (工学) 修士 (学術)	—			
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—			

メディア科学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—	平成15年度	同上
創薬科学研究科 基盤創薬学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士 (創薬科学)	1.04	平成24年度	愛知県名古屋市中千種区不老町1 同上
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (創薬科学)	0.90	平成24年度 平成26年度	
附属施設の概要	<p>名称：教育学部附属小中学校 目的：小学校教育、中学校教育、研究及び教員養成 所在地：岐阜県岐阜市加納大手町74番地 設置年月：令和2年4月 規模等（延面積）：13,531㎡</p> <p>名称：医学部附属病院 目的：診療、医学の教育及び研究 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：昭和42年6月 規模等（延面積）：74,874㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 美濃加茂農場 目的：農学、獣医学の教育及び研究 所在地：岐阜県美濃加茂市牧野1918-1 設置年月：平成16年4月 規模等（延面積）：建物 1,690㎡ 土地 95,831㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 位山演習林 目的：農学の教育及び研究 所在地：岐阜県下呂市萩原町山之口 設置年月：平成16年4月 規模等（延面積）：建物 1,103㎡ 土地 6,424,445㎡</p> <p>名称：応用生物科学部附属動物病院 目的：診療、獣医学の教育及び研究 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成16年4月 規模等（延面積）：3,681㎡</p> <p>名称：教育推進・学生支援機構 目的：教育推進、学生支援 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成25年12月 規模等（延面積）：7,144㎡</p> <p>名称：グローバル推進機構 目的：国際協働教育推進、地域国際化推進、留学推進、国際企画 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成31年4月 規模等（延面積）：1,045㎡</p> <p>名称：学術研究・産学官連携推進本部 目的：研究推進、教育研究活動支援、産学連携・地域連携推進 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：令和2年4月 規模等（延面積）：11,062㎡</p> <p>名称：高等研究院 目的：研究支援 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：令和2年4月 規模等（延面積）：11,062㎡</p> <p>名称：地域協学センター 目的：地域協働 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成25年12月 規模等（延面積）：336㎡</p> <p>名称：環境社会共生体研究センター 目的：環境問題、気候変動的応等への研究支援 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 (高山試験地 岐阜県高山市岩井町919の47) 設置年月：令和6年4月 規模等（延面積）：1,890㎡</p> <p>名称：保健管理センター 目的：学生及び教職員の健康管理 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：昭和49年4月 規模等（延面積）：525㎡</p> <p>名称：医学教育開発研究センター 目的：医学教育に関する研修、調査分析等 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1 設置年月：平成13年4月 規模等（延面積）：535㎡</p>							

名 称 : 糖鎖生命コア研究所 目 的 : 糖鎖に係る先端研究 所 在 地 : 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 : 令和3年1月 規模等 (延面積) : 4,296㎡

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表 (岐阜大学)

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岐阜大学				岐阜大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	220	—	880	学校教育教員養成課程	220	—	880	
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		臨時定員増の延長がない場合 定員変更 (△25)
医学科 (6年制)	110	—	660	医学科 (6年制)	85	—	510	
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
工学部		3年次		工学部		3年次		工学部
社会基盤工学科	68	10	292	社会基盤工学科	68	10	292	【8】※1
機械工学科	134	10	556	機械工学科	134	10	556	【4】※1
化学・生命工学科	154	2	620	化学・生命工学科	154	2	620	【4】※1
電気電子・情報工学科	174	8	712	電気電子・情報工学科	194	8	792	定員変更(20)(意見伺い)【4】※1
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命科学課程	85	5	350	応用生命科学課程	0	—	0	令和7年4月学生募集停止
生産環境科学課程	85	5	350	生産環境科学課程	0	—	0	令和7年4月学生募集停止
				応用生命化学科	58	3	238	学科の設置(事前相談)【3】※1
				食農生命科学科	59	4	244	学科の設置(事前相談)【4】※1
				生物圏環境学科	53	3	218	学科の設置(事前相談)【3】※1
共同獣医学科 (6年制)	30	—	180	共同獣医学科 (6年制)	30	—	180	
社会システム経営学環	【30】	—	【120】	社会システム経営学環	【30】	—	【120】	
計	1,240	50	5,340	計	1,235	50	5,270	
岐阜大学大学院				岐阜大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻 (P)	40	—	80	教職実践開発専攻 (P)	40	—	80	
教育臨床心理学専攻 (M)	5	—	10	教育臨床心理学専攻 (M)	5	—	10	
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻 (M)	12	—	24	地域政策専攻 (M)	13	—	26	定員変更(1)【1】※2
地域文化専攻 (M)	8	—	16	地域文化専攻 (M)	8	—	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻 (4年制D)	47	—	188	医科学専攻 (4年制D)	47	—	188	
看護学専攻 (M)	8	—	16	看護学専攻 (M)	8	—	16	
医療者教育学専攻 (M)	6	—	12	医療者教育学専攻 (M)	6	—	12	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻 (D)	23	—	69	工学専攻 (D)	23	—	69	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻 (D)	2	—	6	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻 (D)	2	—	6	
岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻 (D)	2	—	6	岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻 (D)	2	—	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻 (M)	74	—	148	生命科学・化学専攻 (M)	74	—	148	
生物生産環境科学専攻 (M)	42	—	84	生物生産環境科学専攻 (M)	44	—	88	定員変更(2)【2】※2
環境社会基盤工学専攻 (M)	29	—	58	環境社会基盤工学専攻 (M)	32	—	64	定員変更(3)【3】※2
物質・ものづくり工学専攻 (M)	67	—	134	物質・ものづくり工学専攻 (M)	67	—	134	
知能理工学専攻 (M)	81	—	162	知能理工学専攻 (M)	91	—	182	定員変更(10)
エネルギー工学専攻 (M)	72	—	144	エネルギー工学専攻 (M)	72	—	144	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (M)	10	—	20	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (M)	10	—	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻 (4年制D)	6	—	24	共同獣医学専攻 (4年制D)	6	—	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻 (D)	7	—	21	生物生産科学専攻 (D)	7	—	21	
生物環境科学専攻 (D)	5	—	15	生物環境科学専攻 (D)	5	—	15	
生物資源科学専攻 (D)	6	—	18	生物資源科学専攻 (D)	6	—	18	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (D)	2	—	6	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻 (D)	2	—	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻 (D)	3	—	9	創薬科学専攻 (D)	3	—	9	
医療情報学専攻 (D)	3	—	9	医療情報学専攻 (D)	3	—	9	
計	560	—	1,279	計	576	—	1,311	研究科の設置(事前相談)

※1 【 】内は社会システム経営学環に関する連携協力学部定員内訳
 ※2 【 】内は社会システム経営学院に関する連携協力研究科定員内訳

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(名古屋大学)

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部		3年次		文学部		3年次		
人文学科	125	10	520	人文学科	125	10	520	
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
人間発達科学科	65	10	280	人間発達科学科	65	10	280	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法律・政治学科	150	10	620	法律・政治学科	150	10	620	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科	140	—	560	経済学科	140	—	560	
経営学科	65	—	260	経営学科	65	—	260	
学部共通	—	10	20	学部共通	—	10	20	
情報学部		3年次		情報学部		3年次		
自然情報学科	38	4	160	自然情報学科	44	4	184	定員変更(6)(意見伺い)
人間・社会情報学科	38	4	160	人間・社会情報学科	38	4	160	
コンピュータ科学科	59	2	240	コンピュータ科学科	67	4	276	定員変更(8)(編入2)(意見伺い)
理学部				理学部				
数理学科	55	—	220	数理学科	55	—	220	
物理学科	90	—	360	物理学科	90	—	360	
化学科	50	—	200	化学科	50	—	200	
生命理学科	50	—	200	生命理学科	50	—	200	
地球惑星科学科	25	—	100	地球惑星科学科	25	—	100	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科(6年制)	107	4	662	医学科(6年制)	100	4	620	臨時定員増の延長がない場合 定員変更(△7)
保健学科	200	—	800	保健学科	200	—	800	
工学部				工学部				
化学生命工学科	99	—	396	化学生命工学科	99	—	396	
物理工学科	83	—	332	物理工学科	83	—	332	
マテリアル工学科	110	—	440	マテリアル工学科	110	—	440	
電気電子情報工学科	118	—	472	電気電子情報工学科	128	—	512	定員変更(10)(意見伺い)
機械・航空宇宙工学科	150	—	600	機械・航空宇宙工学科	160	—	640	定員変更(10)(意見伺い)
エネルギー理工学科	40	—	160	エネルギー理工学科	40	—	160	
環境土木・建築学科	80	—	320	環境土木・建築学科	80	—	320	
農学部				農学部				
生物環境科学科	35	—	140	生物環境科学科	35	—	140	
資源生物科学科	55	—	220	資源生物科学科	55	—	220	
応用生命科学科	80	—	320	応用生命科学科	80	—	320	
合計	2,107	54	8,762	合計	2,134	56	8,860	
名古屋大学大学院				名古屋大学大学院				
人文学研究科				人文学研究科				
人文学専攻(M)	104	—	208	人文学専攻(M)	104	—	208	
人文学専攻(D)	61	—	183	人文学専攻(D)	61	—	183	
教育発達科学研究科				教育発達科学研究科				
教育科学専攻(M)	32	—	64	教育科学専攻(M)	32	—	64	
教育科学専攻(D)	16	—	48	教育科学専攻(D)	16	—	48	
心理発達科学専攻(M)	22	—	44	心理発達科学専攻(M)	22	—	44	
心理発達科学専攻(D)	15	—	45	心理発達科学専攻(D)	15	—	45	
法学研究科				法学研究科				
総合法政専攻(M)	35	—	70	総合法政専攻(M)	35	—	70	
総合法政専攻(D)	17	—	51	総合法政専攻(D)	17	—	51	
実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	—	150	実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	50	—	150	
経済学研究科				経済学研究科				
社会経済システム専攻(M)	30	—	60	社会経済システム専攻(M)	30	—	60	
社会経済システム専攻(D)	15	—	45	社会経済システム専攻(D)	15	—	45	
産業経営システム専攻(M)	14	—	28	産業経営システム専攻(M)	14	—	28	
産業経営システム専攻(D)	7	—	21	産業経営システム専攻(D)	7	—	21	
情報学研究科				情報学研究科				
数理情報学専攻(M)	14	—	28	数理情報学専攻(M)	14	—	28	
数理情報学専攻(D)	4	—	12	数理情報学専攻(D)	4	—	12	
複雑系科学専攻(M)	36	—	72	複雑系科学専攻(M)	44	—	88	定員変更(8)
複雑系科学専攻(D)	8	—	24	複雑系科学専攻(D)	8	—	24	
社会情報学専攻(M)	18	—	36	社会情報学専攻(M)	18	—	36	
社会情報学専攻(D)	5	—	15	社会情報学専攻(D)	5	—	15	
心理・認知科学専攻(M)	15	—	30	心理・認知科学専攻(M)	15	—	30	
心理・認知科学専攻(D)	7	—	21	心理・認知科学専攻(D)	7	—	21	
情報システム学専攻(M)	32	—	64	情報システム学専攻(M)	33	—	66	定員変更(1)
情報システム学専攻(D)	9	—	27	情報システム学専攻(D)	9	—	27	
知能システム学専攻(M)	29	—	58	知能システム学専攻(M)	40	—	80	定員変更(11)
知能システム学専攻(D)	10	—	30	知能システム学専攻(D)	10	—	30	
理学研究科				理学研究科				
理学専攻(M)	188	—	376	理学専攻(M)	188	—	376	
理学専攻(D)	70	—	210	理学専攻(D)	70	—	210	
名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	—	6	名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携理学専攻(D)	2	—	6	

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(名古屋大学)

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
医学系研究科				医学系研究科				
総合医学専攻(D)	151	—	604	総合医学専攻(D)	151	—	604	
名古屋大学・アテレード大学	4	—	16	名古屋大学・アテレード大学	4	—	16	
国際連携総合医学専攻(D)				国際連携総合医学専攻(D)				
名古屋大学・ルンド大学	4	—	16	名古屋大学・ルンド大学	4	—	16	
国際連携総合医学専攻(D)				国際連携総合医学専攻(D)				
名古屋大学・フライブルク大	2	—	8	名古屋大学・フライブルク大	2	—	8	
学国際連携総合医学専攻(D)				学国際連携総合医学専攻				
医科学専攻(修士課程)	20	—	40	医科学専攻(修士課程)	20	—	40	
医科学専攻医療行政コース	10	—	10	医科学専攻医療行政コース	10	—	10	
総合保健学専攻(M)	70	—	140	総合保健学専攻(M)	70	—	140	
総合保健学専攻(D)	20	—	60	総合保健学専攻(D)	20	—	60	
工学研究科				工学研究科				
有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68	有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68	
有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24	有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24	
応用物質化学専攻(M)	34	—	68	応用物質化学専攻(M)	34	—	68	
応用物質化学専攻(D)	8	—	24	応用物質化学専攻(D)	8	—	24	
生命分子工学専攻(M)	28	—	56	生命分子工学専攻(M)	28	—	56	
生命分子工学専攻(D)	6	—	18	生命分子工学専攻(D)	6	—	18	
応用物理学専攻(M)	39	—	78	応用物理学専攻(M)	39	—	78	
応用物理学専攻(D)	9	—	27	応用物理学専攻(D)	9	—	27	
物質科学専攻(M)	39	—	78	物質科学専攻(M)	39	—	78	
物質科学専攻(D)	9	—	27	物質科学専攻(D)	9	—	27	
材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68	材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68	
材料デザイン工学専攻(D)	6	—	20	材料デザイン工学専攻(D)	6	—	20	
物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70	物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70	
物質プロセス工学専攻(D)	8	—	25	物質プロセス工学専攻(D)	8	—	25	
化学システム工学専攻(M)	34	—	68	化学システム工学専攻(M)	34	—	68	
化学システム工学専攻(D)	6	—	20	化学システム工学専攻(D)	6	—	20	
電気工学専攻(M)	34	—	68	電気工学専攻(M)	34	—	68	
電気工学専攻(D)	9	—	27	電気工学専攻(D)	9	—	27	
電子工学専攻(M)	47	—	94	電子工学専攻(M)	47	—	94	
電子工学専攻(D)	13	—	39	電子工学専攻(D)	13	—	39	
情報・通信工学専攻(M)	33	—	66	情報・通信工学専攻(M)	33	—	66	
情報・通信工学専攻(D)	8	—	24	情報・通信工学専攻(D)	8	—	24	
機械システム工学専攻(M)	66	—	132	機械システム工学専攻(M)	66	—	132	
機械システム工学専攻(D)	14	—	42	機械システム工学専攻(D)	14	—	42	
マイクロ・ナノ機械理工学	36	—	72	マイクロ・ナノ機械理工学	36	—	72	
専攻(M)				専攻(M)				
マイクロ・ナノ機械理工学	8	—	24	マイクロ・ナノ機械理工学	8	—	24	
専攻(D)				専攻(D)				
航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76	航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76	
航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24	航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24	
エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36	エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36	
エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15	エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15	
総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36	総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36	
総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12	総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12	
土木工学専攻(M)	36	—	72	土木工学専攻(M)	36	—	72	
土木工学専攻(D)	9	—	27	土木工学専攻(D)	9	—	27	
名古屋大学・チュラロンコン	5	—	15	名古屋大学・チュラロンコン	5	—	15	
大学国際連携サステイナブル				大学国際連携サステイナブル				
材料工学専攻				材料工学専攻				
生命農学研究科				生命農学研究科				
森林・資材科学専攻(M)	27	—	54	森林・資材科学専攻(M)	27	—	54	
森林・資材科学専攻(D)	6	—	18	森林・資材科学専攻(D)	6	—	18	
植物生産科学専攻(M)	30	—	60	植物生産科学専攻(M)	30	—	60	
植物生産科学専攻(D)	9	—	27	植物生産科学専攻(D)	9	—	27	
動物科学専攻(M)	28	—	56	動物科学専攻(M)	28	—	56	
動物科学専攻(D)	7	—	21	動物科学専攻(D)	7	—	21	
応用生命科学専攻(M)	66	—	132	応用生命科学専攻(M)	66	—	132	
応用生命科学専攻(D)	16	—	48	応用生命科学専攻(D)	16	—	48	
名古屋大学・カセサート大学	2	—	6	名古屋大学・カセサート大学	2	—	6	
国際連携生命農学専攻(D)				国際連携生命農学専攻(D)				
名古屋大学・西オーストラリア	2	—	6	名古屋大学・西オーストラリア	2	—	6	
大学国際連携生命農学専攻				大学国際連携生命農学専攻				
国際開発研究科				国際開発研究科				
国際開発協力専攻(M)	44	—	88	国際開発協力専攻(M)	44	—	88	
国際開発協力専攻(D)	22	—	66	国際開発協力専攻(D)	22	—	66	
多元数理科学研究科				多元数理科学研究科				
多元数理科学専攻(M)	47	—	94	多元数理科学専攻(M)	47	—	94	
多元数理科学専攻(D)	30	—	90	多元数理科学専攻(D)	30	—	90	
環境学研究科				環境学研究科				
地球環境科学専攻(M)	53	—	106	地球環境科学専攻(M)	53	—	106	
地球環境科学専攻(D)	24	—	72	地球環境科学専攻(D)	24	—	72	
都市環境学専攻(M)	47	—	94	都市環境学専攻(M)	47	—	94	
都市環境学専攻(D)	21	—	63	都市環境学専攻(D)	21	—	63	
社会環境学専攻(M)	27	—	54	社会環境学専攻(M)	27	—	54	
社会環境学専攻(D)	13	—	39	社会環境学専攻(D)	13	—	39	
創薬科学研究科				創薬科学研究科				
基盤創薬学専攻(M)	32	—	64	基盤創薬学専攻(M)	32	—	64	
基盤創薬学専攻(D)	10	—	30	基盤創薬学専攻(D)	10	—	30	
合計	2,455	—	5,848	合計	2,475	—	5,888	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
応用生物科学部 応用生命科学課程	学士 (応用生物学)	農学関係	応用生命化学科	15	7	応用生物科学部 応用生命化学科	学士 (応用生物学)	農学関係	応用生命科学課程	15	7
			食農生命科学科	8	3				生産環境科学課程	4	2
			計	23	10				計	19	9
応用生物科学部 生産環境科学課程	学士 (応用生物学)	農学関係	応用生命化学科	4	2	応用生物科学部 食農生命科学科	学士 (応用生物学)	農学関係	応用生命科学課程	8	3
			食農生命科学科	11	6				生産環境科学課程	11	6
			生物圏環境学科	17	6						
			退職	3	3				計	19	9
			計	35	17						
						応用生物科学部 生物圏環境学科	学士 (応用生物学)	農学関係	生産環境科学課程	17	6
									計	17	6

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成16年4月	応用生物科学部 食品生命科学課程 設置	農学関係	設置届出(課程)
	応用生物科学部 生産環境科学課程 設置	農学関係	設置届出(課程)
平成23年4月	応用生物科学部 食品生命科学課程 → 応用生命科学課程	農学関係	名称変更(課程)
令和7年4月	応用生物科学部 応用生命化学科 設置	農学関係	設置届出(学科)
	応用生物科学部 食農生命科学科 設置	農学関係	設置届出(学科)
	応用生物科学部 生物圏環境学科 設置	農学関係	設置届出(学科)

教 育 課 程 等 の 概 要

(応用生物科学部生物圏環境学科)

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主授教科	単位数				授業形態	実験・実習	基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義			演習	教授	准教授	講師	助教		助手	
教養科目 人文科学科目	初年次セミナー	1前		2			○							1			
	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前			2		○							1			
	哲学入門(西洋哲学入門)	1後			2		○							1			
	哲学入門(批判的思考(クリティカルシンキング))	1後			2		○							1			
	人間・死生学(現代人間論)	1後			2		○							1			
	近現代思想(日本の近現代思想)	1後			2		○							1			
	近現代思想(自由と現代社会)	1前			2		○							1			
	近現代思想(西洋近現代思想)	1後			2		○							1			
	科学論(生命と癒しの科学論)	1前			2		○							1			
	東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前			2		○							1			
	東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前			2		○							1			
	倫理学(倫理学とは何か)	1前			2		○							1			
	宗教学(比較宗教学概論)	1後			2		○							1			
	宗教学(社会問題と宗教)	1後			2		○							1			
	歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前			2		○							1		
		西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前			2		○							1		
		西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前			2		○							1		
		中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後			2		○							1		
		中国・朝鮮半島史(中国史)	1後			2		○							1		
		世界近現代史(現代国際関係史)	1前			2		○							1		
		世界近現代史(アメリカ概論)	1前			2		○							1		
		世界近現代史(ドイツ文化史)	1後			2		○							1		
		日本史(日本の歴史)	1後			2		○							1		
		日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後			2		○							1		
		民俗学・人類学(人類学入門)	1後			2		○							1		
		文学分野	文学(文学とは何か)	1前			2		○							1	
			外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前			2		○							1	
			外国文学(英米文学を讀む)	1前			2		○							1	
			外国文学(三国志時代の文学)	1後			2		○							1	
	外国文学(西洋文学論)		1後			2		○							1		
	外国文学(ロシア革命と文学)		1後			2		○							1		
	言語分野	日本語学入門(日本語学入門)	1前			2		○							1		
		言語学入門(一緒に学ばまい! 岐阜の方言と南欧の言語)	1前			2		○							1		
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前			2		○							1		
		言語学(フランス語論)	1前			2		○							1		
		言語学(児童の文章表現)	1後			2		○							1		
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1前			2		○							1		
		言語学(日本語再発見)	1前			2		○							1		
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前			2		○							1		
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前			2		○							1		
		日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)	1後			2		○							1	メディア	
		日本語表現論(あいみよんの歌詞から学ぶ日本語表現)	1後			2		○							1		
		分科心理学	心理学入門(心理学概論)	1前			2		○							5	オムニバス
	心理学入門(社会心理学)		1後			2		○							1		
	心理学(幼児発達支援入門)		1後			2		○							1		
	心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)		2前			2		○							1		
	文化・芸術分野	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)	1前			2		○							2	共同	
		西洋文化論(西洋建築史)	1後			2		○							1		
		西洋文化論(ロシアの自然と言語)	1後			2		○							2	共同	
		日本文化論(日本語文化論:国語教育史)	1前			2		○							1		
		日本文化論(礼儀作法の理論と背景)	1前			2		○							1		
		現代文化論(現代の文化研究)	1後			2		○							1		
		現代文化論(科学技術と人間社会)	1前			2		○							5	オムニバス	
		異文化論(社会の中の言語・言語の中の社会)	1後			2		○							1		
		異文化論(リトアニア学)	1前			2		○							1		
		異文化論(グローバル人材としての諸外国理解)	1後			2		○							9	オムニバス	
		美術論(美術史)	1前			2		○							1		
		美術論(デザイン論)	1前			2		○							1		
		音楽論(オーケストラ音楽を聴く)	1前			2		○							1		
		音楽論(実用作曲法)	1前			2		○							1		
		音楽論(ドイツ歌曲への誘い)	1前			2		○							1		
		音楽論(音楽への誘い)	1後			2		○							1		
	音楽論(音楽芸術文化概論)	1後			2		○							1			
	音楽論(ピアノ基礎(運弾))	1前			2		○							1			
	社会科学科目	法学入門(法とは何か)	1前			2		○							1		
		日本国憲法(入権)	1前			2		○							1		
		日本国憲法(教職のための憲法)	1後			2		○							1		
		日本国憲法(教職のための憲法)	1後			2		○							1		
		民法(財産と法)	1後			2		○							1		
		社会法(労働と法)	1後			2		○							1		
		裁判法(市民と裁判)	1後			2		○							1		
		刑事法(犯罪と刑罰について)	1後			2		○							1		
		知的財産権法(知的財産権法入門)	1前			2		○							3	オムニバス	
		現代政治論(近代日本の政治と行政)	1後			2		○							1		
		現代政治論(現代日本の政治)	1前			2		○							1		
		現代政治論(日本の政治と世界)	1後			2		○							1		
	野学経済	平和学(国際平和学)	1前			2		○							1		
		経済学入門(現代の日本経済)	1前			2		○							1		
		経済学入門(社会における経済の仕組み)	1前			2		○							1		
	経営分野	マクロ経済学(経済政策)	1後			2		○							1		
		経営学入門(はじめての経営学)	1前			2		○							2	オムニバス	
		経営学入門(ファイナンス・アカウンティング入門)	1後			2		○							2	オムニバス	
		経営学入門(現代経営学入門)	1前			2		○							1		
		マネージメント論(マーケティング論入門)	1前			2		○							1		
		マネージメント論(マネージメントシステムと監査)	1前			2		○							1		
		マネージメント論(めざせソーシャルビジネス起業)	1前			2		○							1		
	マネージメント論(PBLマーケティング)	1前			2		○							1			
	社会学分野	社会学入門(社会階層論)	1前			2		○							1		
		社会学入門(やさしいジェンダー学入門)	1後			2		○							1		
		社会学入門(社会の中の看護)	1後			2		○							6	オムニバス	
		社会学入門(時事問題で学ぶフェシテーション)	1前			2		○							1		
		現代社会論(少子高齢化社会)	1前			2		○							1		
		現代社会論(現代を生きる家族)	1前			2		○							5	オムニバス	
		現代社会論(社会の基盤)	1後			2		○							7	オムニバス	
		現代社会論(宇宙時代を生きる)	1後			2		○							1		
		現代社会論(Amishのライフスタイルから現代社会を考える)	1後			2		○							1		
		現代社会論(ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論))	1後			2		○							12	オムニバス	
	現代社会論(情報社会論)	1前			2		○							1			

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)
自然科学科目	分地域域論・地理学	メディア論(メディア論の基礎)	1前	2	0	0									1	
		メディア論(メディアの特徴・歴史・現状・課題)	1前	2	0	0									1	
		メディア論(国際メディア論)	1後	2	0	0									1	
	分地域域論・地理学	地理学(地図・環境・立地・都市)	1前	2	0	0									1	
		地域論(環境学入門)	1前	2	0	0									1	
	分教育学	教育論(障害児教育臨床学)	1前	2	0	0									1	
		教育論(教育哲学)	1前	2	0	0									1	
		教育論(学校の社会的意味を問う)	1後	2	0	0									1	
		教育論(特別支援教育ベーシック)	1前	2	0	0									1	
	野総合社会分	社会総合(生活の経済)	1前	2	0	0									1	
		社会総合(環境・CSR(企業の社会的責任)とマネジメント)	1前	2	0	0									1	集中
		安全科学(交通安全の科学)	1前	2	0	0									1	
		安全科学(社会安全学入門)	1後	2	0	0									1	
	数学分野	教養の数学(数学概論(実数と数列))	1後	2	0	0									1	
		教養の数学(コンピュータのための数学概論)	1後	2	0	0									1	
		教養の数学(図学)	1後	2	0	0									1	
		基礎代数学(数学概論I)	1後	2	0	0									2	オムニバス
		基礎代数学(古典数学へのいささない)	1前	2	0	0									1	
		基礎解析学(解析学の基礎)	1前	2	0	0									1	
		基礎解析学(微積分学)	1前	2	0	0									1	
		基礎統計学(統計学の基礎)	1後	2	0	0									1	
		基礎統計学(実感する統計学)	1後	2	0	0									1	
		物理学入門(現代物理学の基礎(相対論と量子論入門))	1前	2	0	0									1	
		物理学入門(物理実験で調べてみよう)	1前	2	0	0									1	
		物理学分野	教養の物理学(電の科学)	1前	2	0	0									1
	教養の物理学(物性の力学)		1後	2	0	0			1	1					1	オムニバス
	教養の物理学(力学現象の数学的見方)		1後	2	0	0									1	
	教養の物理学(目撃上から始める力学)		1前	2	0	0									1	
	現代物理学(表面張力の物理学)		1後	2	0	0									1	
	化学入門(日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ)		1前	2	0	0									1	
	化学分野	化学入門(身近なものから学ぶ化学)	1前	2	0	0									2	オムニバス
		化学入門(身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学)	1後	2	0	0									1	
		化学入門(化学実験で調べてみよう)	1前	2	0	0									1	
		教養の化学(化学概論)	1後	2	0	0									2	共同
		教養の化学(現代の視点から、古典に学ぶ(化学系))	1後	2	0	0									7	オムニバス
		現代化学(プラスチック材料の基礎)	1前	2	0	0									1	
	生物学分野	現代化学(ソフトマター)	1後	2	0	0									3	オムニバス
		現代化学(ケミカルエンジニアリング入門)	1前	2	0	0									3	オムニバス
		生物学入門(現代生物学入門)	1前	2	0	0									2	オムニバス
		生物学入門(微生物と病気)	1前	2	0	0									5	オムニバス
		生物学入門(森と人の生態学(岐阜の植生から学ぶ))	1後	2	0	0									1	
		教養の生物学(動物と病気)	1後	2	0	0									3	オムニバス
		教養の生物学(ヒトからだ)	1後	2	0	0									5	オムニバス
		教養の生物学(生命の仕組み)	1前	2	0	0									4	オムニバス
		教養の生物学(食の多様な役割)	1前	2	0	0									4	オムニバス
		現代生物学(薬の細胞生物学)	1後	2	0	0									1	
		現代生物学(生き物よもやま話)	1後	2	0	0									13	オムニバス
		現代生物学(生物共生論)	1前	2	0	0									3	オムニバス
	医学分野	現代生物学(実践生物化学)	1前	2	0	0									1	
		教養の医学(医学史)	1前	2	0	0									14	オムニバス
		教養の医学(幹細胞と再生医学)	1後	2	0	0									1	
		現代医学(生体防御・腫瘍病理基礎)	1後	2	0	0									6	オムニバス
		現代医学(身近な薬と毒の科学)	1後	2	0	0									2	共同
		現代医学(現代医療の最前線)	1前	2	0	0									14	オムニバス
	分球宇宙学	教養の宇宙地球科学(気象学概論)	1前	2	0	0									2	オムニバス
		教養の宇宙地球科学(地球環境の変遷)	1後	2	0	0									1	
		教養の宇宙地球科学(E・S・D入門)	1前	2	0	0									1	
		現代宇宙地球科学(宇宙科学)	1前	2	0	0									1	
	環境学分野	教養の環境学(自然災害と生活)	1後	2	0	0									2	オムニバス
		教養の環境学(生物の多様性と人間社会)	1前	2	0	0									1	
		教養の環境学(土の物理的環境)	1前	2	0	0					1					
		教養の環境学(生物生産と環境)	1後	2	0	0									1	
		教養の環境学(里山と水辺の環境学)	1前	2	0	0									1	
		現代環境学(エネルギー問題)	1前	2	0	0									2	
		現代環境学(生物多様性を支える森林と動物たち)	1前	2	0	0					1	1			1	オムニバス
		現代環境学(世界の食料と人口問題)	1前	2	0	0									4	オムニバス
		現代環境学(E・S・D実践研究)	1後	2	0	0									1	
		現代環境学(社会とエコロジーの接点)	1後	2	0	0									1	
	自然科学総合分野	現代環境学(世界の農業事情)	1後	2	0	0									2	オムニバス
		自然科学総合(化学と生物のインターフェース)	1後	2	0	0					1				3	オムニバス
		自然科学総合(科学的なものの考え方)	1後	2	0	0									3	オムニバス
		自然科学総合(数値シミュレーション入門)	1前	2	0	0									2	オムニバス
		自然科学総合(もの科学)	1後	2	0	0									1	
		自然科学総合(化学と生命科学)	1前	2	0	0									7	オムニバス
		自然科学総合(古典に学ぶ(偉大な科学者の学問と人生))	1後	2	0	0									1	
		自然科学総合(生物間コミュニケーション)	1前	2	0	0									3	オムニバス
		自然科学総合(ロボット文化論)	1後	2	0	0									1	
		自然科学総合(食と調理)	1後	2	0	0									1	
		自然科学総合(生とリプロダクティブヘルス/ライツ)	1前	2	0	0									3	オムニバス
		自然科学実験講座(ご飯までのフィールド科学)	1前	2	0	0						1			2	オムニバス
		自然科学実験講座(家畜たちのフィールド科学)	1前	2	0	0						1			2	オムニバス
		自然科学実験講座(金属を使ったものづくり)	1前	2	0	0									1	集中
	分情報学	情報学入門(ITの歴史と未来)	1前	2	0	0									1	
		情報学入門(経営のためのオペレーションズ・リサーチ)	1後	2	0	0									1	
		教養の情報学(オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング)	1前	2	0	0									1	
		教養の情報学(データサイエンス入門)	1前	2	0	0									1	
	岐阜学	環境マネジメントと環境経営	1前	2	0	0									6	共同
		森と美術	1後	2	0	0									2	共同
		地域社会と災害	1後	2	0	0									10	オムニバス
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後	2	0	0									1	オムニバス
		世界の食文化	1後	2	0	0					1	1			5	オムニバス
		環境リーダー実践(上級)I	2前	2	0	0									1	共同
		環境リーダー実践(上級)II	2後	2	0	0									1	共同
		人権と社会教育	1後	2	0	0									3	オムニバス
		現代社会と学習・教育(生涯学習概論I)	1前	2	0	0									3	共同
		生涯学習概論II	1前	2	0	0									3	共同
		社会教育施設・支援者論	1後	2	0	0									3	共同
		社会教育経営論	1前	2	0	0									3	共同
		学校と家庭・地域の連携	1前	2	0	0									3	共同
		教育社会システム論(教育社会学)	1前	2	0	0									3	共同
生涯学習成果の還元とボランティア活動		1後	2	0	0									3	共同	
社会教育実習		1後	1	0	0									3	共同	
野外活動実習		1後	1	0	0									3	共同	

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数					授業形態					基礎教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)						
社会人リテラシー科目 教員・データサイエンス・AI科目	日本語表現I(初級)	1前			1		○											1			
	先輩社会人に学ぶ:実りある学生生活を送るために	1前・後			1		○											1			
	データ科学基礎	1前		1			○											7	共同		
	データ科学基礎演習A	1前			1		○											7	共同		
教養基礎	データ科学基礎演習B	1前			1		○											7	共同		
	小計(312科目)	-	-	7	590	0				7	6	0	0	0	0		680		-		
	基礎数学	1前		2			○											1			
	物理学I	1前		2			○			1							3	共同			
	化学I	1前		2			○										2	共同			
	生物学I	1前		2			○										4	共同			
	生命倫理学	2後		2			○										2	共同			
	物理学II	1後		2	2		○			1							3	共同			
	化学II	1後		2	2		○										1				
	生物学II	1後		2	2		○										2	共同			
	地学	2前		2	2		○										1				
	小計(9科目)	-	-	10	8	0				2	0	0	0	0	0		19		-		
	専門基礎科目	地球・生命・ヒト・人	1前	○	2			○			2	1						4		オムニバス	
		情報処理演習	1前	○	1			○				1							1		オムニバス・共同(一部)
		ヒトと自然	1通	○	2			○			3	3						1		オムニバス・共同(一部)	
フィールド科学基礎実習		1通	○	1			○			6	9		2						共同		
かたちと分類の科学		1後	○	2			○			2	2						2		オムニバス		
生化学		2前	○	2			○										1				
水文学		2前	○	2			○			1							1		オムニバス		
水理学		2前	○	2			○			1	1								オムニバス		
土質力学		2前	○	2			○				1										
動物園学・博物館概論		2前	○	2			○			1											
アルゴリズム基礎		2前	○	2			○			2	2									オムニバス	
基礎生態学		2前	○	2			○				1										
フィールド科学応用実習		2前	○	1			○			6	9		2							共同	
水理計測実験法および実験・実習		2通	○	1			○			1	1									共同	
材料計測実験法および実験・実習		2通	○	1			○				1										
生物計測実験法および実験・実習		2通	○	1			○			2	4		1							オムニバス・共同(一部)	
生物統計学		2後	○	2			○			1	2									共同	
土壌科学		2後	○	2			○				1										
生物多様性学		2後	○	2			○				2									オムニバス・共同(一部)	
遺伝学		2後	○	2			○			1	1									オムニバス	
動物生理学		2後	○	2			○			1								2		オムニバス	
植物生理学		2後	○	2			○											1			
動物行動学		2後	○	2			○			1								1		オムニバス	
動物園動物管理学		2後	○	2			○			1											
作物学		2前	○	2			○													1	
農村デザイン学		2前	○	2			○				2										オムニバス・共同(一部)
環境リテラシー入門		2前	○	2			○			1								4		オムニバス・共同(一部)	
農業経済・経営学入門		1後	○	2			○											8		オムニバス	
野生動物管理学入門		2後	○	2			○			1								5		共同	
小計(29科目)		-	-	42	10	0				34	44	0	5	0	31					-	
専門科目	環境化学分析法	3前	○	2			○			2	1							1		共同	
	空間情報計測学I	3前	○	2			○				1										
	生態環境モデリングI	3前	○	1			○			2	1									共同	
	空間情報計測学実習I	3前	○	1			○				1										
	生物識別野外調査実習-動物-	3通	○	1			○			3	1									共同	
	生物識別野外調査実習-植物-	3通	○	1			○				2		1					1		共同	
	生物識別野外調査実習-昆虫-	3通	○	1			○				1							1		共同	
	生物識別野外調査実習-水棲生物-	3通	○	1			○			2	1									共同	
	専門英語演習	3通	○	2			○			5	8		2								共同
	卒業研究	3後・4通	○	8			○			6	9		2					6		共同	
	水利環境学	3前	○	2			○				1										
	構造力学	3前	○	2			○			1											
	水・物質循環学	3前	○	2			○													2	
	農業生態学	3前	○	2			○				2										オムニバス
	植物生理生態学	3前	○	2			○						1					1		オムニバス	
	動物保全遺伝学	3前	○	2			○				1	1								オムニバス	
	動物保全生理学	3前	○	2			○			2										オムニバス	
	グローバルインターンシップ	3前	○	1			○			6	9		2								共同
	水利施設学	3後	○	2			○				1										
	農地工学	3後	○	2			○				1										
	インターンシップ実習	3通	○	1			○			6	9		2								共同
	博物館実習I(学内実習)	3通	○	1			○			1	1										共同
	空間情報計測学II	3後	○	2			○				1										1
	保全生態学	3後	○	2			○				4										共同
	陸水生態環境学	3後	○	2			○			1	1										オムニバス
	昆虫学	3後	○	2			○				1										
	森林管理学	3後	○	2			○				1										オムニバス
	植物環境制御学	3後	○	2			○														1
	植物病理学	3後	○	2			○														2
	空間情報計測学実習II	3後	○	1			○			1											
	生態環境モデリングII	3後	○	1			○			2	1										1
	キャリア演習	3後	○	1			○			6	9		2								共同
	環境微生物学	4前	○	2			○														1
	農業政策学	4前	○	2			○														1
	博物館実習II(学内実習)	4通	○	1			○			1	1										共同
	博物館実習III(館内実習)	4通	○	1			○			1	1										共同
小計(36科目)	-	-	20	44	0				50	70	0	12	0	20						-	
合計(386科目)				-	-	79	652	0			6	9	0	2	0	402			-		
学位又は称号				学士(応用生物科学)				学位又は学科の分野				農学関係									
128単位以上を修得し、かつ科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。										1学年の学期区分				2学期							
・教養科目26単位 (初年次セミナー2単位、人文科学科目から4単位、社会科学科目から4単位、自然科学科目から2単位、岐阜学科目から2単位、スポーツ・健康科学科目から2単位、英語科目から4単位、言語と文化科目から2単位、社会人リテラシー科目1単位、教員・データサイエンス・AI科目1単位、自由選択科目から2単位)										1学期の授業期間				15週							
・教養基礎科目12単位 (必修科目10単位、選択科目2単位)										1時限の授業時間				90分							
・専門基礎科目42単位 (必修科目42単位)																					
・専門科目48単位 (必修科目20単位、選択科目から28単位) (履修科目の登録の上限(各学期):直前の学期のGPAが2.0未満の場合は26単位とし、それ以外は30単位とする。ただし、集中講義、通年講義、教職科目の単位数は除外する。また、1年生前学期については30単位を履修上限とする。																					

教育課程等の概要																		
(応用生物科学部応用生命科学課程)																		
科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数				授業形態		基幹教員等の配置				備考				
				必修	選択	自由		講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師		助教	助手	基幹教員以外の教員	
教養科目	人文科学科目	初年次セミナー		1前	2									1				
		哲学入門(正義について哲学しよう)		1前		2									1			
		哲学入門(西洋哲学入門)		1後		2									1			
		哲学入門(批判的思考(クリティカルシンキング))		1後		2									1			
		人間・死生学(現代人間論)		1後		2									1			
		近現代思想(日本の近現代思想)		1後		2									1			
		近現代思想(自由と現代社会)		1前		2									1			
		近現代思想(西洋近現代思想)		1後		2									1			
		科学論(生命と癒しの科学論)		1前		2									1			
		東洋・日本思想(インド思想の特質)		1前		2									1			
		東洋・日本思想(中国の古典思想)		1前		2									1			
		倫理学(倫理学とは何か)		1後		2									1			
		宗教学(比較宗教学概論)		1前		2									1			
		宗教学(社会問題と宗教)		1後		2									1			
		歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)		1前		2									1		
			西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))		1前		2									1		
			西洋・中東史(西欧諸国形成史)		1前		2									1		
			中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)		1後		2									1		
			中国・朝鮮半島史(中国史)		1後		2									1		
			世界近現代史(現代国際関係史)		1前		2									1		
			世界近現代史(アメリカ概論)		1前		2									1		
			世界近現代史(ドイツ文化史)		1後		2									1		
			日本史(日本の歴史)		1後		2									1		
			日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)		1後		2									1		
			民俗学・人類学(人類学入門)		1後		2									1		
			文学分野	文学(文学とは何か)		1前		2									1	
				外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)		1前		2									1	
				外国文学(英米文学を読む)		1前		2									1	
				外国文学(三国志時代の文学)		1後		2									1	
		外国文学(西洋文学論)			1後		2									1		
		外国文学(ロシア革命と文学)			1後		2									1		
		日本文学(近世文学の世界)			1前		2									1		
		言語分野	言語学入門(日本語学入門)		1前		2									1		
			言語学入門(一緒に学ぼう! 岐阜の方言と南欧の言語)		1前		2									1		
			言語学(北欧のことばと地域の方言)		1前		2									1		
			言語学(フランス語論)		1前		2									1		
			言語学(児童の文章表現)		1後		2									1		
			言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)		1前		2									1		
			言語学(日本語再発見)		1前		2									1		
			日本語表現論(劇作における会話表現)		1前		2									1		
			日本語表現論(日本語口頭表現)		1前		2									1		
			日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)		1後		2									1	メディア	
			日本語表現論(あいみよんの歌詞から学ぶ日本語表現)		1後		2									1		
			分科心理学	心理学入門(心理学概論)		1前		2									5	オムニバス
		心理学入門(社会心理学)			1後		2									1		
		心理学(幼児発達支援入門)			1後		2									1		
		心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)			2前		2									1		
		文化・芸術分野		西洋文化論(ロシア人の生活と言語)		1前		2								2	共同	
		西洋文化論(西洋建築史)		1後		2									1			
		西洋文化論(ロシアの自然と言語)		1後		2									2	共同		
		日本文化論(日本語文化論:国語教育史)		1前		2									1			
		日本文化論(礼儀作法の理論と背景)		1前		2									1			
		現代文化論(現代の文化研究)		1後		2									1			
		現代文化論(科学技術と人間社会)		1前		2									5	オムニバス		
		異文化論(社会の中の言語・言語の中の社会)		1後		2									1			
		異文化論(リトアニア学)		1前		2									1			
		異文化論(グローバル人材としての諸外国理解)		1後		2									10	オムニバス		
		美術論(美術史)		1前		2									1			
		美術論(デザイン論)		1前		2									1			
		音楽論(オーケストラ音楽を聴く)		1前		2									1			
		音楽論(実用作曲法)		1前		2									1			
		音楽論(ドイツ歌曲への誘い)		1前		2									1			
		音楽論(音楽への誘い)		1後		2									1			
		音楽論(音楽芸術文化概論)		1後		2									1			
		音楽論(ピアフ基礎(連弾))		1前		2									1			
		社会科学科目	法学分野	法学入門(法とは何か)		1前		2								1		
				日本国憲法(人権)		1前		2								1		
				日本国憲法(教職のための憲法)		1後		2								1		
				日本国憲法(教職のための憲法)		1後		2								1		
				民事法(財産と法)		1後		2								1		
			社会法(労働と法)		1後		2								1			
			裁判法(市民と裁判)		1後		2								1			
			刑事法(犯罪と刑罰について)		1後		2								1			
			知的財産権法(知的財産権法入門)		1前		2									3	オムニバス	
			分科政治学	現代政治論(近代日本の政治と行政)		1後		2								1		
		現代政治論(現代日本の政治)		1前		2									1			
		現代政治論(日本の政治と世界)		1後		2									1			
		平和学(国際平和学)		1前		2									1			
		野学経済	経済学入門(現代の日本経済)		1前		2									1		
			経済学入門(社会における経済の仕組み)		1前		2									1		
			マクロ経済学(経済政策)		1後		2									1		
			経営学入門(はじめの経営学)		1前		2									2	オムニバス	
			経営学入門(ファイナンス・アカウンティング入門)		1後		2									2	オムニバス	
		経営学分野	経営学入門(現代経営学入門)		1前		2									1		
			マネージメント論(マーケティング論入門)		1前		2									1		
			マネージメント論(マネージメントシステムと監査)		1前		2									1		
			マネージメント論(めざせソーシャルビジネス起業)		1前		2									1		
			マネージメント論(PBL-マーケティング)		1前		2									1		
			社会学入門(社会学階層論)		1前		2									1		
			社会学入門(やさしいジェンダー学入門)		1後		2									1		
		社会学入門(社会の中の看護)		1後		2									6	オムニバス		
		社会学入門(時事問題で学ぶファシリテーション)		1前		2									1			
		社会学分野	現代社会論(少子高齢化社会)		1前		2									1		
			現代社会論(現代を生きる家族)		1前		2									5	オムニバス	
			現代社会論(社会の基盤)		1後		2									7	オムニバス	
			現代社会論(宇宙時代を生きる)		1後		2									1		
			現代社会論(Amishのライフスタイルから現代社会を考える)		1後		2									1		

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数					授業形態					基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)				
	教育社会システム論(教育社会学)	1前		2	○											3	共同		
	生涯学習成果の還元とボランティア活動	1後		2	○											3	共同		
	社会教育実習	1後		1												3	共同		
	野外活動実習	1後		1				○								3	共同		
	社会教育課題研究(学習プログラム開発論)	1後		2												1			
	現代社会問題と社会教育	1前		2	○											1			
	学習者の特性と支援方法	1前		2	○											4	共同		
	社会教育における地域ネットワーク形成	1前		2	○											1			
	社会教育の意義と展開	1後		2	○											1			
	岐阜県の生物の分布と生態	1後		2	○											6	オムニバス		
	岐阜大学の教育研究と運営	1前		2	○						1					14	オムニバス		
	まちづくりリーダー入門	1前		2	○											3	共同		
	まちづくりリーダー実践	1後		2	○											3	共同		
	岐阜の自然(地質・活断層と水環境)	1前		2	○											3	オムニバス		
	岐阜の自然と人: 森、川、湿地の利用とその保全	1前		2	○											2	オムニバス		
	フューチャーセンター入門	1前		2												6	共同		
	人と自然の関わりから見た岐阜	1前		2												6	共同		
	人と自然の関わりから見た岐阜(実践)	1後		2												6	共同		
	岐阜の産業: 地域で活躍する企業と人	1前		2	○											1			
	地域産業と企業戦略入門: 岐阜の企業を知る	1前		2	○											1			
	岐阜にまつわる東洋史	1前		2	○											1			
	地域防災リーダー基礎	1前・後		2	○											1	集中		
	地域防災リーダー実践I	1前・後		2	○											1	集中		
	地域防災リーダー実践II	1前・後		2	○											1	集中		
	岐阜県の環境教育と科学・技術	1前		2	○											5	オムニバス		
	古今のものづくり	1前		2	○											1			
	岐阜の地方自治とその課題: 政策法務の可能性	1後		2	○											1			
	高年次教養セミナーI	1前		1	○						1					4	オムニバス・集中		
	高年次教養セミナーII	1後		1	○											5	オムニバス・集中		
	社会の多様な働き方	1前		2	○											1			
	キャリア形成論	1前・後		2	○											1			
	ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後		2	○											1			
	プロジェクト型インターンシップ	1後		2	○											1			
	現代社会とボランティア・地域活動	1前		2	○											1			
	生活と金融・人生設計と資産形成	1後		2	○											1			
	自己省察と将来のキャリア設計	1後		2	○											6	共同		
	自分らしいキャリア設計I	1前		2	○											5	共同		
	アントレプレナーシップ入門	1前		2	○											1			
	アントレプレナー実践学	1後		2	○											1			
	岐阜大学の歴史と高等教育論	1前		2	○											1			
	地域系インターンシップI	1前		1		○										6	共同・集中		
	地域系インターンシップII	1後		1		○										6	共同・集中		
	産業系インターンシップI	1前		1		○										6	共同・集中		
	産業系インターンシップII	1後		1		○										6	共同・集中		
	地域リーダー実践(上級)I	1前		2	○											6	共同・集中		
	地域リーダー実践(上級)II	1後		2	○											6	共同・集中		
	産業リーダー実践	1前		2	○											6			
	持続可能な地域と環境リテラシー	1後		2	○											7	共同		
	グローバルゼーションと異文化理解	1前		2	○											4	共同		
	グローバルリーダー実践I	2前		2	○											5	共同		
グローバルリーダー実践II	2後		2	○											3	共同			
スポーツ・健康科学科目	講義健康科学	健康科学	1後		2	○										11	オムニバス		
		ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2	○										4	共同		
	スポーツコンディショニング	1後		2	○											1			
	スポーツ演習分野	健康とQOL	1前		2	○											6	オムニバス	
		栄養と運動	1後		2	○											1		
		雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2	○											3	共同・集中	
		ヨガ・エアロビクス	1前		2	○											1		
		スケートボード	1後		2	○											1		
		ハンドボール	1前		2	○											1		
		フットサル	1後		2	○											1		
		新卓球(ラージボール)	1後		2	○											1		
		ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前		2	○											1		
		卓球・水泳	1前		2	○											2	共同	
		太極拳	1前		2	○											1		
		バドミントンA	1前・後		2	○											1		
		サッカー	1後		2	○											1		
		卓球	1前・後		2	○											1		
		ボールゲームI	1前		2	○											1		
		ボールゲームII	1後		2	○											1		
		ボールゲームIII	1前		2	○											1		
		バレーボールA	1前		2	○											1		
		テニスI	1前		2	○											1		
テニスII		1後		2	○											1			
バスケットボールA	1前		2	○											1				
ソフトボールBI	1前		2	○											1				
アダブテッドスポーツ	1前		2	○											1				
ジョギングII	1前・後		2	○											1				
バランスボールエクササイズ	1前・後		2	○											1				
剣道I	1後		2	○											1				
英語科目	英語1	1前		1		○										8	共同		
	英語2	1後		1		○										10	共同		
	英語3	1後		1		○										3	共同		
	英語4	1前		1		○										9	共同		
	EnglishAdvAncedReAding	1前		1		○										2	共同		
	EnglishAdvAncedWriting	1後		1		○										2	共同		
	StudiumGenerAleA	1後		2	○											1			
	StudiumGenerAleB	1前		2	○											1			
	SummerCamp	1前		2	○											1			
	海外留学準備セミナー	1前		2	○											1			
	言語と文化科目	言語と文化分野	言語と文化(ドイツ語)	1前		2	○										3	共同	
			言語と文化(フランス語)	1前		2	○										2	共同	
言語と文化(中国語)			1前		2	○										4	共同		
言語と文化(ポルトガル語)			1前		2	○											1		
言語と文化(朝鮮・韓国語)			1前		2	○											1		
言語と文化(アイスランド語)			1後		2	○											1		
短期海外研修A			1前		2	○											2	共同	
短期海外研修B			1後		2	○											1		

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員)
第二外国語分野	短期海外研修F	1前		2	○										1	
	短期海外研修F	1後		2	○										1	
	短期海外研修F	1後		2	○										1	
	ドイツ語I	1後		1	○										1	
	ドイツ語II	1後		1	○										1	
	フランス語I	1後		1	○										1	
	フランス語II	1後		1	○										1	
	中国語I	1後		1	○									2	共同	
	中国語II	1後		1	○									2	共同	
	朝鮮・韓国語I	1後		1	○										1	
	朝鮮・韓国語II	1後		1	○										1	
	日本語表現I(初級)	1前		1	○										1	
	社会人リテラシー科目 先輩社会人に学ぶ：実りある学生生活を送るために	1前・後		1	○										1	
	数理・データサイエンス・AI科目 データ科学基礎	1前		1	○										8	共同
	データ科学基礎演習A	1前		1	○										8	共同
データ科学基礎演習B	1前		1	○										8	共同	
小計 (312科目)				6	591	0			14	9	0	0	0	0	687	
教養基礎	基礎数学	1前	○	2		○									1	
	物理学 I	1前	○	2		○			1						3	共同
	化学 I	1前	○	2		○			2	1						共同
	生物学 I	1前	○	2		○									4	共同
	生命倫理学	2後	○	2		○									2	共同
	物理学 II	1後		2		○			1						3	共同
	化学 II	1後		2		○			2	1						共同
	生物学 II	1後		2		○									2	共同
	農業経済・経営学入門	1後		2		○									8	オムニバス
	地学	2前		2		○									1	
	小計 (10科目)			10	10	0			6	2	0	0	0	0	24	
専門基礎科目	応用生命科学概論	1前	○	2		○			12	12		2			4	オムニバス・共同 (一部)
	情報処理演習	1前	○	1		○				2					1	共同
	有機化学概論	1後	○	2		○			1							
	応用生命科学実習I	1後	○	1		○				2					1	共同
	基礎統計学	1後	○	2		○			1	1						オムニバス
	生化学I	2前	○	2		○			1							
	分析化学	2前	○	2		○									1	
	物理化学	2前	○	2		○			1							
	基礎微生物学	2前	○	2		○			1							
	有機化学I	2前	○	2		○			1							
	応用生命科学実習II	2前	○	1		○			4	1						共同
	基礎科学英語	2前	○	2		○			2	1					1	オムニバス
	基礎科学英語	2後	○	2		○			3						1	オムニバス
	応用生命科学演習	2後	○	2		○			6	12		2			2	共同
	応用生命科学実験	2後	○	4		○			6	12		2			2	共同
	栄養化学I	2後	○	2		○			1							
	有機化学II	2後	○	2		○			1							
	生化学II	2後	○	2		○			1							
	機器分析学I	2後	○	2		○			1	1						
	食品化学I	2前	○	2		○			1							
	無機化学	2前	○	2		○			1	1						
	食品衛生学	2前	○	2		○			1							
微生物機能学	2後	○	2		○			1	1							
食品化学II	2後	○	2		○			1								
小計 (24科目)			37	10	0			43	48	0	6	0	13			
専門科目 (分子生命科学コース)	分子生命科学実験	3前	○	4		○			4	5		1		3	共同	
	分子生命科学演習	3前	○	2		○			4	5		1		3	共同	
	専門科学英語	3前	○	2		○			2					1	共同	
	卒業研究	3後・4通	○	6		○			8	6		1		4	共同	
	栄養化学II	3前	○	2		○			1							
	環境微生物化学	3前	○	2		○			1							
	微生物遺伝学	3前	○	2		○			1							
	立体化学	3前	○	2		○									1	
	機器分析学II	3前	○	2		○			1							
	酵素科学	3前	○	2		○			1	1						
	バイオマス化学	3前	○	2		○										
	グローバルインターンシップ	3前		1		○			1	1						集中
	免疫化学	3後		2		○			1	1						
	食品微生物学	3後		2		○			1							
	生理活性物質学	3後		2		○			1							
	分子細胞生物学	3後	○	2		○			1							
	生物有機化学	3後		2		○			1							
	天然物化学	3後		2		○			1							
	生物物理化学	3後		2		○									1	
	ゾウム生物学	3後	○	2		○			1							
	環境微生物工学	3後		2		○				1						
植物栄養学	4前		2		○									2	オムニバス	
アグリビジネス論	3前		2		○									1		
小計 (23科目)			14	37	0			27	22	0	3	0	16			
専門科目 (食品生命科学コース)	食品生命科学実験	3前	○	4		○			5	6		1		1	共同	
	食品生命科学演習	3前	○	2		○			5	6		1		1	共同	
	専門科学英語	3後	○	2		○			3					1	共同	
	卒業研究	3後・4通	○	6		○			5	6		1			集中	
	食品工学	3前	○	2		3前			2							オムニバス
	栄養化学II	3前	○	2		○			1							
	食品安全性学	3前	○	2		3前			1							
	酵素科学	3前	○	2		○			1	1						
	微生物遺伝学	3前	○	2		○			1							
	ポストハーベスト工学	3前		2		○									1	
	グローバルインターンシップ	3前		1		○			1							集中
	食品成分化学	3後	○	2		○			1	1						
	免疫化学	3後		2		○			1							
	公衆衛生学	3後		2		○				1					2	オムニバス
	食品微生物学	3後	○	2		○			1							
	動物性食品化学	3後		2		○				2						オムニバス
	食品加工学	3後		2		○			1	1						オムニバス
	食品物理化学	3後		2		○			1	1						オムニバス
	食品保蔵学	3後		2		○			1	1						オムニバス
	食品関連法規	3後		2		○									1	
地域食品産業実習	3後		1		○			1						7	オムニバス	
アグリビジネス論	3前		2		○									1		
小計 (22科目)			14	34	0			27	27	0	3	0	16			
合計 (391科目)				81	682	0		12	12	0	2	0	398			
学位又は称号				学士 (応用生物科学)				学位又は学科の分野			農学関係					

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数				授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
卒業・修了要件及び履修方法				授業期間等												
128単位以上を修得し、かつ科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。 ・教養科目26単位 (初年次セミナー2単位, 人文科学科目から4単位, 社会科学科目から4単位, 自然科学科目から2単位, 岐阜学 目から2単位, スポーツ・健康科学科目から2単位, 英語科目から4単位, 言語と文化科目から2単位, 社会人リテ ラシー科目1単位, 自由選択科目から3単位) ・教養基礎科目12単位 (必修科目10単位, 選択科目2単位) ・専門基礎科目43単位 (必修科目37単位, 選択必修科目から6単位) ・専門科目47単位(分子生命科学コース)(食品生命科学コース) (必修科目16単位, 選択科目から31単位) (履修科目の登録の上限(各学期):直前の学期のGPAが2.0未満の場合は26単位とし、それ以外は30単位とす る。ただし、集中講義、通年講義、教職科目の単位数は除外する。また、1年生前学期については30単位を履修上 限とする。				1学年の学期区分		2学期										
				1学期の授業期間		15週										
				1時限の授業時間		90分										

教育課程等の概要																			
(応用生物科学部生産環境科学課程)																			
科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数				授業形態		基幹教員等の配置				備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	基幹(助手を除く)以外の教員			
教養科目	人文科学科目	初年次セミナー	1前		2						1								
		哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	1前		2													
		哲学入門(西洋哲学入門)	1後		2														
		哲学入門(批判的思考(クリティカルシンキング))	1後		2														
		人間・死生学(現代人間論)	1後		2														
		近現代思想(日本の近代思想)	1後		2														
		近現代思想(自由と現代社会)	1前		2														
		近現代思想(西洋近現代思想)	1後		2														
		科学論(生命と癒しの科学論)	1前		2														
		東洋・日本思想(インド思想の特質)	1前		2														
		東洋・日本思想(中国の古典思想)	1前		2														
		倫理学(倫理学とは何か)	1後		2														
		宗教学(比較宗教学概論)	1前		2														
		宗教学(社会問題と宗教)	1後		2														
		歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)	1前		2													
		西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))	1前		2														
		西洋・中東史(西欧諸国形成史)	1前		2														
		中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後		2														
		中国・朝鮮半島史(中国史)	1後		2														
		世界近現代史(現代国際関係史)	1前		2														
		世界近現代史(アメリカ概論)	1前		2														
		世界近現代史(ドイツ文化史)	1後		2														
		日本史(日本の歴史)	1後		2														
		日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	1後		2														
		民俗学・人類学(人類学入門)	1後		2														
		文学分野	文学(文学とは何か)	1前		2													
		外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前		2														
		外国文学(英米文学を語る)	1前		2														
		外国文学(三国志時代の文学)	1後		2														
		外国文学(西洋文学論)	1後		2														
		外国文学(ロシア革命と文学)	1後		2														
		日本文学(近世文学の世界)	1前		2														
		言語分野	言語学入門(日本語学入門)	1前		2													
		言語学入門(一緒に学ばせよう！岐阜の方言と南欧の言語)	1前		2														
		言語学(北欧のことばと地域の方言)	1前		2														
		言語学(フランス語論)	1前		2														
		言語学(児童の文章表現)	1後		2														
		言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)	1前		2														
		言語学(日本語再発見)	1前		2														
		日本語表現論(劇作における会話表現)	1前		2														
		日本語表現論(日本語口頭表現)	1前		2														
		日本語表現論(美学的な日本語表現を学ぶ)	1後		2													メディア	
		日本語表現論(あひまんの歌詞から学ぶ日本語表現)	1後		2														
		分科心野動理学	心理学入門(心理学概論)	1前		2												5 オムニバス	
		心理学入門(社会心理学)	1後		2														
		心理学(幼児発達支援入門)	1後		2														
		心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)	2前		2														
		文化・芸術分野	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)	1前		2												2 共同	
		西洋文化論(西洋建築史)	1後		2													1 共同	
		西洋文化論(ロシアの自然と言語)	1後		2													2 共同	
		日本文化論(日本語文化論：国語教育史)	1前		2													1	
		日本文化論(礼儀作法の理論と背景)	1前		2													1	
		現代文化論(現代の文化研究)	1後		2													1	
		現代文化論(科学技術と人間社会)	1前		2													5 オムニバス	
		異文化論(社会の中の言語・言語の中の社会)	1後		2													1	
		異文化論(リトアニア学)	1前		2													1	
		異文化論(グローバル人材としての諸外国理解)	1後		2													9 オムニバス	
		美術論(美術史)	1前		2													1	
		美術論(デザイン論)	1前		2													1	
		音楽論(オーケストラ音楽を聴く)	1前		2													1	
		音楽論(実用作曲法)	1前		2													1	
		音楽論(ドイツ歌曲への誘い)	1前		2													1	
		音楽論(音楽への誘い)	1後		2													1	
		音楽論(音楽芸術文化概論)	1後		2													1	
		音楽論(ピアノ基礎(連弾))	1前		2													1	
		法学分野	法学入門(法とは何か)	1前		2													1
		日本国憲法(入籍)	1前		2														1
		日本国憲法(教職のための憲法)	1後		2														1
		日本国憲法(教職のための憲法)	1後		2														1
		民法(財産と法)	1後		2														1
		社会法(労働と法)	1後		2														1
		裁判法(市民と裁判)	1後		2														1
		刑事法(犯罪と刑罰について)	1後		2														1
		知的財産権法(知的財産権法入門)	1前		2														3 オムニバス
		分科野治学	現代政治論(近代日本の政治と行政)	1後		2													1
		現代政治論(現代日本の政治)	1前		2														1
		現代政治論(日本の政治と世界)	1後		2														1
		平和学(国際平和学)	1前		2														1
		野学経分	経済学入門(現代の日本経済)	1前		2													1
		経済学入門(社会における経済の仕組み)	1前		2														1
		マクロ経済学(経済政策)	1後		2														1
		経営学分野	経営学入門(はじめての経営学)	1前		2													2 オムニバス
		経営学入門(ファイナンス・アカウントニング入門)	1後		2														2 オムニバス
		経営学入門(現代経営学入門)	1前		2														1
		マネージメント論(マーケティング論入門)	1前		2														1
		マネージメント論(マネージメントシステムと監査)	1前		2														1
		マネージメント論(めざせソーシャルビジネス起業)	1前		2														1
		マネージメント論(FBLマーケティング)	1前		2														1
		社会学分野	社会学入門(社会階層論)	1前		2													1
		社会学入門(やさしいジェンダー学入門)	1後		2														1
		社会学入門(社会の中の看護)	1後		2														6 オムニバス
		社会学入門(時事問題で学ぶファシリテーション)	1前		2														1
		現代社会論(少子高齢化社会)	1前		2														1
		現代社会論(現代を生きる家族)	1前		2														5 オムニバス
		現代社会論(社会の基礎)	1後		2														7 オムニバス

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数					授業形態					基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員				
自然科学科目	現代社会論(宇宙時代を生きる)	現代社会論(宇宙時代を生きる)	1後		2	0	0										1		
		現代社会論(Amishのライフスタイルから現代社会を考える)	1後		2	0	0										1		
		現代社会論(ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論))	1後		2	0	0										12	オムニバス	
		現代社会論(情報社会論)	1前		2	0	0										1		
		メディア論(メディア論の基礎)	1前		2	0	0										1		
		メディア論(メディアの特徴・歴史・現状・課題)	1前		2	0	0										1		
		メディア論(国際メディア論)	1後		2	0	0										1		
	分地域地理学	地理学(地図・環境・立地・都市)	1前		2	0	0										1		
		地域論(環境学入門)	1前		2	0	0										1		
	野教育学分	教育論(障害児教育臨床学)	1前		2	0	0										1		
		教育論(教育哲学)	1前		2	0	0										1		
		教育論(学校の社会的意味を問う)	1後		2	0	0										1		
		教育論(特別支援教育ベーシック)	1前		2	0	0										1		
	野総社会分	社会総合(生活の経済)	1前		2	0	0										1		
		社会総合(環境・CSR(企業の社会的責任)とマネジメント)	1前		2	0	0										1	集中	
		安全科学(交通安全の科学)	1前		2	0	0										1		
		安全科学(社会安全学入門)	1後		2	0	0										1		
	数学分野	教養の数学(数学概論I(実数と数列))	1後		2	0	0										1		
		教養の数学(コンピュータのための数学概論)	1後		2	0	0										1		
		教養の数学(図学)	1後		2	0	0										1		
		基礎代数学(数学概論I)	1後		2	0	0										2	オムニバス	
		基礎代数学(古典数学へのいざない)	1前		2	0	0										1		
		基礎解析学(解析学の基礎)	1前		2	0	0										1		
		基礎解析学(微分積分学)	1前		2	0	0										1		
		基礎統計学(統計学の基礎)	1後		2	0	0										1		
		基礎統計学(実感する統計学)	1後		2	0	0										1		
		物理学入門(現代物理学の基礎(相対論と量子論入門))	1前		2	0	0										1		
		物理学入門(物理実験で調べてみよう)	1前		2	0	0										1		
		物理学分野	教養の物理学(雷の科学)	1前		2	0	0										1	
	教養の物理学(物性の力学)		1後		2	0	0			1	1						1	オムニバス	
	教養の物理学(力学現象の数学的見方)		1後		2	0	0										1		
	教養の物理学(日曜大工からはじめる力学)		1前		2	0	0										1		
	現代物理学(表面張力の物理学)		1後		2	0	0										1		
	化学分野	化学入門(日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ)	1前		2	0	0										1		
		化学入門(身近なものから学ぶ化学)	1前		2	0	0										2	オムニバス	
		化学入門(身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学)	1後		2	0	0										1		
		化学入門(化学実験で調べてみよう)	1前		2	0	0										1		
		教養の化学(化学概論)	1後		2	0	0										2	共同	
		教養の化学(現代の視点から、古典に学ぶ(化学系))	1後		2	0	0										7	オムニバス	
		現代化学(プラスチック材料の基礎)	1前		2	0	0										1		
		現代化学(ソフトマター)	1後		2	0	0										3	オムニバス	
		現代化学(ケミカルエンジニアリング入門)	1前		2	0	0										3	オムニバス	
		生物学入門(現代生物学入門)	1前		2	0	0					2					1	オムニバス	
	生物学分野	生物学入門(微生物と病気)	1前		2	0	0										5	オムニバス	
		生物学入門(森と人の生態学(岐阜の植生から学ぶ))	1後		2	0	0										1		
		教養の生物学(動物と病気)	1後		2	0	0										3	オムニバス	
		教養の生物学(ヒトのからだ)	1後		2	0	0										5	オムニバス	
		教養の生物学(生命の仕組み)	1前		2	0	0										4	オムニバス	
		教養の生物学(食の多様な役割)	1前		2	0	0										4	オムニバス	
		現代生物学(葉の細胞生物学)	1後		2	0	0										1		
		現代生物学(生き物ともやま話)	1後		2	0	0										13	オムニバス	
		現代生物学(生物共生論)	1前		2	0	0										3	オムニバス	
		現代生物学(実践生物化学)	1前		2	0	0										1		
		教養の医学(医学史)	1前		2	0	0										14	オムニバス	
		教養の医学(幹細胞と再生医学)	1後		2	0	0										1		
	医学分野	現代医学(生体防衛・腫瘍病理基礎)	1後		2	0	0										6	オムニバス	
		現代医学(身近な薬と毒の科学)	1後		2	0	0										2	共同	
		現代医学(現代医療の最前線)	1前		2	0	0										15	オムニバス	
		教養の宇宙地球科学(気象学概論)	1前		2	0	0										2	オムニバス	
	分球宇宙学	教養の宇宙地球科学(地球環境の変遷)	1後		2	0	0										1		
		教養の宇宙地球科学(ESD入門)	1前		2	0	0										1		
		現代宇宙地球科学(宇宙科学)	1前		2	0	0										1		
		教養の環境学(自然災害と生活)	1後		2	0	0										2	オムニバス	
	環境学分野	教養の環境学(生物の多様性と人間社会)	1前		2	0	0										1		
		教養の環境学(土の物理的環境)	1前		2	0	0										1		
		教養の環境学(生物生態と環境)	1後		2	0	0				1						1		
		教養の環境学(里山と水辺の環境学)	1前		2	0	0										1		
		現代環境学(エネルギー問題)	1前		2	0	0										1		
		現代環境学(生物多様性を支える森林と動物たち)	1前		2	0	0				1	1					2	オムニバス	
		現代環境学(世界の食料と人口問題)	1前		2	0	0				1	1					3	オムニバス	
		現代環境学(ESD実践研究)	1後		2	0	0										1		
		現代環境学(社会とエコロジーの接点)	1後		2	0	0										1		
		現代環境学(世界の農業事情)	1後		2	0	0				4						1	オムニバス	
		自然科学総合(化学と生物のインターフェース)	1後		2	0	0										5	オムニバス	
		自然科学総合(科学的なものの考え方)	1後		2	0	0										2	オムニバス	
	自然科学総合分野	自然科学総合(数値シミュレーション入門)	1前		2	0	0										1		
		自然科学総合(もの科学)	1後		2	0	0										1		
		自然科学総合(化学と生命科学)	1前		2	0	0										7	オムニバス	
		自然科学総合(古典に学ぶ(偉大な科学者の学問と人生))	1後		2	0	0										1		
		自然科学総合(生物間コミュニケーション)	1前		2	0	0										3	オムニバス	
		自然科学総合(ロボット文化論)	1後		2	0	0										1		
		自然科学総合(食と調理)	1後		2	0	0										1		
		自然科学総合(生とリプロダクティブヘルス/ライツ)	1前		2	0	0										3	オムニバス	
		自然科学実験講座(こ飯までのフィールド科学)	1前		2	0	0				2	2					1	オムニバス	
		自然科学実験講座(家畜たちのフィールド科学)	1前		2	0	0				1						1		
		自然科学実験講座(金属を使ったものづくり)	1前		2	0	0										1	集中	
		分情報学	情報学入門(ITの歴史と未来)	1前		2	0	0										1	
	情報学入門(経営のためのオペレーションズ・リサーチ)		1後		2	0	0										1		
	教養の情報学(オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング)		1前		2	0	0										1		
	教養の情報学(データサイエンス入門)		1前		2	0	0										1		
	岐阜学科目	環境マネジメントと環境経営	1前		2	0	0				1						6	共同	
		森と美術	1後		2	0	0										2	共同	
		地域社会と災害	1後		2	0	0										10	オムニバス	
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後		2	0	0				2	1					1	オムニバス	
		世界の食文化	1後		2	0	0										6	オムニバス	
		環境リーダー実践(上級)I	2前		2	0	0				1						1	共同	
		環境リーダー実践(上級)II	2後		2	0	0				1						1	共同	
		人権と社会教育	1後		2	0	0										3	オムニバス	
	現代社会と学習・教育(生涯学習概論I)	1前		2	0	0										3	共同		

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数					授業形態					基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員				
	生涯学習概論II	1前		2	0											3	共同		
	社会教育施設・支援者論	1後		2	0											3	共同		
	社会教育経営論	1前		2	0											3	共同		
	学校と家庭・地域の連携	1前		2	0											3	共同		
	教育社会システム論(教育社会学)	1前		2	0											3	共同		
	生涯学習成果の還元とボランティア活動	1後		2	0											3	共同		
	社会教育実習	1後		1												3	共同		
	野外活動実習	1後		1												3	共同		
	社会教育課題研究(学習プログラム開発論)	1後		2	0											1			
	現代社会問題と社会教育	1前		2	0											1			
	学習者の特性と支援方法	1前		2	0											4	共同		
	社会教育における地域ネットワーク形成	1前		2	0											1			
	社会教育の意義と展開	1後		2	0											1			
	岐阜県の生物の分布と生態	1後		2	0				1							5	オムニバス		
	岐阜大学の教育研究と運営	1前		2	0											15	オムニバス		
	まちづくりリーダー入門	1前		2	0											3	共同		
	まちづくりリーダー実践	1後		2	0											3	共同		
	岐阜の自然(地質・地層と水環境)	1前		2	0											3	オムニバス		
	岐阜の自然と人: 森、川、湿地の利用とその保全	1前		2	0											2	オムニバス		
	フューチャーセンター入門	1前		2	0											6	共同		
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前		2	0											6	共同		
	人と自然の関わりから見た岐阜(実践)	1後		2	0											6	共同		
	岐阜の産業: 地域で活躍する企業と人	1前		2	0											1			
	地域産業と企業戦略入門: 岐阜の企業を知る	1前		2	0											1			
	岐阜にまつわる東洋史	1前		2	0											1			
	地域防災リーダー基礎	1前・後		2	0											1	集中		
	地域防災リーダー実践I	1前・後		2	0											1	集中		
	地域防災リーダー実践II	1前・後		2	0											1	集中		
	岐阜県の環境教育と科学・技術	1前		2	0				1							4	オムニバス		
	古今ものづくり	1前		2	0											1			
	岐阜の地方自治とその課題: 政策法務の可能性	1後		2	0											1			
	高年次教養セミナーI	1前		1	0											5	オムニバス・集中		
	高年次教養セミナーII	1後		1	0											5	オムニバス・集中		
	社会の多様な働き方	1前		2	0											1			
	キャリア形成論	1前・後		2	0											1			
	ライフコース論(人生設計と生活保障)	1後		2	0											1			
	プロジェクト型インターンシップ	1後		2	0											1			
	現代社会とボランティア・地域活動	1前		2	0											1			
	生活と金融・人生設計と資産形成	1後		2	0											1			
	自己省察と将来のキャリア設計	1後		2	0											6	共同		
	自分らしいキャリア設計I	1前		2	0											5	共同		
	アントレプレナーシップ入門	1前		2	0											1			
	アントレプレナー実践学	1後		2	0											1			
	岐阜大学の歴史と高等教育論	1前		2	0											1			
	地域系インターンシップI	1前		1	0											6	共同・集中		
	地域系インターンシップII	1後		1	0											6	共同・集中		
	産業系インターンシップI	1前		1	0											6	共同・集中		
	産業系インターンシップII	1後		1	0											6	共同・集中		
	地域リーダー実践(上級)I	1前		2	0											6	共同・集中		
	地域リーダー実践(上級)II	1後		2	0											6	共同・集中		
	産業リーダー実践	1前		2	0											6			
	持続可能な地域と環境リテラシー	1後		2	0				1							6	共同		
	グローバル化と異文化理解	1前		2	0				1							3	共同		
	グローバルリーダー実践I	2前		2	0											5	共同		
	グローバルリーダー実践II	2後		2	0											3	共同		
	健康科学	1後		2	0											11	オムニバス		
	ヘルスプロモーションと地域保健	1後		2	0											4	共同		
	スポーツコンディショニング	1後		2	0											1			
	健康とQOL	1前		2	0											6	オムニバス		
	栄養と運動	1後		2	0											1			
	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	1後		2	0											3	共同・集中		
	ヨガ・エアロビクス	1前		2	0											1			
	スケートボード	1後		2	0											1			
	ハンドボール	1前		2	0											1			
	フットサル	1後		2	0											1			
	新卓球(ラージボール)	1後		2	0											1			
	ファストピッチ・ソフトボール(ウインドミル投法入門)	1前		2	0											1			
	卓球・水泳	1前		2	0					2						2	共同		
	太極拳	1前		2	0											1			
	バドミントンAI	1前・後		2	0											1			
	サッカー	1後		2	0											1			
	卓球	1前・後		2	0											1			
	ボールゲームI	1前		2	0											1			
	ボールゲームII	1後		2	0											1			
	ボールゲームIII	1前		2	0											1			
	バレーボールA	1前		2	0											1			
	テニスI	1前		2	0											1			
	テニスII	1後		2	0											1			
	バスケットボールA	1前		2	0											1			
	ソフトボールBI	1前		2	0											1			
	アダプテッドスポーツ	1前		2	0											1			
	ジョギングII	1前・後		2	0											1			
	バランスボールエクササイズ	1前・後		2	0											1			
	剣道I	1後		2	0											1			
	英語1	1前		1	0											8	共同		
	英語2	1後		1	0											10	共同		
	英語3	1後		1	0											3	共同		
	英語4	1前		1	0											9	共同		
	EnglishAdvAncedReading	1前		1	0											2	共同		
	EnglishAdvAncedWriting	1後		1	0											2	共同		
	StudiumGenerAleA	1後		2	0											1			
	StudiumGenerAleB	1前		2	0											1			
	SummerCamp	1前		2	0											1			
	海外留学準備セミナー	1前		2	0											1			
	言語と文化(ドイツ語)	1前		2	0											3	共同		
	言語と文化(フランス語)	1前		2	0											2	共同		
	言語と文化(中国語)	1前		2	0											4	共同		
	言語と文化(ポルトガル語)	1前		2	0											1			
	言語と文化(朝鮮・韓国語)	1前		2	0											1			
	言語と文化(アイヌ語)	1後		2	0											1			
	短期海外研修A	1前		2	0											2	共同		

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く)	
第二外国語分野	短期海外研修B	1後			2		○								1		
	短期海外研修E	1前			2		○								1		
	短期海外研修F	1後			2		○								1		
	短期海外研修F	1後			2		○								1		
	ドイツ語I	1後			1		○								1		
	ドイツ語II	1後			1		○								1		
	フランス語I	1後			1		○								1		
	フランス語II	1後			1		○								1		
	中国語I	1後			1		○								2	共同	
	中国語II	1後			1		○								2	共同	
	朝鮮・韓国語I	1後			1		○								1		
	朝鮮・韓国語II	1後			1		○								1		
	社会人リテラシー科目	日本語表現I(初級)	1前			1		○								1	
		先輩社会人に学ぶ：実りある学生生活を送るために	1前・後			1		○								1	
教理・データサイエンス・AI科目	データ科学基礎	1前			1		○			1					7	共同	
	データ科学基礎演習A	1前			1		○			1					7	共同	
	データ科学基礎演習B	1前			1		○			1					7	共同	
	小計(312科目)	-	-	6	591	0	-			25	11	0	0	0	674	-	
教養基礎	基礎数学	1前	○	2			○								1		
	物理学I	1前	○	2			○			2					2	共同	
	化学I	1前	○	2			○								3	共同	
	生物学I	1前	○	2			○			1					3	共同	
	生命倫理学	2後	○	2			○								2	共同	
	物理学II	1後		2			○			2					2	共同	
	化学II	1後		2			○								3	共同	
	生物学II	1後		2			○								2	共同	
	農業経済・経営学入門	1後		2			○								8	オムニバス	
	地学	2前		2			○								1		
	小計(10科目)	-	-	10	10	0	-			5	0	0	0	0	27	-	
	専門基礎科目	情報処理演習	1前	○	1			○			2						共同
		生物生産科学概論	1前	○	2			○			9	5	1				オムニバス
		フィールド科学基礎実習	1前	○	1			○			18	14	6			1	共同
フィールド科学応用実習		1通	○	2			○			18	14	6				共同	
生物環境科学概論		1後	○	2			○			4	3					オムニバス	
科学英語基礎演習I		2前	○	1			○								2	共同	
生産環境科学基礎実験		2前	○	1			○			17	14	6				共同	
遺伝学		2前	○	2			○			1	1					オムニバス	
植物生態学		2前	○	2			○			1	1						
生物化学		2前	○	2			○			2						オムニバス	
動物生理学		2前	○	2			○			1		1				オムニバス	
農業気象学		2後	○	2			○			1		1				オムニバス	
植物生理学		2後	○	2			○			1							
生物統計学		2後	○	2			○			2	1					共同	
動物生態学		2後	○	2			○			1	1					共同	
植物生産科学		2後	○	2			○			1							
動物生産管理学		2後	○	2			○			1							
科学英語基礎演習II		2後	○	1			○								2	共同	
生物形態学		2前	○	2			○			3	1					オムニバス	
土壌環境学		2前	○	2			○			1							
地域資源学		2前	○	2			○			2						共同	
水文学		2前	○	2			○			1					1	オムニバス	
生物系統分類学		2後	○	2			○			1	3	1				オムニバス	
細胞生物学		2後	○	2			○			2						オムニバス	
微生物学		2後	○	2			○									オムニバス	
フィールド科学		2前	○	2			○			1	1					共同	
生産環境関係法規		2前	○	2			○			1							
野生動物管理学入門		2後	○	2			○			1						オムニバス	
小計(28科目)		-	-	31	20	0	-			86	64	0	21	0	14	-	
専門科目(応用植物科学コース)		応用植物科学実験実習I	3前	○	2			○			7	4	2			2	共同
		応用植物科学実験法	3前	○	1			○			7	4	2			1	共同
		情報処理実習	3前	○	1			○			3						共同
		専門英語演習	3通	○	2			○			7	4	2				集中・共同
	応用植物科学実験実習II	3後	○	2			○			7	4	2			2	共同	
	卒業研究	3後・4通	○	6			○			8	4	2			2	共同	
	園芸学	3前		2			○			1							
	植物環境制御学	3前		2			○			1							
	植物病理学	3前		2			○			1	1				1	オムニバス	
	植物栄養学	3前		2			○			1	1					オムニバス	
	植物分子生理学	3前		2			○			1							
	園芸植物栽培学	3前		2			○			1							
	資源植物学	3前		2			○			1							
	作物学	3前		2			○			1							
	地域農業技術論	3前		2			○			1					9	オムニバス	
	応用昆虫学	3前		2			○			1							
	インターンシップ実習	3通		1			○			7	4	2				集中・共同	
	農業政策学	3前		2			○								1		
	植物育種学	3後		2			○				1						
	生理生態学	3後		2			○					1			1	オムニバス	
	植物生産工学	3後		2			○			1		1				オムニバス	
	植物保護学	3後		2			○				1						
	ゲノム生物学	3後		2			○			2	1					オムニバス	
	ピオトープ論	4前		2			○			1	1					オムニバス	
	物理化学	4前		2			○								1		
	農業環境修復学	4前		2			○				1						
	アグリビジネス論	4前		2			○								1		
	動物生産栄養学	4後		2			○			1							
	栄養化学I	4後		2			○								1		
	食品保存学	4後		2			○								2	オムニバス	
	食品衛生学	4前		2			○								1		
	小計(31科目)	-	-	14	49	0	-			57	34	0	14	0	25	-	
	専門科目	牧場実習	3前	○	1			○			6	2	2				集中
動物園学実験実習		3前	○	1			○			1							
動物フィールド実習		3前	○	1			○			3	1	1				共同	
情報処理実習		3前	○	1			○			3	3					共同	
専門英語演習		3通	○	2			○			5	2	2				集中・共同	
卒業研究		3後・4通	○	6			○			5	2	2				共同	
動物園学(博物館概論)		2後		2			○			1							
動物遺伝学	3前		2			○			1								
動物発生学	3前		2			○			2		1				オムニバス		
動物繁殖学	3前		2			○			1		1				オムニバス		

科目区分	授業科目名の名称	配当年次	主要授業科目	単位数					授業形態					基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(除く)					
目 (応用動物科学コース)	動物栄養学	3前			2		○			1										
	応用動物行動学	3前			2		○				1									
	バイオーム論	3前			2		○			1	1								オムニバス	
	動物免疫学	3前			2		○											2	オムニバス	
	動物園動物管理学	3前			2		○			2									オムニバス	
	インターンシップ実習	3前			1			○		5	2		2						集中・共同	
	動物育種学	3後			2		○				1									
	動物機能形態学	3後			2		○												1	
	動物発生工学	3後			2		○						1							
	動物生産栄養学	3後			2		○			1										
	動物管理学	3後			2		○				1									
	家庭動物学	3後			1		○			3										オムニバス
	実験動物学	3後			2		○													1
	動物性食品化学	3後			2		○													2
	動物生命科学実験及び実験法 I	3前			2			○		1			1							オムニバス
	動物生命科学実験及び実験法 II	3前			2			○		2	1		1							オムニバス
	動物生産科学実験及び実験法	3後			2			○		2	1									2
	アグリビジネス論	4前			2		○													1
	小計 (28科目)				—	12	42	0	—		43	18	0	14	0	9				—
	専門科目目 (環境生態科学コース)	生物計測学実験及び実験法	3前		○	2			○		2	3		1						共同
水環境計測学実験及び実験法		3前		○	2			○		1										共同
情報処理実習		3前		○	1			○			3									共同
樹木識別実習		3通		○	1			○		2		1								共同
草本植物識別実習		3通		○	1			○		1	1									共同
鳥類識別実習		3通		○	1			○		3	4		1							共同
昆虫識別実習		3通		○	1			○		1	1									共同
水棲生物識別実習		3通		○	1			○		1										共同
専門英語演習		3通			2			○		5	8		2							集中・共同
土壌環境計測学実験及び実験法		3後		○	2			○			2									共同
卒業研究		3後・4通		○	6			○		5	8		2							2
環境水理学		3前			2		○			1										
農業環境修復学		3前			2		○				1									
農業生態学		3前			2		○				1									
水利環境学		3前			2		○													1
生態系生態学		3前			2		○													2
バイオーム論		3前			2		○			1	1									オムニバス
夏季フィールド実習		3前			2			○		5	8		2							集中・共同
応用昆虫学		3前			2		○			1										
森林管理学		3前			2		○				1									
インターンシップ実習		3前			1			○		5	8		2							集中・共同
水圏環境生態学		3後			2		○			1										
構造力学		3前			2		○			1										
土壌工学		3後			2		○				1									
環境施設学		3後			2		○				1									
生理生態学		3後			2		○						1							1
保全生態学		3後			2		○			1										オムニバス
測量学I		3後			2		○			5	8		1							オムニバス
測量学実習I		3後			1			○		5	8		1							オムニバス
環境生態科学キャリア演習		3後			1			○		3										1
測量学II		4前			2		○			1										
G I S・CAD技術		4前			2		○			1										1
植物病理学		4前			2		○			1										1
測量学実習II		4前			1			○		1										
アグリビジネス論		4前			2		○													1
樹木医学		4後			2		○			1			1							オムニバス
植物保護学		4後			2		○				1									
小計 (37科目)				—	20	48	0	—		49	75	0	15	0	11				—	
合計 (446科目)				—	—	93	760	0	—		18	14	0	6	0	408			—	
学位又は称号		学士 (応用生物科学)		学位又は学科の分野		農学関係														
128単位以上を修得し、かつ科目区分ごとの卒業所要単位数を修得した者に学位を与える。 ・教養科目26単位 (初年次セミナー2単位, 人文科学科目から4単位, 社会科学科目から4単位, 自然科学科目から2単位, 岐阜学科目から2単位, スポーツ・健康科学科目から2単位, 英語科目から4単位, 言語と文化科目から2単位, 社会人リーダー科目1単位, 自由選択科目から3単位) ・教養基礎科目12単位 (必修科目10単位, 選択科目2単位) ・専門基礎科目47単位 (必修科目31単位, 選択必修科目から10単位) ・専門科目43単位 (応用植物科学コース 必修科目14単位, 選択科目から29単位) (応用動物科学コース 必修科目12単位, 選択科目から31単位) (環境生態科学コース 必修科目20単位, 選択科目から23単位) (履修科目の登録の上限(各学期): 直前の学期のGPAが2.0未満の場合は26単位とし、それ以外は30単位とする。ただし、集中講義、通年講義、教職科目の単位数は除外する。また、1年生前学期については30単位を履修上限とする。		1 学年の学期区分		2 学期																
		1 学期の授業期間		15 週																
		1 時限の授業時間		90 分																

授業科目の概要					
(応用生物科学部生物圏環境学科)					
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
教養科目	-	初年次セミナー	大学生生活の過ごし方から学習の方法まで、岐阜大学に入学して卒業までに必要とする様々な事柄について学習する。全ての勉学の基本となる日本語について、自学自習を基本とする少人数指導による学習を行う。さらに、日本語の運用、科学レポートの作成、受講の方法について、課題の解答を通じて学ぶ。教員からは今話題となっている研究について、身近な先輩からは大学での勉強のあり方、大学と高校の違い、将来への展望等について、さらに大学院に在籍する留学生からは日本を取り巻く様々な国々に関する情報を得る機会を設ける。また、学習・生活支援、保健管理センターや図書館の利用法等、大学生活に必要な事柄を学ぶ。他に、「応用生物科学における数理・データサイエンス」「岐阜大学の環境の取り組み」というテーマで2回の講演会を設定する。		
教養科目	人文科学科目	哲学分野	哲学入門(正義について哲学しよう)	古代から現代に至るまでの、西洋思想の中で考え出されたさまざまな「正義論」を紹介する。具体的には、最大多数の最大幸福論、自由擁護論、自由至上主義、権限理論、動機主義、平等主義、実力主義、共通善の実現可能性などがあげられる。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	哲学入門(西洋哲学入門)	私たちは自分自身や身の回りのことについても、この世界についても、いろいろなことを知っているように思われる。しかしそもそも知っているとはどのようなことだろうか。人はなにを知ることができるのだろうか。また、もしなにかを知ることができるのだとしたら、その知識はどのようにして得られるのだろうか。こうした問いに取り組む哲学の領域は、認識論や知識の哲学などと呼ばれる。西洋哲学、とりわけ近代の哲学において、認識論的な領域は中心的な位置を占めてきた。この講義では、おもにデカルトからカントまでの西洋哲学を、認識論の問題を軸に概観していく。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	哲学入門(批判的思考(クリティカルシンキング))	論理的に考え、話すためには、論理学の基礎を身につける必要がある。一人の学生として、そして社会人として、論理的思考が求められる場面は多い。この講義では論理の基礎を学んだ上で、実践的な日本語運用を通じた批判的思考(クリティカルシンキング)を学ぶ。演繹や帰納といった思考の方向性を理解することはもちろん、否定や接続表現の使い方など、私たちが社会において様々な問題について議論を交わし、合意を得るためには、単に日本語を話せるだけでなく、その高度な運用能力が求められる。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	人間・死生学(現代人間論)	「どうして自分は生まれてきたのだろうか」「死んだらどうなるのだろうか」——わたしたちは、このような問いに明確な「正解」はなく、考えても意味がないと思いがちである。しかし、わたしたちにとって大切な人を失うなど、人生の意味をつきつけられる場面は避けることができない。この授業では、人間の死生観にかかわる問題を通じて、これらの問いを考えていく。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	近現代思想(日本の近代思想)	本授業は、『未来をひらく歴史』(高文研)を中心に、日本・中国・韓国の3国の研究者たちが共同でとりくんだ歴史像とはどのようなものか、討論しながら学ぶものである。大学では学年が上がるにつれ講義形式が中心の授業形態からゼミ形式の授業へと転換する。本授業でもゼミ形式の授業を取り入れ、各人の資料のまとめや意見を中心に授業を進めていくので、授業への自主的な取り組みが評価の対象となる。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	近現代思想(自由と現代社会)	哲学の歴史を振り返ると、自由と社会的規制(政治的自由)についても、自由意志が存在するかについても、古くから長い議論がなされてきた。本講では自由に関するこの二つの論点を前半・後半に分けて紐解き、古典的議論から現代の議論までを参照に、現代における自由のあり方やその可能性について学生と共に考え、考えを深化させたいと思う。前半の政治的自由は社会・共同体の一構成員として、学部や選考に関わらず考えるに値する課題であり、後半の自由意志の問題は、脳科学と哲学の交差が焦点になり、文理融合的な課題となる。この点は、全学共通教育に相応しいテーマだと言えるだろう。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	近現代思想(西洋近現代思想)	この授業では西洋哲学の中でも、言語の問題を中心に扱っていく。西洋哲学は古代ギリシャから続く歴史ある分野だが、日本では馴染みがうすく、多くの人はこの学問を「昔のヨーロッパの人が考えた、よくわからない難しいもの」という認識で捉えているのではないだろうか。だが、哲学というものは多くの場合、現代の私たちにも通用する普遍的な事柄を語ろうとしている。歴史上の哲学者たちが遺した思想は、現代の私たちにも多くの示唆を与えてくれるはずである。今期は、言語学や言語哲学の概念を使い、私たちが生きるこの世界と言語との繋がりを考える。その後、言語学と結びつきながら構造主義の一環として展開された記号学(セミオロジー)についても学んでいく。	
教養科目	人文科学科目	哲学分野	科学論(生命と癒しの科学論)	「生命と癒し」にかかわる人類の知恵や技を科学論の視点から人分科学的に読み解くまなざしを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 哲学分野	東洋・日本思想(インド思想の特質)		古代インドでは、バラモン思想、仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー哲学などの多数の思想・哲学・宗教が出現した。これらはインド国内にとどまることなく国外文化に受容されており、その点で何らかの普遍性を有する知と見なし得よう。本講義では、インド思想を歴史的に概観しつつ、古代インド人がいかなる哲学的問題に思索を巡らせ、またどのような世界観を信仰に基づいて形成したかをみていく。なお、古代インドの理解に際しては、思想・哲学・宗教という三つの観点をそれぞれ独立したものと捉え扱うことはしばしば困難を伴う。従って、本講義では敢えて分けずに取り組みたい。	
教養科目	人文科学科目 哲学分野	東洋・日本思想(中国の古典思想)		二千年以上の歴史を有する中国の古典思想について概説する。そのうち、特に春秋・戦国時代の諸子百家の主要な思想家について、おおむね成立時代順に概説する。この時代の思想は、漢以後の仏教が伝来し道教が発生して、三教交渉の様相を呈するようになる後の中国思想とは異なり、純粹の中国固有の思想であり、いわば中国思想の原点と言うべき思想である。この時代に成立した様々な思想について解説し、中国古典思想の多様性について説明する。先人の思索内容を知る事によって、個人の主体性の確立に資する事を期待する。	
教養科目	人文科学科目 哲学分野	倫理学(倫理学とは何か)		現代の社会において、セクハラやパワハラなどの「倫理的問題」はわたしたちの日常生活に密接にかかわり、個人の「倫理観」が問われる場面は少なくない。しかし、そもそも「倫理」とはいったいどういうものなのか？また、どういう行為が「倫理的に正しい」のか？このような問いに答えるために、本講義では、まずソクラテスやニーチェなどの哲学者たちの倫理についての考え方を確認し、それから現代の倫理的問題を考えるうえで避けて通れない議論を検討する。	
教養科目	人文科学科目 哲学分野	宗教学(比較宗教学概論)		授業では、世界の三大宗教である仏教、キリスト教、イスラム教をテーマ別に比較考察する。テーマには、創唱者、聖典、教義、宗派、死生観を設定する。また、必要に応じてユダヤ教やヒンドゥー教にも言及して三大宗教の理解を深める。主要な宗教に対する基礎知識が単にふるきを知るだけでなく、現代を読み解く鍵となることを関連する新聞記事などを適宜配布し確認する。また、宗教に対する各自の先入観を大切にしつつ、授業を先入観の誤解を解く場、あるいは根拠付ける場としてもらいたい。昨年、宗教と関連したさまざまな出来事が国際社会で多発している。その点において宗教は現代の国際社会を理解するための不可欠なキーワードとなることも確認する。	
教養科目	人文科学科目 哲学分野	宗教学(社会問題と宗教)		本科目は、身近なものから、グローバルなものまで、宗教に絡む社会問題に焦点をあて、社会に根付いている宗教思想を再認識することを目的とする。講義については、初回アンケートを実施し、教回宗教概論の講義をおこなう。その後いくつかの宗教にかかわる社会問題の講義を行う。また1~2回レポート課題も課す予定である。なお、授業の感想アンケートや習熟度に応じて、若干内容の変更もあることも留意されたい。	
教養科目	人文科学科目 歴史学分野	歴史学入門(歴史学とは何か)		「歴史学とは何か」を講じるこの授業では、まず最初に、歴史学という学問がどのような作法・ルールをともった知的営みであるのかを解説する。つぎに、歴史学という学問が、長い時間の流れのなかでどのような歴史認識や世界史像(あるいは人類史像)をもたないながら形成されてきたのかを検討していく。具体的には、歴史学の形成において先導役をはたしたとされる西洋世界の、古代~現代の代表的な歴史家や思想家たちの作品などを素材にしなが、各時代の歴史認識・世界史像の基本的特徴を説明していく。また、講義全体を通じて、グローバル化や地球環境問題など、現在私たちが直面しているテーマについて、過去・現在・未来という歴史的な時間認識とグローバルな空間認識のなかで、柔軟に思考するための基礎を築いていく。	
教養科目	人文科学科目 歴史学分野	西洋・中東史(西洋史(イギリス近代史))		ヨーロッパの端に位置する島国イギリスは、近世以降、世界史の展開にきわめて重要な役割を果たしてきた。なかでも、他国に先駆けて市民革命、産業革命を達成し、19世紀にはヘゲモニー国家として君臨するに至ったこと、そしてそうした「先進性」ゆえに、かつて日本を含めた世界各国から見習うべき近代化のモデルとみなされていたことはよく知られている。では、このように近代世界の形成を牽引したイギリスとは実際にかいなる国だったのか。この授業では、近世・近代を中心とするイギリスの歴史を、政治・経済・宗教・社会・文化などさまざまな観点から学んでいく。一般的なイメージを裏切るような歴史的事実を交えながら、みなさんのイギリスに対する理解を深めていきたい。授業は講義形式で行いますが、映画や絵画や写真など視聴覚資料を利用しながら、できる限り具体的にわかりやすく進めていく。	
教養科目	人文科学科目 歴史学分野	西洋・中東史(西欧諸国形成史)		ことの善し悪しはさておき、世界の歴史のなかで、資本主義、市民社会や国際関係の基本ルールといった現代世界の枠組みを形作るうえで大きな役割をはたしたのは、近世以降の西欧諸国(イギリス、フランス、ドイツなど)であった。「西欧諸国形成史」を講じるこの授業では、そうした西欧諸国が長い歴史を通じてどのように形成されてきたのか、またアジア、アフリカや南北アメリカなど世界の他の諸地域の人々とのような関わりをもってきたのかについての基本的知識を身につけていく。より具体的にいえば、西欧諸国形成の歴史を古代・中世・近世・近現代という時代にわけたうえで、それぞれの時代の大きなトレンド(あるいはモチーフ)とは何であったのかを、各時代の主要なできごとやトピックを取り上げながら説明する。	
教養科目	人文科学科目 歴史学分野	中国・朝鮮半島史(朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)		現在の日本は世界でもトップクラスの経済大国となり、さまざまな役割を果たしている。ところが、日本は東アジア、中でも中国や韓国など近隣諸国とは過去の歴史をめぐってトラブルや葛藤が絶えない。複雑で迷路のような現代社会と文化には誰でも感嘆されやすいが、日本の若い世代と一緒に迷いながらも、日本と東アジア、とくに日韓関係の中でも交流史に注目する。近代の国民国家のもつ矛盾と限界をめぐる最新の理論も踏まえて日本と朝鮮半島との交流史を深く理解することが、創造的将来への展望を立てることにつながる。そして結果として健全で創造的な批判精神を兼ね備えた21世紀をいきる自立した市民の誕生に結び付く。具体的には旧石器時代の日韓の人間・文化・歴史の誕生と交流から21世紀の日韓関係の弊害になっている自民族中心主義の背景を探る。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	中国・朝鮮半島史(中国史)	日本は古来、中国大陸からの影響を受けてきた。学び取った中には当時最先端であった、今でいうところの科学技術も含まれている。前近代の中国ではどのような科学観を持ってきたのか、どのような技術に支えられてきたのか、を紹介する。中国史の基本的な概要を押さえながら、内在的な発展と外部からの刺激の両輪で発達していた中国の科学や技術について、主に建築の側面から解説する。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	世界近現代史(現代国際関係史)	19世紀後半から20世紀前半のアジア太平洋地域に重点をおいて、現代における国際関係の歴史的展開を考察する。20世紀は「アメリカの世紀」とも呼ばれたように、米国の影響力が世界大に拡大していく世紀でもあった。そのため、アジア太平洋地域の歴史を振り返る際にも、どのようにして米国がそれぞれの地域に進出し、どのような関係を築いていったかという過程を軸に据えて検討したい。また2020年には、米国大統領選挙の結果、現職の大統領だったドナルド・トランプが敗れたが、それを不満に感じたトランプ支持者が、連邦議会議事堂で死者を出す事件を起こすなど、依然として米国の政治に大きな注目が集まっている。こうした一連のニュースの理解の一助として、米国の政治の仕組みについても、歴史をふまえて解説する。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	世界近現代史(アメリカ概論)	近年の日本は、アメリカの政治・経済・文化から多大な影響を受けている。あまりに身近な国家なため、アメリカのことならだいたい知っていると思いがちであるが、私たちは本当にアメリカについて理解しているのか？そこでもう少しアメリカ合衆国についての理解を深めようというのが大きな狙いである。そのためにこの授業では、いくつかのテーマに沿って概説的にアメリカ社会を学んでいく。例えば「なぜ銃をなくせないのか？」という観点からアメリカ社会を眺めてみると、風土や国の成り立ちが、人の考え方にも影響を与えてきたことが分かってくる。アメリカ人はどのように物事を考えるのか、またそれはなぜなのか、などを知ったり考えたりすることは、より深くアメリカ(人)の行動を理解できるようになる助けになると考える。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	世界近現代史(ドイツ文化史)	ドイツの文化的側面をさまざまな視点から捉えて、日本の近代化との関連も視野に入れながら、ドイツ的なものは何か、その本質を探っていく。ドイツ文化史という何か一つの統一的な歴史を学ぶというよりは、毎回トピックを挙げて集中的に論じつつ、全体としてドイツ像が浮かび上がるように配慮していきたい。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	日本史(日本の歴史)	この講義では、古代から現代までを「平和」という統一テーマでみていく。それぞれの時代にはその時代特有の制度、習慣、価値観がある。各時代を単純に比較することはできない。「平和」に対する意識も、現在と異なる面が多くあったと考えられる。では、先人たちが希求した「平和」を学ぶ意義はどこにあるのだろうか。この問いを考えるには、各時代の特徴をできるだけ多く身につけ、過去と現在の「平和」意識の違いを検討することが重要である。今後、皆さんが歩んでいかれる際の教訓を、講義での話し合いや討論、思考力の鍛錬を通じて1つでも多くみつけてもらえればと思う。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	日本近・現代史(近現代日本の政治と国家主義運動)	本講義は、幕末から戦後までの近・現代日本の歴史を学ぶ。幕末における天皇権威の上昇、明治新政府の成立と日清・日露戦争、大正デモクラシー期の政治と社会、昭和初期のテロ事件と満洲事変、日中戦争～アジア・太平洋戦争、戦後の象徴天皇制といった、重要な事項の背景・展開・意義を歴史学の成果に基づきながら解説する。さらに、政治史の概説に加えて、近年の研究を一部挙げながら、歴史学がイメージにとらわれず疑問を持ち、自ら考える学問であることを紹介したい。	
教養科目	人文科学科目	歴史学分野	民俗学・人類学(人類学入門)	人類学は、世界のさまざまな文化や社会の多様性を取り扱う学問である。本授業では、人類が世界各地で育ててきた多様な文化や社会のあり方を理解するための枠組みを学ぶ。それを通して、自分が生まれ育ってきた世界の「当たり前」を一度脇へ置き、異文化や他者を理解するための方法や姿勢を養う。	
教養科目	人文科学科目	文学分野	文学(文学とは何か)	「時代を映す鏡」として、まずは多くの文学作品に関する知識を得る。一方で、ひとつの作品を深く掘り下げて読むことで、自分の読み方を会得して、今後の人生においても長く文学に親しんでゆける素地をつくる。本講座では、その基礎として、あらずじは知っている作品、あるいは映画やアニメで内容は知っているという作品の原作を詳しく読み、映像作品と比較検討してみる。とりわけ童話や子ども向けの文学と捉えられている文学作品に対する先入観を瓦解させ、大人としての新しい読み方を模索したい。また、精読から得られる魅力を味わうために、原典講読のおもしろさも体験する。	
教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学(朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	朝鮮半島の神話と伝承文化そして伝統芸能などを(1)比較文化論の立場で読み解いていく。そのためには(2)朝鮮・韓国のシャーマニズムを熟知する必要がある。朝鮮半島の巫俗信仰はこれら神話・文学・伝統芸能と密接に関連しており、それらの原形ともいえる。朝鮮半島の神話・文学・伝統芸能の特徴をより楽しく理解するためにも(3)日韓の比較文化論の視点は極めて重要であり、(4)多岐にわたるテーマの比較を試みる。(5)朝鮮半島の儒教と日本の仏教そして武士道との比較も欠かせない。(6)古代の日本文明において欠かすことのできない朝鮮半島の神話との比較検討は日本文化の基層を理解するのに役に立つ。(7)仮面劇をはじめ日韓の伝統芸能の比較。(8)人間関係や距離感の違いなどテーマは多岐にわたる。(9)授業をより円滑に進め、講義内容の理解度を高めるために(10)ビジュアル資料を援用する。	
教養科目	人文科学科目	文学分野	外国文学(英米文学を読む)	この授業は、英語圏の文学作品に楽しんでふれられるようになることを目標とする。これまで洋書を読んだことがなくても、翻案映画作品などを入り口としながら、物語を楽しむことができるようにサポートする。また、イギリスとアメリカを中心にいろいろな年代の多種多様な物語に触れることで、それらが成立した時代の雰囲気や学んだり、文章と映像の表現方法の違いや特性について考えたりする機会を提供する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 文学分野	外国文学(三国志時代の文学)		「三国志」という時代は小説をはじめとして、様々な分野で現在でも親しまれているが、中国文学史に於いてもこの時期の文学は「建安の風骨」と称され、中国古典詩の創生期にあたる極めて重要な時代であった。本講義の前半では、三国志の歴史の流れを追いながら、曹操の人生とその詩を取り上げる。後半は、曹操のもとで活躍した詩人たちが諸葛孔明「出師の表」などを紹介していき、日本文学には見られない中国古典文学独特の魅力を解説する。	
教養科目	人文科学科目 文学分野	外国文学(西洋文学論)		活字や映像で与えられる情報の真偽を見分けるリテラシーを必要としなかった時代は終わり、いまや受容している情報の意味内容を掴むだけでなく、その情報が自分に与えられていること自体の意味を把握しなければならない。芸術作品は、たんに作家の内面世界をリアルに伝えているだけでなく、世界の謎を映し出している。そのことを作品から考察できる力をつける。	
教養科目	人文科学科目 文学分野	外国文学(ロシア革命と文学)		この授業は、次の3点から構成される。(1)まずは帝政ロシアから革命を経て、ソヴィエト連邦に移行していく歴史を通史として学び、その上で(2)革命の理念と目的を、当時の社会状況に照らして紐解いていく。それを踏まえて、(3)当時の作家(詩人)が果たした役割と、テキスト(和訳文)を読み解いていく。文学を通じて、隣国ロシアの歴史と文化を学ぶことが、本授業の狙いである。2017年でロシア革命は100周年を迎え、その際ロシアでもニュースや出版物を通じて、ロシア革命を振り返る機会が多く持たれた。日本ではあまり注目されなかったが、この世界的な出来事について文学を通じて振り返り、ソ連やロシアの文化・社会について、深い理解と自ら考える力を身に付けていくことを目標としている。	
教養科目	人文科学科目 文学分野	日本文学(近世文学の世界)		近世文学とは、一般に江戸時代の文学を指す。江戸時代は約250年続いたが、その間にはさまざまな文学作品が登場する。それらが現在の皆さんの毎日に直接影響することはないが、知らず知らずのうちに生活や心にしみこんでいる。この授業では、それを表面に浮き上がらせて現在と過去の関係を学んでもらいたいと思っている。授業では、必要に応じて作品の読解もするが、個別の作品を深く読んで分析することよりも、大局から近世文学を捉え、そのパラエティーの豊かさを楽しむことを主眼とする。そして、文学の背景にある当時の社会を、現在と断絶したものでなく、現在とつながるものとして意識する機会を提供したいと思っている。取り上げる作品は、短いものとして俳句(俳諧)、長いものとして小説(戯作)を予定している。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学入門(日本語学入門)		この授業は、日常での、なんとなく「おかしい」「おもしろい」「気になる」日本語をテーマに取り上げ、その実体に関わる「日本語のしくみ」について考える。日本語母語話者が、普段あまり意識していない、日本語の規則性・体系性について学ぶ。日本語を分析・考察するために、言語学の基礎知識を学び、受講者が学習してきた言語や、留学生がいる場合、留学生の母語を比較対照する。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学入門(一緒に学ばまい! 岐阜の方言と南欧の言語)		南ヨーロッパのラテン語起源の言語(イタリア語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ルーマニア語など)を、岐阜の方言を含む日本の方言と比較しながら、言語のバリエーションとは何かを考える。とは言っても、いきなりイタリア語などの言語を深く知ることはできる。日本語の中にも入ってきている料理や芸術分野の外来語や、英語とつながって考えていくなど取っつきやすい内容に工夫することはもちろん、その言語の歌を歌いながら楽しく南ヨーロッパを旅していくことがこの授業の一番の目的である。日本や世界にいろいろなことばがあって楽しいなあと思える授業にしていきたい。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学(北欧のことばと地域の方言)		この講義では、言語一般に関する知識を習得するとともに、外国語である北欧諸語を初歩的に学び、外国語と日本語、地域の方言(主に岐阜)、自身の方言を客観的な視点で観察し、その違いや特徴を発見、理解できることを目指す。そして、外国語を知ることが、自身の母語や方言の客観的な理解につながることを学ぶ。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学(フランス語論)		まず1つは、グループ学習:各小グループにテーマを1つずつこちらから提示する。それをもとに、各グループは授業外で学習・まとめを最後に発表をする(テーマを提示してからのちは、毎週90分のうち始めの15分程度で1グループが発表をしていく)次に教師側から発表したグループと同じテーマについて、学生から出てこなかった内容を伝える授業を行っていく。テーマ以外にも、簡単な会話をしたり、映画を見て文化に触れたりする。また、フランスの最新の情報を伝え皆で考える。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学(児童の文章表現)		「文章表現」というと文章の書き方や技法、あるいは書き手の感覚や能力、技能といったものをしばしば思い浮かべる。しかし、私たちが日常的に行っている「書く」ことは、個人の能力や言語の技術にとどまらず歴史、社会、文化、制度などによって形作られてきたものでもある。本授業では、明治以降に書かれた児童の文章を具体的に取り上げながら、子どもを取り巻く社会の変化を読み解いていくとともに、それぞれの時代において、世の中が子供たちの表現に何を見出し、何を求めてきたのか考察していく。学校で書かれた作文だけではなく雑誌や映画化された作文なども取り上げ、文章を書くことと社会の移り変わりの関係をふまえながら、子どもにとって、さらには私たちにとって「書く」ことを学ぶとはどのようなことなのかを考えていく。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学(映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化)		映画は様々な点で良い学びの教材となる。各作品の内容と公開年を照らし合わせれば、その時代の世界情勢や社会的背景などに関連したメッセージを読み解けることがある。また、英語の映画の場合は、学校の教科書や学習参考書には登場しない特殊な英語表現や、新語・造語など各時代特有の表現を多数観察することができる。さらに海外の映画からは、その国の文化の一端を知ることができる。本授業では、毎回テーマとなる映画を1つ取り上げながら、1各ヒット作と当時の社会との関係を学び、2教科書の言語現象を通して多角的に英語を観察し、言語に対する知見を広め、3英語圏の文化に対する理解を深めることを目指す。毎回の授業で小クイズや課題を出す。また学期中に2度、各自で選んだ映画を題材としたレポートを提出してもらおう。レポートのテーマになりそうな話題は、教員も毎回の授業で提供する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 言語分野	言語学(日本語再発見)		身近な問題を手がかりに、言語のさまざまな事象について興味と関心を持つようにしたいと思う。これは、「正しい日本語を使う」ことが目的なのではない。日本語をさまざまな角度から見たとき、どのような言語として捉えられるかを見ていく。その過程で、日本語研究法についても言及することになる。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	日本語表現論(劇作における会話表現)		人と人のコミュニケーションの基本である「会話」や「対話」の構造を、最先端の現代口演劇の会話研究を切り口に、実践的、模擬経験的に探求してもらう。日々の日常会話と会話劇の類似点や差異を見つめながら、実際に自己表現を試みってもらう。膨張するネット社会にあつて再構築が求められる「生きたコミュニケーション能力」を、演劇の基本要素である「自信を客観視する」体験を通じ、他者へのアプローチ、その方法などの幅を広げよう。具体的にはミニゲームや短いエチュード芝居を経験してもらったり、実際に短い台本を書いてもらったりする。演劇というスタイルを武器に、いろんな角度から、コミュニケーション能力を向上を目指す。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	日本語表現論(日本語口頭表現)		日本に定住する外国人が増加している今日、隣近所、会社、学校、病院など、様々な場所で外国人とのコミュニケーションを円滑に進めることが求められている。こうしたコミュニケーションでは、単なる日本語でのやり取りに留まらず、同じ母語や社会背景を持つ人に対してのものとは異なる対応が必要になり、実際に外国人と接して初めて分かる事柄が多い。こうしたコミュニケーションにおける最重要項目は必ずしも「日本語を正しく流暢に話すこと」ではない。聞き手の社会的・文化的背景を踏まえた適切な表現をし、話し手の意図を汲んだ適切な反応をすることも重要である。また、日本語母語話者は日常的に自然なコミュニケーションを行なっているが、何が「適切」なのか、何が「自然」なのかを完全に意識化しているわけではない。この授業は、外国人日本語学習者との口頭表現活動を通じ、日本語による口頭コミュニケーションについて考えるものである。	
教養科目	人文科学科目 言語分野	日本語表現論(実用的な日本語表現を学ぶ)		オンデマンド型授業「日本語表現Ⅰ(初級)」の対面版である。待遇表現と文章表現について学びを深める。待遇表現では、相手の気持ちや立場に配慮したコミュニケーションができる力を身に付ける。文章表現では、生成AIが出力する情報をチェックする能力を養い、上手く利用しながら、自分の考えを正しく適切に表現できる力を身に付けていく。	メディア
教養科目	人文科学科目 言語分野	日本語表現論(あいみよんの歌詞から学ぶ日本語表現)		J-Popの分析を通じて、日本語の音声、表記、文法・談話、運用について理解を深め、日本語の確かで豊かな理解と表現を磨くことを授業の狙いとする。比喩を含めた文学的内容は講義内容には含まないが、学生間で話し合ってもらう題材とする。	
教養科目	人文科学科目 心理・行動学分野	心理学入門(心理学概論)		心理学とは何かについて、基礎となる知識や概念から専門的な知見までを学ぶ。心理学のさまざまな領域について基本的な知識や考え方、対象とする問題を学習する。つまり、心の仕組みと働き、心のダイナミズム、社会のなかの心、心の適応と臨床に至るまでの領域を体系的に学習することになる。 (オムニバス方式/全15回) (34 板倉憲政/3回) 身近な人や社会との関係、対人コミュニケーション、集団・社会との関係 (44 伊藤宗親/3回) 心理学とは、心理学の歴史、心理学の未来 (250 月元敬/3回) 知覚・認知、記憶の心理学、行動と学習の心理学、学習と認知のはざま (352 松本拓真/3回) 臨床心理学とその理論、人間の悩みとその援助、人間の性格について (330 別府哲/3回) 人間の発達的理解(乳幼児、児童期)、人間の発達的理解(青年期、高齢期)、心の測定について	オムニバス方式
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	心理学入門(社会心理学)		本授業では、社会心理学の基礎を学ぶことを通じて、個人の意識や行動をさまざまなレベルでの社会(自己、二者関係、小集団、群衆、地域、社会体制等)との関係から理解することを目的とする。そのために、講義、自己記述式ワーク、グループワークによって、多面的に社会と心理の関係を学ぶ。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	心理学(幼児発達支援入門)		わが国においては少子化が進む中、同胞の数も少なくなったこともあり、幼児と接する機会がほとんどない大学生が増加している。教育、医療の場への進路を求める学生のみならず、在学中の地域における諸活動への参加や、ひいては、将来、自身が父母となった時の幼児の発達支援の基本的な構えについて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目	心理学実験・調査法(心理学実験・調査法)		心理学は、長年にわたって心理的な事象を科学的に研究するために様々な手段・方法を開発してきた。本授業は、これらの手段・方法を実際に体験した上でその実験の意義や得られた結果が意味するところ、その後の研究の発展等を解説することで理解をさらに深めることを目的としている。扱うテーマは知覚のズレ、学習の転移、葛藤、印象評価、尺度構成などである。上記の実験・調査の内容を的確に理解するために、予め心理学に関する授業を受講し、心理学の枠組みが理解できていることが望ましい。そのため履修条件は「2年生以上」とし、その上で1年次に心理学関連の講義を受講した上で受講することを強く勧める。	
	文化・芸術分野				

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	西洋文化論(ロシア人の生活と言語)		ロシアという隣国で暮らす人々の日常生活を知るとともに、公用語であるロシア語の初歩の初歩を学習する。語学をマスターするというよりは文化の一部としての外国語に触れ、日本語や英語との発想の違いが感じやすい。ある程度ロシア語の表現を理解できた段階でロシアの映画やアニメを視聴する時間を取る。原則として、毎回、日本人とロシア人の2人が教員が授業を進める。	共同
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	西洋文化論(西洋建築史)		新しい生活空間を創造・享受するためには、自然と人間の在り方を歴史的に理解することが必要である。本授業では、西洋の建築と都市に関する様々な思想を知ること、および建築作品や都市景観を見ることを通して、現代の状況を多角的に把握し、未来を見通す力を涵養する。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	西洋文化論(ロシアの自然と言語)		ロシアという隣国で暮らす人々の生活について「自然との付き合い方」という観点から照会するとともに、公用語であるロシア語の初歩の初歩を学習する。語学をマスターするというよりは文化の一部としての外国語に触れ、日本語や英語との発想の違いが感じやすい。ある程度ロシア語表現を覚えた後、ロシアの映画やアニメを視聴する時間を取る。自然科学としてのロシアの自然をとりあげたのではなく、ロシアの人々が日常生活の中でどのように自然とかがかかわっているのか、あるいは季節感を感じるロシアの行事等の紹介を中心とした内容である。原則として、毎回、日本人とロシア人の2人が教員が授業を進める。	共同
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	日本文化論(日本語文化論：国語教育史)		昭和戦前・戦中期の小学校(国民学校)の国語教科書を講読する。そこから、昭和戦前期の人々が求めていた理想的な人間像を想像する。また、当時の日本人の価値観、美意識、倫理観などを学ぶ。当時の小学校国語教科書には、その時代を生きるにあたって重要とされる徳目が隠されている場合も多い。その中には、時代を経てもある程度の普遍性を有する、基本的規範も含まれている。そうした普遍的価値観を、本講義を通じて再確認していきたい。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	日本文化論(礼儀作法の理論と背景)		ひとが外界と関わりを持つ中で、社会的に望ましいとされる言語的・非言語的な様式が文化に定着したものが礼儀作法である。本講義ではこれらの本質と望ましい在り方の理解と修得について、とくに日本の礼法及び年中行事の作法等を手掛かりとしてアプローチを試みる。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	現代文化論(現代の文化研究)		この講義では、現代の若者たちの対人コミュニケーションを日本社会・文化の中に位置づけて考察する。近年、それは大きく二極分化してきているということがよく言われる。まず、この二極分化とは、どのようなものであるのかについて明らかにする。次に、その二極分化の中において、一般的な若者たちの言語行動を位置づけて考察する。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	現代文化論(科学技術と人間社会)		本講義では、機械技術、人間支援システム、メカトロニクス、インテリジェントシステム、医療、核エネルギー、情報産業、ロボット、燃焼技術、宇宙機器などの技術を取り上げ、その発展と人間社会に及ぼす影響を、過去・現在・将来にわたって議論する。 (オムニバス方式/全15回) (39 伊藤聡/4回) ロボットと人間社会 (245 玉川浩久/2回) 水とは何か (392 山田貴孝/2回) コンピュータの知能化、モノ作りのシステム (395 山田宏尚/4回) 人間社会のための科学技術とは、日本の技術開発とものづくり、ものづくりと人間社会、人間工学による技術開発 (366 宮坂武志/3回) 宇宙開発と人間社会、エネルギー・環境問題と燃焼技術	オムニバス方式
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	異文化論(社会の中の言語・言語の中の社会)		わたしたちは、ことばを用いて他者とコミュニケーションを図る。その際、日本語や英語といった言語レベルだけでうまくいくわけではない。将来、教育に携わる方は、言語・文化・社会への視点の豊かさによって、授業の深み・幅が変わってくる。また、教育以外の場面で社会に参画する方も、言語文化観の豊かさはコミュニケーションを通じた人間関係の構築に寄与する。本講義では、言語・文化・社会にかかわるさまざまな「当たり前」を問い直す内容を扱う。すなわち、言語・文化・社会に対する見方に「ゆさぶり」をかけ、それらを多角的に見ることができるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	異文化論(リトアニア学)		この授業では、バルト三国の一つである「リトアニア共和国」について学ぶ。リトアニア共和国はバルト海に面したヨーロッパの国であり、岐阜県とは「命のビザ」で有名な杉原千畝氏の関係が深い国である。しかし、国の名前は知っていても、その歴史や文化を知らない人が多い。この授業を通して同国について理解を深めて、交流の架け橋となる人材を育成する。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	異文化論(グローバル人材としての諸外国理解)		グローバル人材として活躍する際に教養として必要とされる各国・地域における社会・経済・文化を理解する。また、各地域によって異なる対応が必要とされるリスク管理の必要性を学ぶ。岐阜大学と協定を有する様々な国の協定大学の教員らによる英語での講義を経験する機会を設け、本授業内で学んだ英語によるレポート作成スキルを実践する。 (オムニバス方式/全15回) (167 小山博之/2回) 概要・アジア理解・欧米理解 (56 魏永芬/1回) アジア理解 (139 久米徹二/1回) インドの講義スタイル (144 ゲランジル/1回) 欧米理解 (198 嶋睦宏/1回) 欧米理解 (343 松井真弓/1回) 海外における健康管理 (345 松尾憲暁/1回) アジア理解 (402 山本真由美/2回) 海外における健康管理 (414 RICHARD T. Gregg/4回) 英語での受講スキル (415 リムリーワ/1回) マレーシアの講義スタイル	オムニバス方式
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	美術論(美術史)		美術というと、「絵を描くこと」を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、ここでは、美術作品を徹底的に「見ること」を学ぶ。その意味で、この講義は美術史学の入門的な性格をもっている。美術作品は、各個人が自由に見ていいが、作品には「見方」がある。その「見方」を学ぶことで、美術作品がいかに多くのことを語りかけてくるかに気づくにちがいない。美術作品は、たんなる趣味や楽しみだけでなく、じつは、宗教や思想、経済、社会状況、情緒・感情などと密接な関係にあり、人間が世界をいかに認識しているかを示している。だから、美術作品の「見方」を学ぶことは、人間や世界を知ることにつながる。そのような考え方で、次の項目に沿いながら、美術作品の面白さと重要性を理解できるよう、平易に講義する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	美術論(デザイン論)		産業革命以後、19世紀末のアーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーヴォーの時代から、二つの世界大戦間期に機能主義が発達したモダニズムの時代、洗練された都市生活がつけられたミッドセンチュリー、大量消費社会を土台にしたポストモダニズムと、そして社会的な問題解決に向けたSDGsが普及する現代にいたるまで、豊富なスライドとともに20世紀におけるデザインの歴史をたどる。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(オーケストラ音楽を聴く)		交響曲やオペラと言ったクラシック音楽だけがオーケストラの音楽ではない。パレエ音楽、ミュージカル、CM、テレビ、街中で聴こえてくる音楽、歌謡曲、映画音楽、ゲーム音楽等幅広いジャンルにオーケストラが関わっている。この授業では、クラシック音楽を中心とした幅広いジャンルに渡るオーケストラの音楽に触れ、オーケストラ音楽が身近であることを体験する。授業では毎回ミニレポートを課し自身の考えを書く。レポートは単なる感想文にならないよう、大学生としてなぜそう思ったのかあるいはそう感じたのか、根拠を示したレポートが書けるようになることもこの授業の狙いである。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(実用作曲法)		クラシック、ジャズ、ポップス等、古今のさまざまな作品を鑑賞、分析しながら、作品の仕組みや作曲法について考える。参加学生独自の作品があればそれらも取り扱う。また、各講義の前半で1、2名程度の学生が各自の好きな音楽について紹介する枠を設け、それについて教員が作曲学的観点から分析してコメントをする。履修生の積極的な参加を期待したい。例年アニソンやボカロを扱う学生が多い。講義終了後に学生間の交流や教員との意見交換が行われることが多い。履修生はある程度五線が読める必要がある。講義は知識や能力がさまざまな履修生に幅広く対応するため、作曲実技よりも作品分析に重点が置かれる傾向にある。作曲に特に興味のある履修生は個別に助言等をする。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(ドイツ歌曲への誘い)		歌とピアノによる極めてシンプルな芸術であるドイツ歌曲は、華やかさとは一線を画し虚飾を排した深みをもって、長く日本人に親しまれてきた。中学音楽で鑑賞教材に用いられたシューベルトの「魔王」を記憶する人も多いだろう。この授業ではベートーヴェンから後期ロマン派までの作曲家の名歌曲を取り上げ、詩を味わい、作曲者がその曲に込めた想いを紐解き、それらの歌曲の魅力に迫ることを狙いとしている。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(音楽への誘い)		クラシックであれ、J-POPであれ、人は音楽を聴くことに興味・関心を持っているといえるだろう。また、聴くだけではなく、自分で演奏することが好きな人も多くいることであろう。この授業で扱うのはいわゆるクラシック音楽である。クラシック音楽のいろいろな楽曲が生まれてきた背景、楽曲の構造等を明らかにしていくことによって、音楽を聴く耳を持つことができるようにすることを目的とする。毎回、楽曲を聴きながら、曲の構造、時代背景等を理解し、その音楽の魅力に迫る。この授業では交響曲、協奏曲等オーケストラの演奏を中心に扱う。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(音楽芸能文化概論)		日本を含めた世界の音楽芸能についての授業である。様々な音楽芸能について文化的背景を含めて学習する。主な課題として読書課題が、Timothy Rice著 "Ethnomusicology: A Very Short Introduction" などから出される。各単元のクイズと試験のほか各自が学外に赴いて実施するフィールドワークをもとにしたレポート課題がある。	
教養科目	人文科学科目 文化・芸術分野	音楽論(ピアノ基礎(連弾))		譜面を読むことが大変な方は、予習復習に時間がかかる可能性がある。留意事項として、練習場所は「自宅」になる。自宅に「鍵盤楽器(ペダル付き)」があることが履修条件となる。フランス・ロマン派の作曲家「ガブリエル・フォーレ」のピアノ独奏用の作品から、「言葉のない三つのロマンス第三Op. 17-3」、「シシリエンヌOp. 78」を取り上げる。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	法学入門(法とは何か)		みなさんは、日常生活を送る際に、特に「法」を意識しながら生活していないかもしれない。しかし、法律は日常生活に大きな関わりをもっている。また、多種多様な価値観をもった人間が共同社会を形成していくうえにおいては、如何に自らが注意していたとしても、争いごとに巻き込まれる可能性は否定できない。可能な限り紛争が発生しないように、また仮に紛争が発生した場合であっても、その解決手段となるのが「法」である。そのため、「法」についての知識や法的考え方を身に付けておくことは、これからの人生において無駄なことではない。本授業では、社会で起きている具体的なトピックを素材に、法的観点からその対処法について考えていく。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	日本国憲法(人権)		通例、憲法学には、大きく分けて「統治機構」と「人権」という二つの領域があるといわれる。本講義では、そのうち、日本国憲法の「人権」に関する重要論点をとりあげ、それを具体的な事例のなかで考えることを通じて、憲法の観点から物事を見る能力を鍛えることを目的とする。ただし、現実政治のなかで「統治機構」に関する重要な出来事が生じた場合には、受講生の要望もふまえて、「ケース・スタディ」として「統治機構」の論点の解説を行うこともある。したがって、受講生には、日頃から政治の動きに対して広く関心を持っていることが求められる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学科目 法学分野	日本国憲法(教職のための憲法)		この科目は、教員免許の取得を目指す学生に向けて、日本国憲法の基本理念と重要事項を概説する。日本国憲法については中学・高校でも学ぶ機会があり、条文の文言もシンプルかつ平易である。学生の皆さんの多くにとって、憲法は(他の法令に比べれば)それほど縁遠く感じないかも知れない。しかし「なぜ」そのような条文になっていて、制定以来75年以上にわたりに「どのように」理解され用いられてきたのか、考えてみたことがあるだろうか。条文を一つ一つ丹念に確認していくことは、法を学ぶときの基本である。それと同時に、法典全体の構成や法体系全体における位置付け、そして制定時から現在までの国や社会の変化を意識することで、各条文に関する理解が深まる。限られたコマ数のなかだが、そうした視点から憲法について考えられるようになるためのヒントを提供する授業をしていきたいと考える。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	日本国憲法(教職のための憲法)		「憲法」については中学や高校での学習やニュースで触れる機会があり、多くの人がどのようなことを規定しているのかについて一定の知識を持っていると思う。しかし、憲法が具体的にどのような内容を定めており、実際にどのような役割を果たしているのかについて考えることは少なかつたのではないかと。そこで、この授業では「憲法が定める基本的人権の尊重を中心に、それを支える国家制度について解説することにする。その際、過去の事件や判決などを取り上げ、憲法に基づいてどのように判断され、解決されたのかを考えていきたい。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	民事法(財産と法)		本講義では、「民法」のうちの「財産法」と言われる分野を扱う。「民法」と言う言葉を一度も耳にしたことがない人は、おそらくいない。「民法」という言葉を聞くとなんだか難しく堅苦しいイメージを持ってしまいがちだが、実はたいへん私たちの日常生活と密接したものである。私たちの生活に身近な存在である民法の財産法分野の基本的なルールを理解することを本講義の狙いにする。本講義では、民法を初めて勉強しようとする人を対象とするので、民法の財産法分野の重要な制度を重点的に分かりやすく解説する。法律学習の基本である条文と判例の解説を中心に授業は進むが、現代日本社会の状況を説明しつつ授業を進めたいと考えている。日本の社会状況に裁判所の判断が適しているのか、法的な整備がされているのか(条文を適用した結果は妥当なのか)を受講者自身に考えていただけるような授業を目指す。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	社会法(労働と法)		生きていく上で労働にかかわらない者はほとんどいないだろう。多くの者が、学生時代はアルバイト、卒業後は正社員やパート・派遣などとして働くことになる。しかし、労働に関するルールを知った上で働いているだろうか。内定した会社から突然内定取消し通知がきたらどうすればよいのか? 残業は断ることができないのか? アルバイトは有給休暇を取れないのか? 仕事中にけがをしたら治療費はどうなる? 本講義では、働き始めてから仕事をやめるまでの過程で労働者が遭遇するであろうトラブルについてとり上げ、どのような法的対応がとられるのかをみる。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	裁判法(市民と裁判)		日々、新聞やテレビなどで、「損害賠償として300万円支払うように命じられました」、「裁判員裁判で懲役15年が言い渡されました」という裁判事件が報道されている。また、しかし、「裁判」とは具体的にどのようなものなのか、誰がどのように行うのか、裁判にはどのような種類があるのかについては、あまり知られていないのではないかと。本授業では、民事裁判、刑事裁判を中心に、裁判及び法の役割と裁判の基本的な仕組みについて学ぶ。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	刑事法(犯罪と刑罰について)		連日、犯罪に関する報道がなされている。テレビではサスペンス・ドラマが放映されているし、書店に行けば多くの推理小説が書架に並べられている。おそらく、まったく刑事法に興味がないという方は稀ではないかと。また、裁判員制度が始まったことにより、国民の誰もが、これまで以上に刑事法について考えるべき時期を迎えている。そこで、本授業では「刑事法に関する正確な知識」をみなさんと一緒に学んでいきたいと考える。	
教養科目	社会科学科目 法学分野	知的財産権法(知的財産権法入門)		特許権や著作権などの知的財産権制度は、研究・論文執筆で学生時代から身近になる。また、社会人になれば、あらゆる業種・職種で知的財産権制度に関する基礎的な知識が不可欠である。この授業では、まず、知的財産権制度の概要、特許制度、意匠制度、商標制度、著作権制度の個別の制度の概要、仕組みや最近の話題などにも触れながら、今後、知的財産権制度の活用を行う上での基礎的な知識を習得することを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (261 豊吉滋/1回) 特許調査演習 (318 廣江政典/5回) 意匠法概論、商標法概論 (297 服部素明/9回) 知的財産権法入門(ガイダンス)、特許法概論、著作権法概論	オムニバス方式
教養科目	社会科学科目 政治学分野	現代政治論(近代日本の政治と行政)		本講義は、明治維新から第二次世界大戦にかけての日本の政治体制、すなわち明治憲法体制を対象に、その政治と行政の日本的特徴について理解を深めることを目標とする。明治憲法体制の特徴は、さまざまな法律や制度が、国家目標である「富国強兵」の達成という点に向けて最大限に動員された点にあったのではないかと考えられる。その根拠は、日本を取り巻く国際関係の特殊性と、これまた特殊な国家と社会の結びつき方にあった。そこで本講義では、世界システムにおける日本の地位と、その国内社会構造との関連性に留意しつつ、近代日本の政治と行政の歩みを振り返ってみたいと思う。	
教養科目	社会科学科目 政治学分野	現代政治論(現代日本の政治)		日本の政治についての入門的講義である。かつての自民党の長期政権期、いわゆる「五五年体制」(1955年~93年)の時代から、現在の日本政治までを扱う。戦後日本の政治の歴史的概略、基本的構造とその問題点、そこから提起された「改革」の諸課題(1990年代の「政治改革」、小泉「構造改革」など)を解説していく。最終的には、かつての自民党と、現在の自民党政権の性格の違い、日本政治の現局面の特質を理解していく。また、これらを通じ、政治学的に考えるとどのようなことか、政治の現象をとらえるとはどのようなことなのかを考える。	
教養科目	社会科学科目 政治学分野	現代政治論(日本の政治と世界)		後期の授業では、世界の政治経済に目を向け、いわゆるグローバル化時代における、国家と政治の本質について考えていく。現代の政治経済の理解に必須の概念、観点をおさえた上で、主として第二次大戦後の日本とアメリカの政治経済の動き、相互関係を、順を追って考察する。戦後体制の確立、高度経済成長期と、その後の危機の時期を経て、「経済大国」化した日本の政治経済は、米ソ「冷戦」終結後のアメリカの対日政策の変化にともない、さらに大きく変容したと考える。これらについて、前期とは全く異なる観点から理解していく。最終的には、発展途上国の政治経済の状況も概観した上で、現代の政治と国家の本質の性格についての理解を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学分野	平和学(国際平和学)		本授業では、第一次世界大戦と第二次世界大戦を振り返ることで、戦争が私たちの生命や安全をいかに脅かしてきたのかを明らかにし、このような戦争をなくすために、人間がどのような組織や制度を整備してきたのかを理解する。	
教養科目	経済学分野	経済学入門(現代の日本経済)		2017年6月に発表された日本の相対的貧困率は15.6%であり、OECD加盟国の中でも高い率を示した。このような日本経済の変容をどう理解すればよいか。本講義では、日本経済の発展と停滞の要因を歴史的・構造的に取り上げることで、今日の日本社会の格差・貧困化の諸原因と今後の日本経済の方向性を検討する。	
教養科目	経済学分野	経済学入門(社会における経済の仕組み)		私たちの日常生活は目には見えないが、経済によって運営されている。人や物、お金は私たちの思いとは別に、経済法則・メカニズムに従って動いており、私たちの生活を支え、時に危害を加えてくる。それらの法則を学ぶのが経済学であるが、個々の人や企業の動きを見るマイクロ経済学では、商品や価格、賃金や貨幣について学び、社会全体の動きを見るマクロ経済学では様々な経済指標から、経済成長や景気循環、経済政策を学ぶ。本講義ではこのような経済や経済学というものを、私たちの身近なものや実生活から考えて理解することで、目には見えない経済法則を皆さん自身が使いこなせることをめざす。	
教養科目	経済学分野	マクロ経済学(経済政策)		私たちが取り巻く様々な問題の多くは経済的な問題でもある。それらの経済問題に対して、経済理論を応用し解決に向けた方策を提案できるようになるための知識習得を最終目標とする授業である。講義においては、経済政策の基本理論を解説するとともに、個別の経済問題を分析し各産業界の経済政策によるアプローチを学ぶ。日本経済の経済政策の特徴を理解するとともに、経済政策の機能とそれぞれの政策を取り扱う政策主体(国家や自治体)の立場から今日の日本経済の課題に捉えられるようになることを学習目標とする。	
教養科目	経営学分野	経営学入門(はじめての経営学)		現代社会においては、情報技術・グローバル化・環境問題などの変化が激しい。そして、将来に対する不確実性が高まる中で、企業、自治体、非営利組織等は活動を行わなければならない。そこでは戦略、マーケティング、組織の基礎を学ばずに対応することは難しい。しかし多くの方は、中学・高校、あるいは大学等を卒業後、初めてこの事実を認識し、働きながら組織や企業について知ることになる。本講義では、さまざまな組織の中でも特に「企業」に焦点を当て、企業とは何か、どのようなことを行っているか、そこで働く人々はどのような役割を担っているか、などについて幅広く学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (193 柴田仁夫/8回) 企業、組織のマネジメント、人のマネジメント、イノベーション、グローバル化 (107 加藤厚海/7回) 企業におけるお金、経営戦略、マーケティング、CSR、CSV、SDGs、企業の分析の仕方-業界研究・職種研究	オムニバス方式
教養科目	経営学分野	経営学入門(ファイナンス・アカウンティング入門)		この授業では、企業経営に欠かすことのできない、ファイナンス(企業金融)とアカウンティング(企業会計)の基礎知識について学ぶ。ファイナンスとアカウンティングは、企業経営のなかでも特に重要な「資金の流れ」や「財務情報」に注目している。この授業での学びを通じて、企業の資金調達の方法やそれに関連する経済の仕組み、調達した資金の投資・運用した成果をどのようにとらえているのかについて理解できるようになる。専門領域にかかわらず、将来、社会人となるすべての学生にとって必要なビジネスマインドを修得していただくことが学習達成目標となる。 (オムニバス方式/全15回) (188 篠田朝也/8回) ファイナンスについて (153 後藤尚久/7回) アカウンティングについて	オムニバス方式
教養科目	経営学分野	経営学入門(現代経営学入門)		本ゼミナールの目的は大きく二つある。第一に、二つに分けて考えられがちな経済学と経営学の「境界」に着目し、その理論的展開を整理する。第二に、経済学と経営学の「境界」という観点から、日本経済の現状分析(半導体、EV、コンテンツビジネス)を行う。最近の経済ニュースに関する新聞記事を配布し、理論学習(抽象)と現状分析(具体)の往復運動を心がけ、「経済学」と「経営学」を架橋する。	
教養科目	経営学分野	マネージメント論(マーケティング論入門)		本講義ではマーケティングの基本的な考え方を学ぶことで、私たちの身の周りの商品やサービスがどのように私たちの思いに応え、どのように提供されているのかを分析する。また、マーケティングによって利益追求以外の分野、様々な社会問題の解決にも活用することで、マーケティングの応用可能性を学ぶ。最終的にはみなさんのような学生でも取り組める、小さなビジネスモデルを考案することで、みなさんがこれから身につける専門能力や興味・関心のあることをいかに商品やサービスを、必要とする人に届ける方法を考える。本講義はアクティブ・ラーニング型の講義ですので、ただ座って教員の話の聞いているだけの講義ではなく、自分で調べたり、話し合ったり、プランを考えたりする。	
教養科目	経営学分野	マネージメント論(マネジメントシステムと監査)		本講義では、本学が認証取得している環境MS ISO14001を一例にMSと監査についてISO14001審査員の資格を有した教員による講義、実際に内部環境監査を行って理解を深めてもらう。本講義では、環境MSを一例に講義を行うが、監査手法は他のMSでも役に立つ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学科目 経営学分野	マネージメント論 (めざせソーシャル ビジネス起業)		めざせソーシャルビジネス。持続可能な「かしもむら」を世界に発信する。岐阜県中津川市加子母(かしも)地区(旧加子母村)は、山に囲まれた山村である。江戸時代には尾張藩の所領となり名古屋城などの木材を供給した森林地帯である。現在では過疎化が進みつつも、林業・製材業・農業など地域の自然に根ざした「持続可能な」産業や暮らしがある。加子母地区でフィールドワークを繰り返して、「持続可能な」産業や暮らしのあり方を探る。さらにそれを世界に発信するために、外国人向け観光の体験プログラムを作る。その中で地域の課題をビジネスで解決するソーシャルビジネス起業の「ネタ」を探る。参加者は、現場に触れそこで活躍する人たちと交流することで、将来の自分のキャリアパスを「起業」を含めて考えることができる。	
教養科目	社会科学科目 経営学分野	マネージメント論 (PBLマーケティング)		マネジメントとは、問題発見・問題解決の積み重ねである。本講義では、具体的なケーススタディでビジネスの場面を想定し、学生に問題発見・問題解決の思考を体験させることが目的である。具体的な事例として、「松任谷由実ユーミンパー」「ネスレネスカフェアンバサダー」、「パナソニックポケットドルツ」、 「緑茶飲料戦争おーいお茶、伊右衛門、綾鷹、生茶」「カフェのポジショニング：スターバックス、ドトール、コメダ、セブンイレブン」、「ドライビール戦争アサヒ、キリン」を扱う。	
教養科目	社会科学科目 社会学分野	社会学入門(社会階層論)		現代社会では産業・情報の発展及び都市化の進行とともに、個人と個人との関係、個人と社会との関わり方も大きく変容してきている。現代のさまざまな社会問題を考える上で、この関わり方の変容を認識することはとても重要なことであると考えられる。本授業では、近年関心が高まってきている社会の格差や不平等といった社会問題について、個人を取り巻く社会的変化を時系列的に踏まえながら、社会学的視点に基づいて考察していくこととする。	
教養科目	社会科学科目 社会学分野	社会学入門(やさしいジェンダー学入門)		働き方改革、女性活躍、小1の壁、介護離職…。私たちがニュースで見聞きするこれらの社会問題は、実はジェンダーと密接な関係にある。授業では、私たちが暮らす現代社会における様々な問題、諸制度や慣習のなかに「ジェンダー」がどのように関わっているのかについて、諸外国との比較も取り入れながら理解を深める。	
教養科目	社会科学科目 社会学分野	社会学入門(社会の中の看護)		さまざまな価値観を持つ現代社会において、いかに自分らしい生活を送れるのかについても個々人の考え方によるところが大きいといえる。しかし、その基盤は健康なところと体にある。このような中で看護が果たす役割を様々な視点から学ぶことをとおして、健康について理解を深める。いつもは当たり前で過ごしている日々の生活を一度立ち止まって自分達の健康を確認し、看護の視点から健康について考察する。 (オムニバス方式/全15回) (93 小木曾加奈子/4回) 高齢社会と看護、認知症を学び地域で支えよう (205 社本生衣/3回) 看護の対象 (234 竹下美恵子/3回) 看護の変遷と定義、看護の提供のしくみ、看護における倫理 (241 田中千絵/1回) 認知症のある人との接し方 (382 森下智美/1回) 職業選択と看護 (65 魚住郁子/3回) ライフサイクルからみた看護	オムニバス方式
教養科目	社会科学科目 社会学分野	社会学入門(時事問題で学ぶファシリテーション)		本ゼミナールでは、一義的な回答が定まらない時事問題を扱った「ドキュメンタリー番組」、「新聞記事」を教材にして、ファシリテーション・スキルの向上を目的としたグループディスカッションを行う。時事問題に関する「講義」、「グループディスカッション」、「小論文の執筆」、「プレゼンテーション」を組み合わせることで、主体的、対話的で深い学びを目指す。また、グループディスカッションにおける議論の質、問いの質を高めるために、安斎勇樹『問いかげの作法チームの魅力と才能を引き出す技術』、苅谷剛彦『知的複眼思考法』を教科書に指定し、「ファシリテーション」および「ワークショップ」の手法に関する共通理解を形成していく。多様な考え方をを持った学生と、大学の枠を超えて、交流しながらファシリテーション・スキルを学んでいく。	
教養科目	社会科学科目 社会学分野	現代社会論(少子高齢化社会)		「少子高齢化」という言葉はすでに聴き慣れた言葉であるが、将来の私たちの生活に不安を抱かせる言葉にもなっている。本授業では、少子高齢化をキーワードに、私たちに身近な社会である家族や地域社会がどのように変化してきたのか、現代そこでどのような課題が生じているのか、さらに今後家族や地域社会における課題をどのように解決していけるのかなどについて社会学的視点で考察していくこととする。	
教養科目	社会科学科目 社会学分野	現代社会論(現代を生きる家族)		本科目では、現代社会の中にある家族について、家族の置かれている家庭・学校・職場・地域等の環境的側面の特徴を理解していく。また、家族の機能的側面と構造的側面から胎児期から高齢期に至るまでのライフサイクルに沿った発達上の特徴の理解も深めていく。 (オムニバス方式/全15回) (33 井關敦子/4回) 胎児・新生児の健康と家族、親になること、きょうだいがうまれること、LGBT(性的少数者)・性別不合(性同一性障害)と家族、男女の更年期と健康問題 (130 久我原朋子/1回) 喫煙 (354 三尾亜喜代/3回) 不妊と生殖医療、生殖医療を受療する当事者の理解、AYA世代のがん・生殖医療 (394 山田奈央/4回) 包括的性教育、STI(HIVを除く)、HIVとAIDS、妊娠と避妊 (241 田中千絵/3回) 家族形態の変化とこころの問題	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	現代社会論(社会の基盤)		<p>近年における都市化, 情報化, 多様化, 国際化, さらに自然災害, 環境保全などへの関心の深まりに対応した, 人間と社会の関係を踏まえた基盤整備や管理のあり方について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(133 國枝稔/2回) 安全なコンクリート構造物とは, 環境にやさしいコンクリート構造物とは (140 倉内文孝/2回) 暮らしと交通のかかわり, 交通を取り巻く諸問題 (159 小林智尚/2回) 地球温暖化と再生可能エネルギー, 再生可能エネルギーの社会への導入 (217 鈴木裕識/2回) 飲み水はどこから? 使った水はどこへ? (256 出村嘉史/2回) インフラからみる都市の風景, 都市と多様性 (286 能島暢呂/2回) 暮らしと都市機能を維持するためのライフライン・システム, ライフライン機能を維持するための防災対策 (187 篠田成郎/3回) 社会基盤の全体概要, 治山・治水, 流域水環境</p>	オムニバス方式
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	現代社会論(宇宙時代を生きる)		<p>月に初めて人類が降り立ったのはすでに50年前であり, その後落ち着いたように見えていた宇宙ミッション。しかし, その間, 人工衛星の打ち上げによる宇宙利用が進み, 気象衛星等の活躍はいまや生活と切り離せなくなっている。そして, 50年後の現在, 3億キロ以上離れた小惑星への「はやぶさ2」のタッチダウン成功, 月有人宇宙ステーション「GATEWAY」の計画等, 地球を離れた宇宙空間を含む本格的な宇宙時代を迎えようとしている。宇宙開発はこれまでその社会・経済状況に大きく左右されてきたが, 今後当然, 様々な影響を受けることが予想される。そこで, 本講義では, これからの本格的な宇宙時代を生きるために, 宇宙ミッションに関する基本的な理解を進め, 今後の対応力を養成することを目的とする。</p>	
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	現代社会論(Amishのライフスタイルから現代社会を考える)		<p>アメリカには, 現在も200年来の電気を使わず, 馬車を用いたライフスタイルを実践しているキリスト教プロテスタントの小会派であるアーミッシュAmishという人々が平和に暮らしている。ただ彼らは文明を知らない訳ではない。世界の最先進国であるアメリカ・ニューヨークのすぐ近くで, 文明を知らないながら, 自分達のペースで家族やコミュニティを大事にした生活しているのである。彼らのライフスタイルを読みながら, 現代社会に必要なライフスタイルとは何か, 環境にやさしく, 家族の関係が緊密で人口増加をするためのライフスタイルとはどうあるべきかについて考える。</p>	
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	現代社会論(ワーク・ライフ・バランス(男女共同参画論))		<p>「男女共同参画」「仕事」「家族」「生活」「健康」「キャリアデザイン」「テクノロジー」「ダイバーシティ」などについて授業を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(56 魏永芬/1回) 中国における女性の役割と結婚をめぐる現状 (85 大藪千穂/1回) 岐阜大学における男女共同参画推進の取り組み (102 笠井千勢/1回) イギリスの大学生活 (166 古山浩子/1回) 子どもを育み, 家庭を育み, 研究を育む (185 椎名貴彦/1回) 人間も動物? 動物の「家族関係」について (222 高井千加/1回) ライフイベントを経て変化した仕事に対する考え方 (237 田澤晴子/1回) 歴史教育におけるジェンダー (291 白村直也/1回) 男女共同参画社会で「働く」ための就職活動セミナー (357 道上知美/1回) 働き方改革と健康支援 (394 山田奈央/1回) LGBTとSOGIE (402 山本真由美/1回) 健康で充実した人生のための健康基礎知識 (98 落合絵美/4回) 現代社会とワークライフバランス</p>	オムニバス方式
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	現代社会論(情報社会論)		<p>第1回目では, 情報社会に関連した本を(図書館で借りるなどして)持参し, 講師がその内容を確認する。その際に「情報社会の光と影」と題して, 本の内容紹介とその本に対する自分の考えを述べてもらう。「納得・傾き」など単なる肯定だけでは不十分である一方で, 必ずしも肯定的でなくてもよい。第3回以降では, 選んだ本をよく読んでパワーポイントを作成して「選んだ本の内容+自分の考え」を充実させる。情報技術の著しい進展に伴い, 情報社会での生活形態は大きく変化してきている。情報社会の光または影を扱う良書を精読することによって, 情報社会での行動を見直し, 思わぬトラブルに巻き込まれないようにするためには, どのように行動すべきか自分で考えられるようになることを目標とする。</p>	
教養科目	社会科学分野 社会科学科目	メディア論(メディア論の基礎)		<p>メディアは私たちの生活のあらゆるところに存在していますが, 私たちはそれを十分に理解した上で使っているだろうか。そもそもメディアとは何であろうか。この講義では特に私たちの暮らしに密接した存在である情報を伝達する媒体としてのメディアを取り上げる。メディアといっても多種多様であり, その特性はそれぞれに異なっている。情報を伝達するという行為は基本的に人によって行われるものだが, メディアが多様化したことによってその伝え方も受け取り方も大きく変化してきた。そこで, すべてではないが, いくつかの代表的なメディアを取り上げて, その特性や社会的な位置づけを学び, より活用できるユーザーとしての基礎知識を得てもらうことを目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学科目 社会科学分野	メディア論(メディアの特徴・歴史・現状・課題)		現代社会に生きる私たちにとってマスメディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えている。したがって、マスメディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解しなければ、自己を取り巻く社会環境の認識や自己形成に致命的なダメージを与えかねない。本講義では、現代社会でマスメディアが果たすべき機能と責任について、政治・経済および日常生活や人間形成との関係性の中で理論的に把握した上で、メディアの特徴・歴史・現状・課題と、あるべき姿について、具体的な事例をもとに実践的に学び、自分で問題点を探ることを目標とする。	
教養科目	社会科学科目 社会科学分野	メディア論(国際メディア論)		現場に行かなくても世界の情勢がわかるのが当たり前のように感じている。ところが、私たちは外国で起こっていることは外国のことで自分にはあまり関係がないと感じやすいものである。社会的人間の行動は、必ず他の社会的人間の行動に影響を及ぼし、広い意味での社会の方向性を変えていく。それは価値観の変化でもあり、正当性の変化でもある。この講義では、日常的に接しているメディアの特性、及びその地域に根付いたメディアの社会的位置づけを理解した上で、世界の動向を把握し、様々な可能性を考えることができる活用者としての基礎知識を身につけてもらいたい。	
教養科目	社会科学科目 地理・地域論分野	地理学(地図・環境・立地・都市)		高校地理をふまえた大学入門の地理学概論である。視聴覚教材を活用し、地理学の見方・考え方の一端に触れる。	
教養科目	社会科学科目 地理・地域論分野	地域論(環境学入門)		文明の進化、科学技術の発展とともに、人間をとりまく環境はますます複雑になっている。人間の活動により自然環境の改変・破壊が進み、地球の温暖化をはじめとする数々の環境問題を生じさせる一方で、社会生活が多様化、複雑化することにより、社会環境も複雑化・不透明化している。本講義では、自然及び社会の両面にわたる環境諸問題を環境学の視点から学ぶ。環境という包括的なキーワードにより複合的に眺め、安全で安心、かつ文化的に豊かで持続可能な地球・都市・社会について考えることを目的とする。	
教養科目	社会科学科目 教育学分野	教育論(障害児教育臨床学)		障害のある子どもの家庭生活、社会生活(学校、職場)、地域での生活の実際と課題について学習する。障害のある子ども、家族、学校、施設のドキュメンタリー番組のVTRを視聴したり、出版されている当事者(本人・家族)の手記等の資料をもとに、障害のある子どもがさまざまな人とのかかわりの中で、どのように成長発達していくのかを理解する。また、本人を支える親・家族のニーズやその支援の在り方について考察する。そして、地域社会で共に生きる私たちに当事者(本人・家族)に対してどのような理解やかかわりが求められているかについて考える。	
教養科目	社会科学科目 教育学分野	教育論(教育哲学)		子どもを対象とした教育論だけでなく、自分自身を対象とした自己教育の在り方についても考える。「自分はどう生きるか」、「人はどう生きるべきか」、「自分はいかに学ぶか」、「人をどう教育するか」について根本的に考え、生きることや教育することの根本的な意味を追究する。また、これから到来する不確定な未来(Society5.0の時代)を生きるために、どのような資質・能力を身に付けるべきか、子どものどのような資質・能力を育てたらよいかも考える。教育上の政策や実践、海外の教育実践などを取り上げながら吟味していく。教育理論としては、ソクラテスの対話術から、ジョン・デューイの教育哲学、アドラー心理学などを多様に取り上げ、人生や教育の見方・考え方を広げていく。	
教養科目	社会科学科目 教育学分野	教育論(学校の社会的意味を問う)		多くの子ども・若者が通う「学校」という機関について、社会との関連性を軸に問うていく。学校は何よりもまず、教育機関として存在するが、「そこでの教育は何のために行なわれるのか」ということを詰めていくと、必ずしも自明ではないことが分かる。また、教育が営まれるのは学校だけに限らないし、学校は教育活動以前に社会生活を営む場としてもある。「学校とは何か」「なぜ学校に通うのか」「学校は必要なか」などなど、それぞれ多様な解釈が可能で論争的な問いであるが、日常の中ではなかなか問う機会もないし、自分の固有の経験を自明視しがちである。こうした問いに対し、さまざまな視点・角度から学校を捉え返し、自ら考えを巡らせ他者と意見を交わし合うような機会としたい。	
教養科目	社会科学科目 教育学分野	教育論(特別支援教育ベーシック)		我が国の学校教育において、喫緊の課題のひとつとなっている特別支援教育について、教育制度全般、障害者ごとの教育の基本的内容を講義し、市民として障害のある幼児児童生徒への支援の必要性を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学科目 社会・総合分野	社会総合(生活の経済)		生活に必要なお金の知識を獲得する。大学生になると、アルバイト代も高校生の時とは異なり、かなりの金額を稼ぐことができる分、使い方や管理方法を学ばなければ、せっかく稼いだお金も無駄になってしまう。本授業では、現在の経済と家計の関係、貯蓄・投資・借金(奨学金やクレジット)の考え方や方法、家計に関する法則を学ぶ。自分の家計簿をアプリを用いて3ヶ月間つけることで、実態を知り、分析することで今後の生活改善につなげる。下宿生、あるいは一人暮らしを始めたい学生は特に家計簿のつけ方、生活の仕方を勉強できる。人生設計ゲームやエンディングプランニングゲームを通して、人生100年の生活設計を学ぶ。	
教養科目	社会科学科目 社会・総合分野	社会総合(環境、CSR(企業の社会的責任)とマネジメント)		人類は豊かで便利な生活を求めて、活発な生産活動や豊かな消費生活を続け、地球上の多くの資源やエネルギーを消費し、地球温暖化やオゾン層の破壊、野生生物の絶滅、砂漠化、熱帯林の減少などの複雑・多様化した地球環境問題を招いている。現代の社会では、生産活動を展開する企業には、利益を追求するだけでなく、法律の遵守、環境への配慮、コミュニティーへの貢献などが求められ、企業の社会的責任(CSR)が問われるようになった。このことは、教育の場である大学にとっても同様で、「教育・研究」「経済・財政」「環境・社会」の側面から「大学の社会的責任」(USR)が求められている。この講義では、「環境」、さらには「CSR, USR」をマネジメント・システムの一環として捉え、社会の中の企業・大学のあり方、社会人として皆さんが将来どのように社会に貢献していくべきか、を理解することを狙いとしている。	集中
教養科目	社会科学科目 社会・総合分野	安全科学(交通安全の科学)		自動車は物質的に豊かで利便性に富んだ現代社会において、日常生活には不可欠な存在である。本学でも自動車を運転する学生は多く、運転免許証取得を目指す学生もいる。しかし、自動車社会となった現在、交通事故や環境破壊といった社会的諸問題も起きている。交通事故による死者は近年減少傾向にあるが、交通事故数そのものは顕著な減少傾向を示していないことにも留意しなければならぬ。交通安全の問題は政府や警察だけの問題ではなく、自動車を利用する個人個人が深く理解し、取り組むべき問題である。しかし、交通安全については漠然と考えても意義は少なく、自動車交通の諸問題を科学的に理解する必要がある。そこで本テーマでは自動車交通の諸分野のうち、特に交通安全の諸問題に焦点を当てて総合科学的な講義を行い、受講者とともに交通安全対策のあり方について科学的に考察したい。	
教養科目	社会科学科目 社会・総合分野	安全科学(社会安全学入門)		「安全」や「安心」という言葉をよく耳にするが、それはどのような状態か? 事故、火災、感染症、災害など、自分の回りに多くの危険がある中でどこまでその危険さを理解しているか? この講義では、専門分野に限らず、全ての人が安心して暮らすために、その根本となる安全や健康について基礎的な知識を学ぶ。自身に訪れる危機やリスクを正しく理解し、広い社会で賢く暮らす術を身に付けることを目的とする。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	教養の数学(数学概論I(実数と数列))		微積分学に代表されるように、解析学は数理学の理論的土台の1つである。本講義では、全学共通教育の後に続く専門教育において、特に解析系の科目の理論的基礎を作る。また、大学の数学に必要な用語に慣れさせてもらう。さらに、数学を初めとする科学一般に必要な論理力を養ってもらう。この授業では(極限を含む)数列の知識のみしか用いない。そのため、高校の知識自体は、それほど要求はしないが、内容は決して簡単なものではない。問題も解を求めるようなものではなく、殆どが証明である。そのため、本講義は、理系の学生や数学に自信のある文系の学生に向いている。教養の数学という名前から想像されるような簡単な内容ではない。加えて、後半14回目～15回目辺りに「日常に使われている高校数学」を扱う。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	教養の数学(コンピュータのための数学概論)		記号や整数などの組合せ的な対象を扱う数学は、コンピュータのための数学として近年急速に発達してきているが、その内容は身近な例で理解できるものが多い。本講義では、そうした具体的な問題を扱う方法を体験し習得していくことを目的とする。また、現代では、いたるところにマイクロプロセッサ(小さなコンピュータ)が使用されており、それらは大量のデータに基づいて様々な判断を行うことで人間の推測能力を凌駕しつつある。こうした分野の現状を理解するための基本的な事項の説明も、将来こうしたコンピュータをうまく利用していくためにはどうすればよいのか、などについて講義を行うとともに討論/演習を行う。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	教養の数学(図学)		3次元物体を2次元平面上の図形で表す各種の投影法を学び、数式やベクトルは使用せずに投影図のみで3次元立体構成の分析を行う。基礎的な項目としては(1)真上から見た投影図と真正面から見た投影図の、2種類の投影図から、直線の実際の長さを求めることや、三角形の実際の大きさを求めることを学ぶ。(2)空間にある2直線が交わっているのか、あるいはねじれている(交わっていない)かを(1)の2種類の投影図から判断する方法を学ぶ。講義の後、毎回問題演習を行うことにより講義内容の理解を助ける。問題演習を行う際には三角定規セット(19cm程度のもの)およびコンパスを持参すること。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎代数学(数学概論II)		数学という学問は、紀元前から現代までの長い歴史を持っている。過去の数学者は何を考え、どんなことにチャレンジし、何を得たか。さらに、そのときどきの人間社会とどう関わってきたか。この講義では、歴史的な事柄もふまえながら、いろいろな数学のトピックを紹介し、現代につながる数学を概観する。 (オムニバス方式/全15回) (158 小林孝子/7回) ピタゴラス数とフェルマーの最終定理、完全数、素数の存在定理、自然数の冪乗有限和とBernoulli数、自然数の冪乗逆数の無限和、Eulerの関数とMöbiusの反転公式、RSA暗号(116 亀山敦/8回) 数学はどのような学問か、結び目と数学、トポロジーとは、数学と日本語、数学の言葉、論理について、無限について、集合について	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎代数学(古典数学へのいざない)		素数は無限にあることが知られているが、いまだに世界中で、一番大きい素数を求めようとする努力がされている。コンピュータを駆使しても、いま発見されている最大素数よりも大きな素数を見つけることは難しいのである。素数の話題一つとってみても、整数の世界は奥が深いものである。前半は、初等整数論の一端を学習し、整数論の奥深さを感じてもらおう。後半では、高校までになじみのある数列から始め、それが満たす漸化式を考え、差分方程式まで発展させることを学ぶ。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎解析学(解析学の基礎)		解析学の基礎には素朴な代数などの理論も含まれている。それらと解析学との関係を眺め直してみよう。また、解析学は長い歴史を持っている。古の数学者の挑んだテーマを我々も考察してみよう。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎解析学(微積分学)		高校で学習する微積分を基礎に、その復習と大学で新たに学ぶであろう数学を同時に講義する。講義の前半では、初等関数を復習しその性質を確認する。後半では、連続関数の定義から始まり、微分法を復習した後、逆関数の導関数の求め方、対数微分法、平均値の定理を実際に初等関数に当てはめて計算する。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎統計学(統計学の基礎)		平均値や偏差値、あるいは期待値など統計学から算出される値や解析手法は、身の回りにあるさまざまな事柄、例えば視聴率や内閣の支持率、マーケティングなどに良く使われている。講義では、数学が苦手と思っている学生でも理解できるように、具体例を挙げながら算出方法や計算により得られる値の意味について説明する。授業ではExcelを使用し、統計的データを正しく整理し、そのデータを解析する手法を学ぶ。最終的に、統計量について説得力のある説明ができるよう、統計学の初歩について平易に解説する。	
教養科目	自然科学科目 数学分野	基礎統計学(実感する統計学)		統計値として導出される数字は、我々が生活するうえで重要な意味を持つにもかかわらず、示された数字と実際に感覚として感じる印象が異なる経験はないだろうか。本講義では、統計値の数値が持つ本質を、実験などを通して実感しながら、統計学の基礎を学ぶ。	
教養科目	自然科学科目 物理学分野	物理学入門(現代物理学の基礎(相対論と量子論入門))		現代物理学は今日の高度な科学技術を根底で支える礎石であるとともに、ミクロな素粒子からマクロな宇宙まで、この世界の成り立ちを理解するために不可欠な学である。本授業では、「古典物理学の成立とその限界」について概観し近代以前の物質観・世界観について考察した後、現代物理学の主要な柱である「相対性理論」と「量子力学」の成立過程を学び、20世紀以降に発展した新しい物質観・世界観について考察する。	
教養科目	自然科学科目 物理学分野	物理学入門(物理実験で調べてみよう)		少人数のセミナーの形式で、大学で学び研究するための最も基本的なスキル(コモン・ベーシック)としての読み(文献調査、考察、検討)、書き(まとめ、報告書作成)、話す(討論、発表)を中心とした多面的な知的トレーニングを行う。さらに「知の探究のプロセス」と「学問の面白さ」を学び、自立的学習能力を身につけることを目的としている。教員の研究分野に応じて多様なテーマが用意されている。	
教養科目	自然科学科目 物理学分野	教養の物理学(雷の科学)		雷は、身近で発生する巨大な放電現象である。昔の人々は、洋の東西を問わず、雷を神の怒り、神の仕業と考えてきた。18世紀に、フランクリン等によって雷が電気現象であることが実証された。20世紀に入ると、数多くの観測装置が開発され、それらの性能が高まるにつれて、雷の正体が次第に明らかになりつつある。一方、物理学者ハッブルがドップラー効果と三角関数を使った測定で宇宙が膨張していることを発見してノーベル賞を受賞したように、雷研究においてもその過程で使われた知識の大半は高校までで習う内容である。この講義では、高校までに習った物理の理解を深め、雷の正体を明らかにすると共に、習った知識を使いこなせるようにする力を身につけることに力点を置いている。	
教養科目	自然科学科目 物理学分野	教養の物理学(物性の力学)		我々の身近にある物はなんらかの物性を有しており、それらの性質は、すべからずその物性によって共通に示される。力学的観点から見た場合、物性は固体・流体の弾性及び粘性としてマクロ的に近似・区分される。これらをふまえ、本授業では物性の力学について日々の日常的な現象と関連づけてわかりやすく講義する。 (オムニバス方式/全15回) (5 平松研/8回) 止まっている固体にはたらく力、固体の内部にはたらく力、固体の変形、固体の硬さ、固体の強さ、固体の変形 (14 西山竜朗/7回) 流体の性質、流体による圧力と浮力、完全流体の力学、粘性流体の力学、流体力	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学分野	物理学分野 教養の物理学(力学現象の数学的見方)		泳ぐ、飛ぶ、歩く、などということ—このような身近な力学現象を、特に運動という側面に注目し、数式で具体的に表してみる。これらの運動はいずれもすべて目に見えている事象であるが、適切に捉えて数学という言葉で語ることは意外と難しい。というのも、我々は日常、見えているものを見ているのではなく、見ようとしているものを見ているに過ぎないためである。そこで本授業では、「いままでそういう視点では見ていなかった」というものをしっかりと見えるように概念の構築を図ったうえで、目に見えている現象とその数式表現を一体のものとした。	
教養科目	自然科学分野	物理学分野 教養の物理学(日曜大工からはじめる力学)		本講義は、以下の2つの視点から構成されている。A) 「高校物理」の「力学」を再認識+α(班活動)：身近な物品を使って高校物理の力学を実際に体験する。既知していることでも、頭の中だけでなく実際に作って/体験してみると、新たな気づきがあり理解がより深くなるはずである。これらのことを踏まえて、いくつかの発展的課題にも触れる予定である。B) 工作を通してモノづくりのための「力学」を体験(班活動)：発泡スチロールを切り出して、あるいは食用のパスダを接着剤でつないで、できるだけ強いブリッジを作る。そのうえで、このブリッジにおもりを載せていったときの壊れにくさを競う。このような工作と実験を通して、力学が「モノづくり」にどのように役立っているのかを学ぶ。補足) 本講義を発展させたものは、数多くのモノづくり企業にて採用されている。	
教養科目	自然科学分野	現代物理学(表面張力の物理学)		滴(しずく)や泡(あわ)は、日頃から親しみのあるものだが、多くの疑問を投げかける。本講義では、このような毛管現象と濡れ現象を、実験や工業での具体例に取り上げながら解説をし、身近にある現象から科学の本質を学ぶことを授業の狙いとする。	
教養科目	自然科学分野	化学入門(日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ)		私たちのまわりには「化学」が関わる様々な現象や製品に満ち溢れている。たとえば、ドライクリーニングは、石油系溶剤で洗うので油汚れや皮脂の汚れに効果的、一方、汗やジュースの汚れは家庭用洗濯機で水洗いが効果的である。お風呂の洗剤とトイレの洗剤を両方使うこともっときれいになるかと思っ使ったら塩素ガスが発生して亡くなった主婦のお話。水のこと、5大栄養素、うまみ成分(昆布、鰹節、干しいたけから発見)、発酵食品の製法と効能、プラスチック、エネルギー、電池などみんな「化学」である。こんな卒業後も役立つ「化学」の基礎知識をいっぱい紹介する。身のまわりの様々な現象も「化学」を学習することで初めて理解でき、説明に納得がいき、充実した社会生活、日常生活を送ることができる。	
教養科目	自然科学分野	化学入門(身近なものから学ぶ化学)		身の回りの便利な製品、地球上の自然現象、我々の身体など、あらゆるところで状態変化と化学反応が起きており、それらは化学的に説明することができる。前半では、身の回りの製品に焦点を当て、ほりくさき、教科書に載っている化学現象へと結びつけることを目的とする。0.1ナノ(10のマイナス10乗メートル)の大きさの原子から説明し、それらが繋がって分子、高分子、固体とサイズが大きくなっていく様子を、聞きなれたモノと関連づけながら、「化学」を学ぶ。後半では、「地球上での自然現象」や「光学機器」に関連した内容について講義する。自然現象には「光」が関連した虹、蜃気楼、逃げ水、夕焼け、空の青さなど興味深いものも多くある。(オムニバス方式/全15回) (64 植村一広/8回) 身の回りの製品にみる化学 (309 伴隆幸/7回) 光が関係する自然現象と光学機器	オムニバス方式
教養科目	自然科学分野	化学入門(身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学)		我々は、身の回りで起こる現象から最先端技術まで、化学に関わる現象が関与している。本講義では、身の回りで起こる現象から最先端技術について「化学」を学習することで初めて理解でき、説明に納得がいき、充実した社会生活、日常生活を送ることができる。本講義では、少しでも「化学」に親しんでもらうために身近なものや事例をとりあげて、ご自身の実体験とともに整理しながら「化学」の重要性を理解していく。	
教養科目	自然科学分野	化学入門(化学実験で調べてみよう)		化学実験を主体とした授業で、実験計画や発表を通じて大学で学び研究するための最も基本的なスキル(コモン・ベシク)としての読み(文献調査、考察、検討)、書き(まとめ)、話し(討論、発表)を中心とした多面的な知的トレーニングを行う。さらに「知の探究のプロセス」と「学問の面白さ」を学び、自立的学習能力を身につけることを目的とする。授業は少人数のグループで計画・実験・発表を行う。	
教養科目	自然科学分野	教養の化学(化学概論)		私たちのまわりを見渡したとき、多種多様な化学物質がある。それらは、生物のからだを形成したり、生命現象のエネルギー源となったり、大気等の環境を構成したりと様々である。この授業では、主に色に着目した講義および多くの実験を通して、化学に関する様々な事柄を体験的に学ぶ。主に色に着目した具体的な化学反応を題材として、様々な化学的現象を体験する。また、化学物質と化学現象に慣れるために、受講生自らが、実験をできるだけ多く行なってもらう。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 化学分野	教養の化学(現代の視点から、古典に学ぶ(化学系))		<p>化学史上の発見が現代の技術にどのような形でつながってきたか考える。有機材料化学、高分子化学、医薬品化学、分析化学、無機材料化学等の分野でのトピックを紹介しながら、化学を楽しむ。化学の基礎や応用を違った切り口で見、化学を学ぶ糧とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(31 池田将/1回) ものの単位はどう発展してきたか (61 上野義仁/2回) 高分子化学分野 (147 額綱守/4回) 医薬品化学分野 (180 櫻田修/2回) 有機化学分野 (198 嶋睦宏/2回) 分子組織化学分野 (413 吉松三博/2回) 無機化学・分析化学分野 (132 沓水祥一/2回) 無機材料化学分野</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 化学分野	現代化学(プラスチック材料の基礎)		<p>プラスチックの容器の中で消しゴムが溶けてしまう、暑い車内でファイルケースが曲がってしまうなどは、よく経験することである。ビニール袋とポリ袋の違いは？プラスチックを燃やすと環境に悪い？プラスチックは身近な材料だが、その性質の多様性を知らずに使用している。このような身近なプラスチック(高分子)の振舞から、長い鎖状の分子の性質を探索する。高分子物質について、一歩踏み込んだ見方ができることを目的として平易に講義する。前半は、理解に必要な構造と性質について、後半は、日常に関わる特性について講義する。</p>	
教養科目	自然科学科目 化学分野	現代化学(ソフトマター)		<p>私たちは“やわらかい物質”を生活の様々な場で利用している。たとえば、自転車や自動車のタイヤには柔軟で弾力のあるゴムが利用されているし、化粧品にはクリーミーなエマルションが欠かせない。ソフトマターとは、このようなポリマー、エマルション、液晶などの“やわらかい物質”のことである。本講義では、ソフトマターの基礎と応用について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(229 高橋紳矢/5回) “ぬれ”とは・柔らかか界面(接着界面化学の基礎)、ソフトマター界面の性質、ソフトマター界面の機能(界面機能性高分子) (374 三輪洋平/5回) 液晶とは、液晶ディスプレイの原理、高分子入門、やわらかい高分子とかたい高分子、傷が修復する高分子材料 (127 木村浩/5回) コロイドの分散状態と物質の三態、コロイドが織りなす美しい世界、コロイドとレオロジー、電場によるコロイドの分散状態の制御</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 化学分野	現代化学(ケミカルエンジニアリング入門)		<p>ケミカルエンジニアリング(化学工学)とは、実際の化学産業において最も需要の高い学問領域である。本講義では、化学工学の初歩的な知識、実際の化学産業、またそこに使われる材料などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(369 宮本学/5回) ケミカルエンジニアリングとは、化学プロセスを学ぶ(石油精製)(石油化学)、地球温暖化に対する化学工学の役割 (63 上宮成之/5回) 環境に優しい化学を学ぶ、化学から科学を学ぶ、触媒の役割と特徴を学ぶ、身の回りの化学から化学を学ぶ、工業的に使われている触媒を学ぶ (164 小村賢一/5回) 工業的に使われている触媒を学ぶ、空気と水の流れから流体輸送を学ぶ、コーヒーを淹れることから速度を学ぶ、コーヒーを淹れることから粉体を学ぶ、調理をすることから伝熱を学ぶ、水素をつくることから分離を学ぶ</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 生物学分野	生物学入門(現代生物学入門)		<p>生物学は広範な学問領域と関連し、学問自体が急速に進歩している。本講義では、最新の知見に触れながら、専門教育で実施される生物科学に関連する開講科目を理解するために必要な知識・思考方法を習得することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(350 松原陽一/5回) 植物のしくみ・はたらき・役割 (388 矢部富雄/5回) 生化学としての生物学 (167 小山博之/5回) 細胞の構造と遺伝</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 生物学分野	生物学入門(微生物と病気)		<p>分子生物学をはじめとする現代生物学をはじめから説き起こして、そこで主役を果たした細菌などの微生物や、微生物によるヒトの感染症など身近な話題も織り交ぜながら、生命というシステムの理解を目指す。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(265 永井宏樹/9回) 新型コロナウイルスと感染症の数理、生物学への招待、生命の大進化、遺伝学への招待、形質転換因子としてのDNA、DNAの二重らせん、セントラルドグマ、細菌の運動 (136 久堀智子/1回) 病原菌の毒針 (27 安藤弘樹/2回) 合成生物学、ファージ療法 (240 田中香お里/1回) 抗菌薬と薬剤耐性 (122 北尾公英/2回) 細菌間コミュニケーション、遺伝子発現制御</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 生物学分野	生物学入門(森と人の生態学(岐阜の植生から学ぶ))		岐阜県は、海こそないものの、金華山の照葉樹林、白山山麓の大白川ブナ原生林、御嶽の亜高山帯針葉樹林、乗鞍岳のハイマツ林やお花畑など、日本でも稀に見るほどの多様な自然生態系(特に森林)を持っている。これは、木曾三川の広がる濃尾平野から3,000mを越す北アルプスまで、非常に多様な環境が存在するからである。また、これらの森は単純に環境に依存して成立するだけでなく、縄文時代以前からの多くの人間の影響を受けてきた。森という自然は人間社会の外に成立しているわけではなく、人間社会と密接に関係して成立し、維持されてきた。この講義では、岐阜県の植生の具体的な研究の紹介を通して、森と人との関係、生物学としての生態学の面白さを理解してもらう事を目指す。	
教養科目	自然科学科目 生物学分野	教養の生物学(動物と病気)		哺乳類や鳥類の体はどのような臓器を持っているのか。また、それらの臓器はどのような構造と機能を持っているのか。動物やヒトが健康に生きていく上で、各臓器は巧妙で複雑な仕組みでその役割を果たしている。それらの仕組みを理解するとともに、それらの仕組みが異常になった時に病気が発生する。病気の原因と異常状態を正確に理解すること、これが病気を治すことにつながる。この講義を受講することにより、自分の体について今まで以上に興味を持つようになり、健康に気をつけて、充実した毎日を送れるようになれば幸いである。 (オムニバス方式/全15回) (337 前田貞俊/3回) 腎臓の働き・腎不全、自己免疫疾患、皮膚病 (380 森崇/3回) 運動器・聴覚・視覚の疾患 (185 椎名貴彦/9回) 病気と生理学、消化器の働きとその異常、ホルモンの働きとその異常、呼吸器の働きとその異常	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 生物学分野	教養の生物学(ヒトのからだ)		“ひと”(人、ヒト、人間、人類)を対象とする学問分野がどんどん増えている。“ひと”をどのような切り口でとらえるにしても、生き物としての“ヒト”の特性を無視しては、“ひと”を正しく理解することはできない。この授業では、“ひと”に関係する学問分野を志向する学生を対象に、形ある生き物としての“ヒト”を知っていただきたいと考えている。 (オムニバス方式/全15回) (92 小川名美/2回) 血管とリンパ管、内分泌腺 (346 松田修二/3回) 骨と関節、筋、感覚器 (389 山口瞬/1回) 末梢神経 (418 渡邊将/1回) 中枢神経 (221 千田隆夫/8回) 人体構造の階層性(細胞、組織、臓器、系、個体)、消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、リンパ性器官、発生	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 生物学分野	教養の生物学(生命の仕組み)		この授業のねらいは、記憶することを主体とした学習から、能動的に考える学習へ転換することにある。簡単な言い方をすると、100点満点のある世界から抜け出すことを目指すことになる。このようなねらいを達成するために、生命が私たちに見せてくれる巧妙で合理的な仕組みを題材とする。生命の仕組みは、長い時間をかけて作り上げられたものである。優れたものだけが生き残る自然淘汰の中でできあがったものなので、私たちの想像を遙かに超える感動的な仕組みとなっている。知識の押し売りではなく、生物学のおもしろさを伝える授業、一緒に思考しながら学ぶスタイルの授業を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (170 齋藤正一郎/4回) 比較解剖学から考える脊椎動物の体の仕組み (224 高島康弘/4回) 免疫の仕組み (377 村瀬哲磨/3回) 生命が連続する仕組み (202 志水泰武/4回) 脳の仕組み	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 生物学分野	教養の生物学(食の多様な役割)		生活の基本要素である衣・食・住の中で、ヒトが生きていく上で最も重要なのは食である。食物が不足すれば飢えに陥り、食生活に偏りが生じれば、健康が損なわれる。食べることによって我々は栄養素を取り込み、体内でエネルギーを生み出して生きていける。一方、食には栄養素の摂取のみならず、美味しさや香りを楽しむといった側面もあり、様々な嗜好品が生活に潤いを与えてくれる。さらに、近年の保健機能食品の台頭に代表されるように、食品の特定成分が体の機能を調節していることも明らかとなっている。本講義では、多岐に渡る食の役割について学ぶとともに、その科学的な基礎知識の理解を深めることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (46 稲垣瑞穂/4回) 腸内細菌について (106 勝野那嘉子/4回) 食品成分について (199 島田昌也/3回) 栄養について (124 北口公司/4回) 免疫について	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学分野	現代生物学(薬の細胞生物学)		現在、種々の疾病に対する創薬研究が盛んに行われており、特に、ゲノム創薬分野では、標的タンパク質情報を基に薬物がつくられ、そこで本授業では、「くすりとは何か」という基本からはじめ、くすりがどのように作られるのか等を解説する。授業を通じて、普段、何気なく使用しているくすりについて興味を持つと同時に、それらに関連した様々な科学的現象についても興味を持つことを促す。	
教養科目	自然科学分野	現代生物学(生き物よもやま話)		みんなで生き物の不思議さや面白さ、すごさを味わう。生き物にまつわる話を異なる専門性を持った複数の教員がそれぞれの視点で様々な授業を行う。 (オムニバス方式/全15回) (47 猪島康雄/1回) 動物、魚からの病気 (81 大場恵典/1回) 産業動物の医療 (174 酒井洋樹/1回) “がん”とはどのような病気なのか？ (185 椎名貴彦/1回) 腸の動きから考える生き物 (194 柴田早苗/1回) 動物の麻酔 (224 高島康弘/1回) 寄生虫ーこの奇妙な生き物ー (225 高須正規/1回) 生殖工学技術の進歩と倫理 (279 西飯直仁/1回) 猫の秘密、徹底解説 (337 前田貞俊/1回) 皮膚と免疫 (340 正谷達磨/2回) ウイルスを知る、病気を運ぶ虫・病気を起こす虫 (371 宮脇慎吾/1回) 犬の「すがた」と「病気」の遺伝学 (380 森崇/1回) 動物のがん治療 (417 渡邊一弘/2回) 犬と猫の歯科医は？、犬と猫に手術が必要な時	オムニバス方式
教養科目	自然科学分野	現代生物学(生物共生論)		動物の細菌、ウイルスおよび寄生虫の各担当者が、トピックスを交えながら、動物と寄生体との共生そして共生を破ることにより起きる病気とその治療、予防について概説する。また、このような寄生体との共生をヒントに、人間と動物あるいは人間同士の共生についても考えてみる。 (オムニバス方式/全15回) (20 浅井鉄夫/5回) 細菌の生存戦略、病原細菌はどうやって病気を起こすのか？、常在細菌叢とプロバイオティクスー細菌との共生ー、環境中の細菌ー昆虫と共生する細菌、環境中の細菌ー野生動物に分布する耐性菌 (43 伊藤直人/5回) 動物と共生体、ウイルスとは、コロナウイルス感染症：過去と現在、話題の感染症、忘れてはいけないウイルス病、新興ウイルス感染症と自然宿主 (125 鬼頭克也/5回) 寄生虫とは、寄生虫と寄生される動物(宿主)との関係、寄生虫による病気の発生、寄生虫を制御する	オムニバス方式
教養科目	自然科学分野	現代生物学(実践生物化学)		本講義では、様々な商品(物質)の性質やその活用法を理解したうえで、個々の商品に対する規制の根拠と実情を学習する。加えて、身近な商品・製品を取り上げて、自らでそれらの特性及びクリアーすべき規制を確認し、今後大学で学習する基礎科学の意義と習得知識を実用化へ役立てる練習を行う。 また、レポートを添削し、異分野の人々に知識を普及する練習も行う。安全性及び品質保障は、生体活性物質・食材の分野のみならず、機械・情報産業等様々な分野が必要となる。その意味で本授業は生物・化学系の内容ではあるが、異分野の受講生が、将来様々な分野で活躍するための技術・方法を模索する手段の1つとして学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 医学分野	教養の医学(医学史)		<p>医学のスペシャリストが、各々の専門分野の歴史と現状を概説する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(68 梅原隼人/1回) くすりの歴史と薬理学の発展 (72 大江直行/1回) 脳の解析の歴史と21世紀の医療 (73 大倉宏之/1回) 心臓病治療はいかにしてここまでたどり着いたのか、そしてどこに向かうのか? (91 小川武則/1回) 耳鼻咽喉科頭頸部外科学の長い歴史と最前線 (203 下畑享良/1回) 医の倫理の歴史 (221 千田隆夫/1回) 解剖学の歴史-ギリシャ・ローマから今日まで- (240 田中香お里/1回) 化学療法史の歴史と嫌気性菌感染症 (242 田辺久美子/1回) 疼痛緩和の歴史と最前線 (258 土井深/1回) 心臓外科の歴史と最先端医療 (265 永井宏樹/1回) 微生物学の歴史 (357 道上知美/1回) 法医学の歴史-死因究明の意義 (367 宮崎龍彦/1回) 病理学の歴史と癌治療の最前線 (387 矢部大介/1回) 糖尿病学の歴史と今日の治療 (389 山口瞬/2回) 体内時計研究の歴史-発見からノーベル生理学・医学賞受賞まで-</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 医学分野	教養の医学(幹細胞と再生医学)		<p>トカゲを捕まえたら尾だけ残して逃げてしまったという経験をした人は多いだろう。トカゲは尾を犠牲にして逃げることができるが、これは尾の元になる細胞が残っており、尾が再生できるからである。イモリには手足にさえ元になる細胞があり、再生できる。このように組織を再生できる「元になる細胞」のことを幹細胞という。再生というとこのような下等生物にだけ備わっているものと考えがちだが、ヒトにも幹細胞が備わっている。髪の毛が伸びたり、皮膚にこしらえた傷がひとりりで治ったりするのが良い例である。講義では「幹細胞」を中心として生物の基礎を学びながら、再生やその能力を利用した再生医学について学び、考えていく。</p>	
教養科目	自然科学科目 医学分野	現代医学(生体防御・腫瘍病理基礎)		<p>今日、高齢化社会を迎え癌制圧は重要な課題として位置づけられている。日本人の死因のトップを占める癌は、どのような仕組みで発生するのか?また、癌にならない予防法はあるのか?知っておかなければならない、癌研究に必要なbiotechnologyはなにか?などを学んでいく。一方で、アレルギー、自己免疫疾患の制御も重要な課題であり、生体防御としての免疫のシステム・その異常が引き起こす病態についても知っておく必要がある。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(111 金山知弘/3回) がんの予防、がんの診断、がんの治療 (126 鬼頭勇輔/3回) 免疫の破綻とその病態II、免疫を利用した研究・治療 (233 竹内保/3回) 炎症と免疫のメカニズム、免疫の破綻とその病態I (260 富田弘之/2回) 癌研究と実験方法 (289 野村柊介/1回) 免疫病理研究手法 (307 原明/3回) 腫瘍発生のメカニズム、癌遺伝子と癌抑制遺伝子、再生医療と幹細胞</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 医学分野	現代医学(身近な薬と毒の科学)		<p>私たちは日常生活において、薬や毒に関する話題をテレビや新聞・雑誌で目にしていく。しかし、私たちはこうした身近にある薬や毒について、コマーシャルやニュース、うわさなどで、名前とその効き目や危険性をなんとなくわかっているようで、実はそれ以上のことを知らないのが一般的である。そのため、薬を過信したり、毒を必要以上に危険視したりしてしまう傾向がある。実は、薬と毒は同じもの(同一物質)であり、摂取する量や使う目的などによって、薬といたり毒といたりする。この講義では、みなさんに馴染みの深いと思われる薬と毒を取り上げ、それらの効用や毒性について一歩踏み込んで解説したいと思う。そして、この授業を通して、知識よりもむしろ「物事を見る目や理解とはどうあるべきか」を最高学府に学ぶ者として感じとってほしいというのが、この講義の狙いとるところである。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目	医学分野	現代医学(現代医療の最前線)	現代医療の最先端について今後の医療の可能性とあるべき姿を展望する。 (オムニバス方式/全15回)	オムニバス方式
				<p>(29 飯沼光司/1回)</p> <p>腎癌治療の最前線 (53 岩田尚/1回)</p> <p>肺癌の治療最前線 (73 大倉宏之/1回)</p> <p>ここまでわかった心筋梗塞発症のメカニズム (91 小川武則/1回)</p> <p>頭頸部がん治療の今までとこれから (123 北川雄一郎/1回)</p> <p>救急と集中治療医学の最前線 (275 中山則之/1回)</p> <p>脳腫瘍治療の最前線 (299 華井竜徳/1回)</p> <p>肝硬変, 肝臓癌治療の最前線 (300 馬場尚志/1回)</p> <p>感染症診療・対策の最前線 (329 古井辰郎/1回)</p> <p>生殖医療の現状と今後の展望 (334 堀川幸男/1回)</p> <p>糖尿病の臨床と研究の最前線 (348 松橋延壽/1回)</p> <p>大腸がん治療最前線 (381 森龍太郎/1回)</p> <p>医療情報の活用による先端医療 (409 吉倉延亮/1回)</p> <p>神経難病治療の最前線 (209 末次淳/2回)</p> <p>肝炎ウイルス治療の最前線, 腎癌治療の最前線 (134 國貞隆弘/1回)</p> <p>ES細胞, iPSC細胞が開く再生医療の未来</p>	
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学(気象学概論)	<p>大気を中心に地球表層で起こるさまざまな現象を論じて, 我々の住む日本の多様な気象現象を理解し, その背後にある物理法則にも触れるために, 具体的な天気図等の気象資料を基に気象学を入門的に概観する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(412 吉野純/8回)</p> <p>気象資料の種類と見方, 温帯低気圧, 寒冷前線一突風, 台風 (244 玉川一郎/7回)</p> <p>気象予報の仕組み, 気象予報の物理学, 梅雨・夏型, 冬型</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学(地球環境の変遷)	地球は液体としての水が存在する唯一の太陽系惑星である。水と大気と大地のめぐまれた地球環境の中で人類は今, 進化の絶頂にあると同時に, 最近の200年の間に環境の破壊を進めている。現在の地球環境は一朝一夕に生まれたのではなく, 46億年という途方もなく長い時間の中で, いくつもの偶然と, 水(海)の存在と, その中で生まれた生命の働きと進化により, 形成されてきた。そうした46億年にわたる地球環境の変遷をたどり, さらに地球環境の未来を考えてみたい。講義では, まずは水惑星・地球の誕生と海の中での最初の生命誕生の不思議を探り, これら原始生物の活動による大気組成の変遷と, ドラマティックな恐竜の絶滅の不思議を探る。その後, 46億年の歴史の中で産み出された化石エネルギー資源や金属資源を語り, 最後には, 地球環境の抱える問題や資源エネルギーの現状を語る。	
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	教養の宇宙地球科学(ESD入門)	ESD (Education for Sustainable Development) に関連する活動事例やその背景を紹介し, 同時にそこで題材とされている現象が地球史においてどういった位置づけにあるのかを示す。共通の題材に対して, 現代社会における持続可能性を考える視点と, 地球規模の歴史としてとらえる視点を対比することで, 自分自身がどのように物事を考えていくかを見直す機会としたい。なお, フィールドワークを3回実施する他, 講義中にグループワークによる学生同士の意見交換も実施する。	
教養科目	自然科学科目	宇宙地球科学分野	現代宇宙地球科学(宇宙科学)	宇宙は極めて広大なため, 直接手にとって観察したり, 実験したりすることが難しい。人類は, 何億光年も彼方の天体からのシグナルを丹念に拾い集め, 限られた観測事実から厳しい論理力や柔軟な発想力をもって, 徐々に宇宙の姿を明らかにしてきた。本講義では, その一連の流れをできる限り追体験することで, 科学的なものの考え方, また問題解決のアプローチの仕方について理解を深める。実際の観測データを用いて, 実習(計算やグラフ化)やレポート課題に取り組むことで, 宇宙の基本的な観測原理と手法を学ぶ。また, 現代における宇宙観測の技術や装置開発の最前線についても造詣を深めてほしい。	
教養科目	自然科学科目	環境学分野	教養の環境学(自然災害と生活)	<p>本講義は, 自然災害から我々の生命・生活・財産を守るために科学が果たし得る役割について考え, 受講生の「防災力」を高めることを目的とする。</p> <p>前半では, 台風や豪雨のような気象災害に関して, 自然現象としての特徴について学び, それらの監視予測技術, 水害を防ぐシステムなどについて考える。後半では, 過去の地震・火山・地すべり災害の実例とその要因となる自然現象のメカニズムについて学び, その被害の特徴と災害対策について考える。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(244 玉川一郎/8回)</p> <p>自然災害の概要, 災害をもたらす気象現象, 温帯低気圧の気象学, 台風と豪雨による災害, 局地的災害(集中豪雨と突風), 気象現象の監視と予測, 洪水とその対策 (131 久世益充/7回)</p> <p>地震活動とテクトニクス, 地震災害の事例, 火山噴火予知, 斜面災害の事例, 地震とその対策</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 環境学分野	教養の環境学(生物の多様性と人間社会)		生物多様性とは何か?生物多様性はどのようにして生み出されてきたのか?またどのように維持されているのか?生物多様性の危機とは何か?なぜ、今人間社会は生物多様性について語らねばならないのか?人間の生活の過去、現在とどのような関係を経験してきたのか、また将来にはどのような関係に至るのがよいのか?その具体的な手だてはあるのか?	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	教養の環境学(土の物理的環境)		陸上の生き物は土の上で命をはぐくんでいる。草木や作物は土に根を張って育ち、植物が光合成により固定した太陽エネルギーは、動物が生きていくために利用される。その一方で、地すべりや地盤沈下といった災害は、人間に被害をもたらす。このように土は、われわれの生活と深い関わりを持っているものの、そこで生じるさまざまな現象については意外に知られていない。土って石が細かく砕けたものでしょ?いろんな色の土があるのはなぜ?土はどうしてねばねばしているの?植物はどうやって水を吸うの?霜柱ってどうやってできるの?砂漠に雨が降らないのはなぜ?本講義では、このような身近な疑問を取り上げながら、土や水の理化学性、土の中の物質の動態、土壌劣化、地表面における水と熱の輸送、土壌圏と植物圏と岩石圏と水圏と大気圏との関連などをわかりやすく解説する。	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	教養の環境学(生物生産と環境)		生物生産と環境との関係を農業生産、健康の観点から解説する。	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	教養の環境学(里山と水辺の環境学)		私たちににとって身近な自然である里山や水辺は、長い歴史の中で人間の干渉を受けながら形づくられてきた自然生態系である。その成り立ちと人間活動による影響、社会的効用を理解することは、21世紀における人と自然のよりよい関係を構築する上での基本的なりテラシーとなる。本講義では人と自然の関わりに着目しながら、日本の身近な自然の環境について理解し、将来に引き継ぐために必要な方策について思考を深めることを狙いとする。	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(エネルギー問題)		エネルギー問題は、資源の少ない日本のみならず地球環境問題と強く結びついた重要な課題である。本講義では、エネルギーの基礎から今日の地球環境問題、これまで使われてきた化石燃料とこれからのエネルギー資源、その活用法・課題について概説し、受講生がエネルギー問題を考えるために必要な知識を習得し、エネルギー利用と地球環境に対する意識が高まることを目標に講義をする。	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(生物多様性を支える森林と動物たち)		わが国の生物多様性国家戦略は、「生物多様性条約に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用に関わる国の施策の目標と取組の方向を定めたもの(環境省のウェブサイトより)」と位置づけられている。しかし、その記述は、保全に関わる目標や方向のみならず、我が国の現状や課題等にも言及されている。本授業は、「生物多様性国家戦略2012-2020」の記述を基盤に、「森林科学・動物園学・野生動物学的視点から保全生物学」の基礎力習得を目的に企画した。 (オムニバス方式/全15回) (21 浅野玄/2回) 外来生物問題 (8 安藤正規/2回) 草食動物による森林の衰退と生態系の保全・復元 (2 楠田哲士/3回) 絶滅のおそれのある種の保全 (215 鈴木正嗣/8回) 生物多様性、野生動物の保全と管理、自然資源としての野生生物。	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(世界の食料と人口問題)		FAO(国連食糧農業機関)は、減り続けていた世界の飢餓人口が一昨年来の世界食糧危機のために増加に転じ10億人超になったと警告を発している。すでに地球人口は70億人に達し、生態環境の変化、地球温暖化や紛争、バイオマス燃料への転用、多国籍企業の支配や金融危機などの要因が複雑に絡み合っており、需給が非常に不安定になり世界の穀物価格の変動が激化している。食料の生産から食卓までのさまざまな側面に、現代社会のかかえる深刻な問題がはらまれていることを多面的に解明する。 (オムニバス方式/全15回) (28 李侖美/3回) 食料需給構造の現代的特徴 (267 中川智行/3回) 世界の発酵食品 (353 松山勇人/3回) 食糧問題と動物の保健衛生環境 (397 山根京子/3回) 植物利用の歴史と現状 (166 小山博之/3回) 食料生産とバイオテクノロジー	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(ESD実践研究)		ESD(Education for Sustainable Development)に関連する題材を選択し、チームを組んで調査レポートを作成する。自分で切り口を設定して調査を行い、レポートまで仕上げることで、複雑多岐にわたる現代の環境問題について取り組んでいく姿勢を養う。同一テーマでチームを組むことで、問題の幅広さや他者との視点の違いを実感することをねらいとする。実践研究はグループワークが中心となるが、それ以外に共通の実習を前期に引き続き実施する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(社会とエコロジーの接点)		本講義では農業・林業・漁業をはじめとした様々な人間活動が自然と調和し持続的に成立している「社会生態システム」を理解することを狙いとする。我が国では2050年に人口が現在の2/3となることが予測される「人口減少社会」の到来を目前としている。また環境問題の解決にあたって、環境だけで捉えるのではなく、社会、経済の側面を含めた「統合的アプローチ」による課題解決が求められている。そのような状況下において、社会生態システムの持続可能性を高めることが、地域社会における持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にもつながることを事例から理解することを旨とする。岐阜県内には世界農業遺産やユネスコエコパークといった世界的認証システムに登録された地域や、緑豊かな岐阜大キャンパスが存在するので、フィールドに根ざした考察を深める機会を設けたいと思う。	
教養科目	自然科学科目 環境学分野	現代環境学(世界の農業事情)		日本が地球の中で単独に存在することが出来ない大きな一つの例証として、農業問題がある。特に日本の食料自給率は、世界先進国の中では異常な低さであり、極めて憂慮すべき状況にあるにも関わらず、明確な対応策を見出すことが出来ないままである。しかし、世界的な経済不況が深刻化する中、工業立国としてのわが国の優位性がこれからも安定的に継続する保証はなく、人間生存の根元的な食料の安定供給は、将来にわたって極めて重要な課題となる。さらには、農産品のグローバルな流通の進展は、わが国の農業構造に対して深刻な影響を与えるだろう。よって、全世界の人間が共存していくためには、相互の立場を理解し尊重し合うことが先ず必要となる。その観点から、世界の農業事情を概観するものである。 (オムニバス方式/全15回) (80 大場伸也/4回) 資源植物の開発 (342 松井勤/4回) 世界の稲作 (391 山田邦夫/4回) 世界の園芸 (7 八代田真人/3回) 世界の畜産	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 自然科学総合分野	自然科学総合(化学と生物のインターフェース)		高校では化学と生物を別々の科目として勉強してきたと思う。しかし、化学の目をおして生物現象を見る、あるいは化学の手で生物現象を制御するという化学と生物のインターフェースを利用すれば、生物の理解をさらに深めることができる。本講義では、このような視点から各教員が専門としている分野のトピックについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (147 瀬藤守/3回) 身近な食材も魅力的 (213 鈴木史朗/6回) 植物の成分、代謝、バイオテクノロジー、生理活性複合糖質の化学生物学 (267 中川智行/6回) 食品を醸す微生物、微生物との共生、微生物で分子生物学、生活習慣病(動脈硬化、ガンなど)と食品、遺伝子発現と食品成分の不思議な世界、夢のコレステロール代謝改善食品を目ざして	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 自然科学総合分野	自然科学総合(科学的なものの考え方)		主に物理、化学の分野について、教員側からの一方的な講義ではなく、学生主体で課題の提案、グループディスカッションなどを行ったり、解決のための実験・観察を行ったりして、学生自ら物理や化学などの法則の概念を構築していけるような授業を行います。 (オムニバス方式/全15回) (180 櫻田修/4回) 科学的なものの考え方とは何かを中谷宇吉郎の随筆「立春の卵」などの例から解説、「仮説実験授業」の紹介 (274 中村琢/11回) 物理事象の測定、速さと速度、センサーを用いた位置、速度の測定、センサーを用いた加速度の測定と概念、一定の力で引く運動、実験による運動方程式の導出、合力の考え方、合力ゼロの運動、自由落下、鉛直投げ上げ、斜方投射、等速円運動の実験、観察による回転半径および速さ依存性、作用反作用の力、受動的な力としての張力、受動的な力としての垂直抗力、受動的な力としての摩擦力、ニュートン力学のまとめ	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 自然科学総合分野	自然科学総合(数値シミュレーション入門)		ものづくり分野はじめ、工学の分野で取り扱う現象はほとんど物理的なもので、その現象を支配する数式を解くことによって現象が解明される。しかし現実的な現象を式を変形して解くことはまず不可能で、それに代わる数値シミュレーションと言われるコンピュータを使った数値的解法が有効な手段となる。現在、ものづくりに代表される工学分野では、数値シミュレーションは実験と並ぶ必要不可欠な開発ツールとなっている。講義では、数値シミュレーションの基礎的知識として、各種の数値的解法を学習する。関数電卓を使った演習もあわせて行う。また、数値シミュレーションの多くの実例についても講義する。	
教養科目	自然科学科目 自然科学総合分野	自然科学総合(ものの科学)		私たちの身の回りにはいろいろな構造物や機械が存在する。いずれも何らかの素材から作られ、それぞれに機能を持っている。技術の発達に伴い、素材にはそれぞれ新たな特性が要求されてくる。たとえば、自動車の軽量化のための材料、人体にとって害の少ない生体用材料、マイクロマシン用材料などの開発が日々行われている。本講義では、ものづくりの視点から要求される金属材料の基本特性、材料の構造・特性、材料の選び方について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(化学と生命科学)	<p>化学の視点で、特に医薬品、食品、新素材など生命科学に関連する研究内容を解説する。私たちは非常に多くの化学物質に囲まれて生活している。しかし、それら化学物質がどんなものなのか、どのように開発され、どう利用されているのかを理解している人は少ないと思う。本講義では、私たちが日ごろ接している化学物質や将来お世話になる化学物質について、その機能や開発の過程などを紹介する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(86 岡夏央/4回) 核酸の化学、糖の化学 (166 古山浩子/2回) 脳を知る・見る・治す (197 芝原文利/2回) 太陽電池の基礎・有機色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池・ペロブスカイト型太陽電池 (360 満倉浩一/2回) 酵素の化学 (368 宮地秀和/2回) 超分子の化学 (415 リム リーワ/1回) 水の化学 (236 竹森洋/2回) 遺伝学</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(古典に学ぶ(偉大な科学者の学問と人生))	皆さんは古典を読んだことがあるか。古典のなかには、先人の知恵と深い思いが詰まっている。古典を勉強することにより、現代の学問がより深く理解できるようになる。大学生らしく、本気で学問に取り組んでみよう。偉大な科学者の文章を読み、またエピソードを知ることで、先人の苦闘や人生観にじかに触れてみよう。高校で学んだ科学についても、科学的な視点を通して、理解を深める機会となるだろう。	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(生物間コミュニケーション)	<p>ヒトに限らず生物は同種・異種間を問わずコミュニケーションをとっており、それがお互いの関係性に深く関係している。生物同士のコミュニケーションを化学の目を通して学ぶことで、これまで高校で学んできた化学と生物の理解をさらに深めることができる。本講義では、各教員がそれぞれのトピックについて紹介する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(266 中川寅/5回) 化学コミュニケーション (386 柳瀬笑子/5回) 真核細胞の世界、生死を分ける生物間コミュニケーション、行動を操る生物間コミュニケーション、形を司る生物間コミュニケーション (273 中村浩平/5回) 微生物の世界</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(ロボット文化論)	現代社会において、ロボットは日常生活に浸透してきており、その依存度は年々増している。授業では、ロボットの歴史、文化、応用について考える。具体的には、産業用、医療・福祉用、ペット用等のロボットを実例を取り上げて議論する。また、文学やサブカルチャーとしてのロボットにも焦点を当てて、ロボットの存在意義を議論する。さらに、受講者の専門分野へのロボット技術の展開や人間社会に及ぼす影響を議論する。なお、適宜課題を示しながらグループワーク等の活動による学習を求める。	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(食と調理)	ヒトは生きる上で、食事をする必要がある不可欠である。食べ物は、食品・食材であったが、殺菌を目的とした安全性の担保や消化・吸収を助けることを目的とする調理操作を施すことで変化する。したがって、調理操作のひとつひとつには、何らかの意義があると予想される。そこで本授業では、各食材の調理時の変化を把握するとともに、どのような現象が生じているのかを明確化し、科学的に調理をとらえることを目的とする。また、大学生になり、昼食や夕食など自分で食事を選択する機会が増えていると予想される。そこで、自分の食生活をよりよくするための手法について学ぶ。	
教養科目	自然科学科目	自然科学総合分野	自然科学総合(生とリプロダクティブヘルス/ライツ)	<p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは、「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、近年注目されている概念である。女性のライフサイクルを通して、性と生殖に関する健康・生命の安全を権利としてとらえることで、この権利の獲得は、全ての人々がジェンダーに基づく暴力などによって傷つけられず、身体・性について正しい認識を持ち、健康を確保して豊かな生涯を送ることができる社会を育むためのものである。この授業では、現代の生と性に関わる課題について基礎知識を身につけながら、自らの問題として深く考える包括的学習を狙いとしている。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(112 金子洋美/11回) 生(いのち)・性とは生命の誕生、性の多様性と概念、生と性をめぐる現状 (83 大平幸子/3回) ライフサイクルと発達課題、心身の変化の特徴と健康課題、性役割と健康問題 (372 三好美浩/1回) 若者の性をとりまく動向</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	自然科学科目 実験講座分野	自然科学実験講座 (ご飯までのフィールド科学)		<p>コメとイネについて、世界あるいは日本の様々な品種や栽培様式を文化的な側面と生物学的な側面から概説する。また、環境変動と食料生産との関係や稲作に関わる生物環境、コメとご飯の特性との物理化学的な関係などを考える。一連の講義では、教室で学んだことを理解するために、実際にフィールドで栽培体験などを行いながら、理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(283 西津貴久/3回) ご飯の科学、ご飯の食味試験(農場) (80 大場伸也/5回) 田植え(農場)、水田の生態学、新しいイネをつくる、生育観察(農場)、穀物共同乾燥施設の見学 (342 松井勤/4回) イネの成長と栽培、地球温暖化とイネ、水田土壌の科学 (15 広田勲/3回) 種子まき(農場)、日本のコメと世界のコメ、世界各地の稲作</p>	オムニバス方式
教養科目	自然科学科目 実験講座分野	自然科学実験講座 (家畜たちのフィールド科学)		<p>人類は様々なところで多くの動物たちと関わりを持っている。本授業では、動物たちのなかでもっとも関係が深いにも関わらず、その暮らしや役割をほとんど知らない「食べ物としての動物一家畜」について生物学的な側面を中心に概説する。その理解を深めるために、大学農場において実際に家畜の飼養や畜産物の加工実習を体験し、家畜とのつきあい方、家畜から食料が生みだされる過程を学習する。これら講義と実習から、人間と動物の関係、動物の食料生産への貢献を理解する。</p>	
教養科目	自然科学科目 実験講座分野	自然科学実験講座 (金属を使ったものづくり)		<p>金属は磨くことで強い光沢が得られるなど、他の素材にはない特徴を有する。この特徴が一因となり、太古から装飾品用の素材として重用されている。一方で、他の素材と比べて硬質であるため、加工が難しくもある。しかし、道具や熱処理などを上手く扱うことができれば、手作業で加工を行うことも比較的容易である。これらの特性を活かし、これまで多種多様な工芸品が考案されており、その中の一つに杢目金(木目金)がある。杢目金は、異なる金属を半溶融化もしくはは拡散接合によって積層化し、その後、種々の加工を施すことによって金属でありながら木材のような模様を形成することができる。 本講義では、金属加工の基礎である削り、磨き、曲げ、接合を学ぶとともに、これらの加工法を組み合わせて杢目金製の指輪などのアクセサリーを製作する。</p>	集中
教養科目	自然科学科目 情報学分野	情報学入門(ITの歴史と未来)		<p>ITは、InformationTechnologyの略で「情報技術」の意味である。スマートフォンを含むコンピュータとインターネットの普及により情報化社会が浸透し、私たちの暮らしを変えつつある。現在、我々の社会は情報革命の途上にあるが、ITの歴史に学びながら、これからの情報化社会のありかたについて考えていく。はじめに人類の歴史と計算機の歴史について解説する。次に、コンピュータ発展の歴史、動作原理、産業界における役割および21世紀における産業・私たちの社会の方向性について、情報技術、人工知能(AI)、インターネット情報社会、情報化社会の未来などの項目を取りあげながら講義する。</p>	
教養科目	自然科学科目 情報学分野	情報学入門(経営のためのオペレーションズ・リサーチ)		<p>この講義は、縦と横がバランスよく存在する社会を目標とするオペレーションズ・リサーチ(OR)という学問について知ってもらうことが第一の目標である。様々なトピックを通じて、オペレーションズ・リサーチという学問の範囲の広さや奥の深さを知る。(1)OR概要(2)ORトピックス(3)グラフ理論基礎(4)(5)日程計画(6)線形計画法入門(7)輸送問題(8)記述統計(9)予測(10)在庫管理(11)(12)ゲーム理論(13)AHP(14)包絡分析法(15)講評</p>	
教養科目	自然科学科目 情報学分野	教養の情報学(オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング)		<p>この講義は、縦と横がバランスよく存在する社会を目標とするオペレーションズ・リサーチ(OR)という学問について知ってもらうことが第一の目標である。様々なトピックを通じて、オペレーションズ・リサーチという学問の範囲の広さや奥の深さを知る。(1)OR概要(2)ORトピックス(3)割当問題(4)(5)グラフ理論基礎(6)(7)(8)線形計画法(9)動的計画法(10)有限マルコフ連鎖(11)(12)待ち行列(13)(14)組合せ最適化(15)講評</p>	
教養科目	自然科学科目 情報学分野	教養の情報学(データサイエンス入門)		<p>データサイエンスの基本的な考え方を理解し、主たる分析手法及びさまざまな分野のデータ分析を習得することが目的である。データ分析から得られる議論・考察・結論、分析結果から示される内容を伝達する方法について、一連のデータサイエンスとして身につける。</p>	
教養科目	岐阜学 環境学	環境マネジメントと環境経営		<p>現代は、地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻さを増している。そのため企業、自治体などの活動においても環境に配慮した経営、運営が求められている。これらの要求の下、企業、自治体などにおける環境マネジメントの取組みと、環境経営の展開が進められており、環境に配慮しながら事業活動を進めるツールとして環境マネジメントシステム(EMS)の導入が進んでいる。この講義では、EMSの枠組みを理解し、環境負荷の分析評価から効果的な環境経営の手法を理解することを狙いとしている。</p>	共同
教養科目	岐阜学 環境学	森と美術		<p>森林は樹木によって構成される植物群集で多様な環境の中に多くの生物が生活している。人もまた森から生きていく上で不可欠な空気や水、木材、燃料、食料などの様々な恩恵を受けている。樹木の形態的特徴は種を同定するために必要な知識であるが、同時に芸術的な意匠性に優れたものが少なくない。木材に刻まれた年輪は、木の一生の成長の記録であり、木工作品に深みを与えるパターンでもある。森では、危険生物も生息しており、時として人が遭難することもある。森は自然観察、芸術的創作活動、危険回避能力を鍛錬するよき教育の場でもある。この授業では、実際の森の中で、自然を観察し、材料を採取利用、創作を行うことにより森林の価値を多面的に理解することを目的とする。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	- 地域社会と災害		<p>「災害」について、自然現象そのものと、それが人間社会の元に影響をおよぼしたとき何が起きるのかという2つの側面から考える事で、災害の本質について考える事をねらいとしている。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(34 板倉憲政/1回) 災害心理学 (60 上野友也/1回) 自然災害—政府や地方の役割 (146 額綱朋弥/1回) 高齢化と地域(看護系) (184 沢田和秀/1回) 土砂災害と地域社会 (142 栗田暢之/1回) 災害支援 (223 高木朗義/1回) 日本の地域社会 (286 能島暢呂/1回) 地震災害と地域社会 (308 原田守啓/2回) 風水害と地域社会、社会変動と災害 (361 南出吉祥/1回) 未定 (168 小山真紀/5回) オリエンテーション・自然現象と人間社会と災害、災害と多様性、災害リスクの低減に向けて</p>	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 畜産・水産業の歴史と食文化		<p>人間はその歴史の中で長い間、食料源を狩猟採集による獲得に頼る生活を営んでいた。今から数千年前にウシ、ブタ、ニワトリなどが家畜化され、人間社会やその中で人間と動物の関係性は大きく変貌した。家畜化に成功した人間は、長い年月の間に用途に応じたさまざまな品種を作り出し、利用してきた。この講義では、水産資源を含む動物資源の利用形態の多様性を学びながら、その将来を考える。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(399 山本朱美/5回) 食肉の歴史と文化、食料としての畜産物、江戸時代の食事、地鶏・銘柄豚・銘柄牛、人間の食料と家畜の飼料の競合 (6 松村秀一/6回) 水産資源の利用の歴史、漁業問題を考える次元：生態学と進化、水産資源の増養殖、釣りをはじめとする遊漁の歴史と文化、岐阜のアユ (12 只野亮/4回) 野生動物と家畜化、家畜の品種とその特徴、現代の家畜の育種改良、家畜の多様性とその危機</p>	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 世界の食文化		<p>食文化は、食材、調理法といった食品に関わるものから、食器、マナー、外食産業などに至るまで多くの物事のあり方が含まれることが知られている。この授業では世界各地の食文化の諸側面をとりあげ、授業担当の先生の母国や滞在した国をはじめ世界各地の具体的な事例を交えながら学ぶ。また、多文化共生時代に必要とする世界各地の人々の生活の多様性を学ぶための基礎知識を身につけることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(70 海老原章郎/1回) インドの食文化 (267 中川智行/1回) 食文化と微生物 (388 矢部富雄/4回) 日本の食文化 (49 今泉鉄平/5回) 食の文化形成 (246 タンマウォン マナスィカン/4回) タイの食文化</p>	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 環境リーダー実践(上級)I		<p>環境リーダーコースのまとめとして、実際の環境問題や地域の課題に向き合い、実践的に課題を探索し、解決に向けた方策を検討する。特に本講義では、世界農業遺産「長良川の鮎」に登録された地区の1つとして郡上地域の人と環境の関わりにおける課題の探索に主眼を置き学習する。一連の学習を通して、地域の中での環境への課題を解決できる人材となることを目指す。前期においては、郡上地域の環境に関わる様々な取り組みを現地学習し、その中から問題点や課題を洗い出し、さらに探求すべきテーマを選定して課題解決に向けた行動計画を樹立する。</p>	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 環境リーダー実践(上級)II		<p>環境リーダーコースのまとめとして、実際の環境問題や地域の課題に向き合い、実践的に課題を探索し、解決に向けた方策を検討する。特に本講義では、世界農業遺産「長良川の鮎」に登録された地区の1つとして郡上地域の人と環境の関わりにおける課題の探索に主眼を置き学習する。一連の学習を通して、地域の中での環境への課題を解決できる人材となることを目指す。後期においては、前期に引き続き郡上地域の環境に関わる様々な取り組みを現地学習し、その中から問題点や課題を洗い出し、さらに探求すべきテーマを選定して課題解決に向けたまとめを行う。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	- 人権と社会教育		地域社会における人権と社会教育・生涯学習に関する基礎的な知識や、人権に関する課題の把握や解決策の提案、住民の学習の支援策などの技能を修得することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (328 二村玲衣/5回) 日常生活にある困りごとや課題と人権の関係を考える (339 益川浩一/5回) 子どもの権利条約の成立背景 (151 後藤誠一/5回) 地域社会における生活困窮者の人権	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 現代社会と学習・教育(生涯学習概論I)		生涯学習社会の実現が、わが国の21世紀の最重要課題のひとつとなってきている。それとともに、学校以外の、社会において行われる教育(社会教育)の役割が改めて理解されつつある。本講義では、生涯学習や社会教育の基本的な考え方を理解できるよう、さまざまな観点から系統的に学習する。具体的には、生涯学習・社会教育の概念・考え方について、世界及び日本の歴史から多面的に考察した後、とりわけ、日本の国レベルの生涯学習・社会教育推進施策の特徴についてまとめる。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 生涯学習概論II		本講義では、日本各地、とくに岐阜・愛知地域のすぐれた生涯学習実践例を取り上げつつ、地域(地方公共団体、企業等)における生涯学習推進施策について概観するとともに、生涯学習と関連の深い以下のトピックスについて解説し、生涯学習の本質についての理解を深め、生涯学習にかかわる幅広い様々な知識を理論的に習得することを目標とする。(1) 地域・まちづくり (2) 学習情報の提供、学習相談 (3) ニューノーマル・Society5.0 (4) NPO・ボランティア (5) 子ども・若者の居場所づくり (6) 企業・行政等の人材育成	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育施設・支援者論		社会の超高齢化や国際化、情報化、成熟化等の進展に伴い、人びとの学習に対するニーズは多様化・高度化してきている。こうした多様化・高度化する人びとの学習ニーズに応える社会教育施設には、より身近に、誰もが利用しやすい、かつ、広範にわたる質の高い魅力ある経営・運営が求められている。また、社会教育施設等において人びとの学習活動を支援・促進する社会教育主事や施設職員、講師・指導者(教育アドバイザー)・学習コーディネーター等の学習支援者の養成と力量形成が必須の事項となってきている。本講義では、質の高い魅力ある社会教育施設の経営・運営の方策と、学習支援者の役割及び修得すべき力量・能力について考究する。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育経営論		本講義では、社会教育・生涯学習行政の概要、関連する法令の理解、地域の現状の理解と学習課題の特定、社会教育計画の立案と改善、地域課題や生活課題の把握と解決にむけた学習の支援方策、多様な主体によるネットワーク形成の手法、社会教育の広報戦略等について学ぶ。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 学校と家庭・地域の連携		本講義では、子どもたちの背景、地域社会の現状と課題、学校と地域の連携・協働に関する制度、学校・家庭・地域をむすぶ多様な主体で構成されるネットワークの形成や発展などについて、検討する。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 教育社会システム論(教育社会学)		本授業では、教育と社会(特に、地域社会や労働・キャリア)の関係について考察することをねらいとしている。具体的には、自分の今後のキャリア形成につながるような地域課題解決のための事業の企画・提案に受講者同士協力して取り組みながら、教育と社会の関係を考えていく。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 生涯学習成果の還元とボランティア活動		本講義では、ボランティアに関する理論、実践について生涯学習の視点を取り入れながら検討していく。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育実習		本授業では、地域学校協働活動が実践されている現場(放課後子ども教室、学校支援活動、地域未来塾、土曜日の教育活動)において、地域学校協働活動を実際に見聞し、体験する。そのことを通して、地域・自治体における地域と学校の連携・協働事業がどのように展開され、そこで社会教育主事や施設職員、コーディネーター等(地域学校協働活動推進員)がどのように活動しているのかを实地に実習する。そして、地域学校協働活動に関する基礎知識を習得するとともに、地域学校協働活動の企画・立案手法を学び、地域学校協働活動を促進する上で社会教育主事や施設職員、地域学校協働活動推進員(コーディネーター)が果たすべき役割について考究する。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 野外活動実習		また、「次世代地域リーダー育成プログラム」の「地域活動科目」である(「次世代地域リーダー育成プログラム」の詳細については、地域協学センターに問い合わせること)。少年自然の家や青年の家が社会教育施設として設置・運営されていることによく示されているように、社会教育における青少年教育では、野外活動・自然体験活動が重要な位置を占めている。加えて、近年においては、学校教育における野外活動・自然体験活動の重要性が増大してきていると言われている。野外活動・自然体験活動をおして得られる自然体験・生活体験及び集団活動体験は、今日の青少年の人間形成にとって貴重な意味をもっており、今後の社会教育における青少年教育、さらには学校教育の中で、野外活動・自然体験活動はより一層推進されていくものと考えられる。こうした状況をふまえ、本実習では、主に、野外活動・自然体験活動を指導する基礎的技術を習得することを目標とする。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育課題研究(学習プログラム開発論)		本講義では、いわゆる「●●講座」・「△△学級」といわれる講座提供型・集合型の学習プログラムの立案・展開に関する基本的な理論と実践的な知識・技能について考究する。本講義の前半部分では、学習プログラムの立案・展開にかかわる理論学習を行い、後半部分では、理論学習の成果をふまえ、受講者自らが、グループ学習・ワークショップ等を通して、具体的な学習プログラムを企画・立案する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	- 現代社会問題と社会教育		「学び、学習、教育」と聞くと、多くの人びとは「学校」における諸活動をまず思い浮かべることだろう。しかし、学校以外のさまざまな場所や社会においても、「学び、学習、教育」の営みは多様に展開されている。社会教育とは、こうした「学校以外の社会において行われる」多様な教育活動を指す。本授業では、岐阜県内地域・自治体を中心としたすぐれた社会教育実践例を取り上げつつ、社会教育の本質についての理解を深めることをねらいとする。	
教養科目	岐阜学 科目	- 学習者の特性と支援方法		本授業では、社会教育士（社会教育主事）として多様な背景や特性を有する学習者にそった学習の支援ができるよう、学習理論、学習者の多様な背景や特性、学習の環境、ファシリテーション等を理解し、学習者への最適な支援策を実際の講座づくりと実践を通して学ぶことを目的とする。	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育における地域ネットワーク形成		本授業では、社会教育実践のひとつの形である「講座」づくりの学習・グループワークを通して、社会教育が地域や人々の抱える課題解決を図っていく上で、社会教育行政・実践に必要とされるあり方や意義、課題についての知識を習得することをねらいとする。	
教養科目	岐阜学 科目	- 社会教育の意義と展開		本講義では、社会教育という概念や営みの意義を理解し、その歴史的展開を把握することをねらいとする。特に、教育的な活動を通して人々のよりよい生活が実現されてきた歴史や、全国各地の実践を参照しながら、社会教育が人々の生活に対して果たしてきた役割への理解を深める。	
教養科目	岐阜学 科目	- 岐阜県の生物の分布と生態		岐阜県に特徴的に分布する生物の種類や動植物にみられる興味深い生態に関する知識を学び、岐阜県がもつ豊かな自然環境の特徴を理解することがねらいである。 (オムニバス方式/全15回) (8 安藤正規/2回) 岐阜県の森林と野生動物の現状 (30 池田敬/1回) 岐阜大学が取り組む野生動物管理 (219 須山知香/3回) 岐阜を特徴づける植物たち、身近にある生物多様性の危機、岐阜の希少植物—私達にできること (363 三宅恵子/3回) 水生植物の生態、水生植物をめぐる諸問題、水生植物からみる水環境の保全 (364 三宅崇/3回) 植食昆虫の生態と分布、植物の繁殖様式と生物間相互作用、植物の種子散布様式と分布 (165 古屋康則/3回) 全体のガイダンス・岐阜県の水環境と魚類相、岐阜県に生息する魚類の生態・通し回遊魚の生態、河川建造物や水生動物の放流が生態系に与える影響	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 岐阜大学の教育研究と運営		岐阜大学の学部等の設置目的と内容を紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (33 井關敦子/1回) 医学部看護学科の教育と研究 (67 内田勝/1回) 地域科学部はどういう学部か (85 大藪千穂/1回) 岐阜大学の男女共同参画 (120 神原信志/1回) 大学の国際化 (147 額綱守/1回) 岐阜大学の教養教育 (156 小林孝一/1回) 工学って何？ (313 肥後睦輝/1回) 社会システム経営学環による新しい教育・研究への挑戦 (339 益川浩一/1回) 岐阜大学の地域連携と次世代地域リーダーの育成 (349 松原正也/1回) 岐阜大学情報連携推進本部の取組 (283 西津貴久/1回) 応用生物科学とは何か (384 柳沼良太/1回) 教職課程支援センターの役割と活動 (389 山口瞬/1回) 医学部医学科における研究と教育 (396 山田雅博/1回) 教育学部の教育と研究 (419 王志剛/1回) 学術推進・産学官連携推進本部の役割と活動 (393 山田敏弘/1回) ガイダンス及び岐阜大学の概要	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- まちづくりリーダー入門		この授業は、(1)社会的課題解決に挑戦する先駆者、(2)まちづくりを支援する専門家、(3)地域社会に貢献する起業家等をまちづくりリーダーのロールモデルとし、地域社会で活躍するゲスト講師の講話から、その行動や想いを理解する。これにより、自分が何に興味があり何が好きで何に共感するのか、何ができて何ができないのか、強みや弱みは何か等に気付き、自分らしいまちづくりリーダーになるにはどうすればいいかを考える。また、希望者は週末や水曜日午後を利用して、ゲスト講師が活動する地域に出掛け、まち歩きや活動などを行う。以上のことを通して、まちづくりリーダーとして必要不可欠な「何事にも主体的で様々な人達と協働できる姿勢や態度」の重要性に気付き、地域社会で活動する切っ掛けにすることを狙いとする。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	-	まちづくりリーダー実践	この授業は夏期休暇中から始め、チーム毎にゲスト講師と日程調整しながら、地域社会で活動することを基本とする。前学期「まちづくりリーダー入門」のゲスト講師が提示する活動内容の中から、受講生が希望する活動内容を選び、受講生数名から編成されるチーム毎に、ゲスト講師とともに活動する。地域社会での活動を通して、まちづくりリーダーとして必要不可欠な「何事にも主体的に協働する姿勢や態度」を身に付けることを最大の目標とする。さらに、地域社会における次の挑戦につなげる。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	岐阜の自然(地質・活断層と水環境)	岐阜県には、日本の縮図と呼ぶべき地質や活断層、水環境がある。地質では、20億年前の岩石、日本最古の化石があり、種類も多様である。活断層では、1891年濃尾地震のときに動いた根尾谷断層が世界に紹介され、その後の地震の理解に大きく貢献した。水環境では、清流長良川などの源流から河口までがあり、また地下水に恵まれた地域でもある。これらの豊かな自然について理解を深めるとともに、ふだんは意識をすることの少ない地質や活断層、水環境について知ることにより私たちの身近に潜んでいる問題点を学ぶことが、本授業のねらいである。 (オムニバス方式/全15回) (115 神谷浩二/4回) 水環境(地下水)について (187 篠田成郎/4回) 水環境(河川)について (76 大谷具幸/7回) 地質と活断層について	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	-	岐阜の自然と人：森、川、湿地の利用とその保全	岐阜という地域における生物多様性や都市環境の特徴について現状だけでなく、歴史の変遷も含めて紹介する。そしてヒトにとって最適な自然と共生する社会を模索する方法論を習得することが授業の狙いである。 (オムニバス方式/全15回) (313 肥後陸輝/10回) 自然破壊の歴史、生態系サービス、美濃地方と飛騨地方の自然、岐阜の里山、岐阜の林業、岐阜の湿地(河畔林、湧水湿地、湿地林)、岐阜の希少植物(シデコブシなど)、日本の原風景としての白川郷 (375 向井貴彦/5回) 岐阜の河川・池沼と魚たち、長良川河口堰問題、地域の自然環境の評価、外来生物問題、外来生物問題	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	-	フューチャーセンター入門	この授業では、実践・グループワークを通して自発的な学びにより、自分たちで多様な人たちが集まる「対話の場」を作り上げることを目指す。フューチャーセンター(FutureCenter)とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ(課題)について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指す。授業は、座学とあわせてグループワーク(実践)を軸とした講義形式である。まず、フューチャーセンターに関する基本的な知識や手法、事例を学び基礎的な素養を習得し、多様な人たちが集う対話の場(フューチャーセンター)を実践(企画立案から実施)する。そして、地域など身近にある課題の抽出や解決に向けたフューチャーセンターの活用方法や有効性について理解を深め、地域を志向するための実践的な能力を身につける。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	人と自然との関わりから見た岐阜	この授業では、実践・グループワークを通して自発的な学びにより、自分たちで多様な人たちが集まる「対話の場」を作り上げることを目指す。フューチャーセンター(FutureCenter)とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ(課題)について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指す。授業は、座学とあわせてグループワーク(実践)を軸とした講義形式である。まず、フューチャーセンターに関する基本的な知識や手法、事例を学び基礎的な素養を習得し、多様な人たちが集う対話の場(フューチャーセンター)を実践(企画立案から実施)する。そして、地域など身近にある課題の抽出や解決に向けたフューチャーセンターの活用方法や有効性について理解を深め、地域を志向するための実践的な能力を身につける。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	人と自然の関わりから見た岐阜(実践)	岐阜の地域を学ぶ基礎として、岐阜の自然を通して、人と自然との関わりを学ぶ。また実際のフィールドにおいて、岐阜の豊かな自然環境に接し、その関わりを体験する。限られた資源や国土の中で成り立ってきた私たちの暮らしは、豊かで厳しい自然環境に対して畏敬の念を持ち、乖離や対峙せず関わってきた歴史がある。岐阜は県土の82%が森林であり、それを源とする豊富な水資源や生物の多様性に恵まれた地域である。しかし、経済の成長や生活様式の変化により、人と自然の関わりにも大きな変化が生じている。岐阜の地域における課題の多くもそれらと無関係とは言い切れない。岐阜の自然を学び体験することで、岐阜の地域を知り、課題を見つけ、行動し、その解決に向けての方向性を定め主体的な行動を実践する。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	名の知れた企業だけが社会経済を支えている訳ではない。最終製品を生産していないために一般消費者には名があまり知られていないが、評価の高い特有の技術を持ち、当該分野のシェアも高く、業界では有名な企業が岐阜県には多数ある。就職の際、ほとんどの学生はそんな優良企業が存在さえ知らず、選択肢にも入らない。このような企業の存在を知ることができれば、少なくとも就職や働き方、人生設計などの選択肢が広がり、キャリアデザインの視点からも極めて有用である。	
教養科目	岐阜学 科目	-	地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	岐阜県にどのような産業があり、実際に企業で働く人々はどのような考えを持っているのかを知るための講義である。実際の県内企業に取材を行い、報告冊子の原稿を作成する。企業が考えるアピールポイントは何か、自分たち学生が魅力だと思えるポイントは何か、双方の視点を整理することで企業戦略への理解を深めることを狙いとする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	- 岐阜にまつわる東洋史		「岐阜」の名前だけでも意外と奥が深い。日常的に使用している名前や目にしての出来事について、その背景を歴史の面から知り、ものの考え方の一つとして歴史学の手法を知ることと視野を広げてもらいたい。導入として「岐阜の由来」に関連する古代中国や中世日本を取り上げ、そこから日本建築史をベースにした技術史を中心に話を展開する。	
教養科目	岐阜学 科目	- 地域防災リーダー基礎		災害対策においては、自助だけでも、共助だけでも、公助だけでも不十分であり、すべてが機能することが求められる。特に、防災・減災を実現していくためには、災害発生前に地域の防災力を向上させることが必要だ。本講義では、地域の災害対策を担うための基礎知識を身につけ、率先して地域防災・減災に貢献できるようになるための基本的スキルを学ぶ。	集中
教養科目	岐阜学 科目	- 地域防災リーダー実践I		「地域防災リーダー基礎」で学んだ防災・減災に関する基礎的素養を総合的に活かし、地域防災・減災の様々な課題に関連するプロジェクトを実践する。防災・減災の実践の場としては、清流の国ぎふ防災・減災センターで月1回開催している「げんさい楽座」や大学における防災減災に関する課題、地域などと協働して取り組む防災減災の課題などを予定している。本講義では、防災・減災に係わるテーマについて、グループで研究・調査・実践に取り組むプロジェクト学習(Project-Based Learning:PBL)を行う。プロジェクト学習においては、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことで、課題に対する主体的な学びを実現し、主体的な課題解決プロセスを通じて問題発見・課題解決・実行のための基本的スキルを身につける。	集中
教養科目	岐阜学 科目	- 地域防災リーダー実践II		「地域防災リーダー実践I」で身につけた防災・減災に関する知識と実践力を活かし、地域防災・減災の様々な課題に関連するプロジェクトを牽引する。防災・減災の実践の場としては、清流の国ぎふ防災・減災センターで月1回開催している「げんさい楽座」や大学における防災減災に関する課題、地域などと協働して取り組む防災減災の課題などを予定している。本講義では、防災・減災に係わるテーマについて、グループで研究・調査・実践に取り組むプロジェクト学習(Project-Based Learning:PBL)を行う。プロジェクト学習においては、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことで、課題に対する主体的な学びを実現し、主体的な課題解決プロセスを通じて問題発見・課題解決・実行のための発展的スキルを身につける。	集中
教養科目	岐阜学 科目	- 岐阜県環境教育と科学・技術		岐阜県環境審議会委員を務める大学教員が中心となり、各分野からみた環境問題を講義しながら、岐阜県環境を考える。 (オムニバス方式/全15回) (80 大場伸也/2回) 岐阜県環境行政と本講義の目指すところ、我が国の環境問題の課題と取り組み (115 神谷浩二/2回) 岐阜県における廃水処理の現状、岐阜県における廃棄物処理の現状 (181 佐治木弘尚/4回) 地球環境で問題となった化学物質とこれからの課題、環境教育の重要性、国際社会からみた環境を取り巻く様々な課題、市民生活から見た環境を取り巻く様々な課題 (315 平工孝義/5回) 岐阜県第6次環境基本計画とその役割、岐阜県環境問題の歴史と取り組み、岐阜県環境と環境審議会の役割、環境教育の中での若者への期待と役割、環境を考える (319 廣岡佳弥子/2回) 岐阜県の地下水によるくらしづくり、岐阜県の地下水環境の保全	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 古今のものづくり		岐阜県では、古くから金属を使ったものづくりが盛んに行われている。例えば、現在の関市周辺では鎌倉時代から日本刀の製作が始まったとされ、現在でも刀剣関連の職人が数多く活動を続けている。これらの知見が基盤となり、現在では包丁などの刃物の出荷量が全国一となっている。また、飛騨地方の神岡鉱山では、金属材料の原料となる鉱石の採掘が奈良時代頃から始まったとされ、2001年まで亜鉛や鉛を含む鉱石を大規模に採掘していた。本講義では、主に金属工学の観点(金属の製錬、金属の物性、金属の組織制御、金属の加工方法など)から岐阜県内で行われてきた古今のものづくりについて初学者向けに解説し、その歴史などについても理解を深める。	
教養科目	岐阜学 科目	- 岐阜の地方自治とその課題：政策法務の可能性		本講義では、地方自治研究センターの協力を得て、地方議会の議員、首長、政策を立案する公務員、公的部門とともにちいきづくりを実践する民間部門の方等を中心に、毎回ゲスト講師をお招きし、岐阜地域の自治の課題や地域問題とその対応について話題提供をしていただき、それを政策法務的観点から検討していくを内容とする。授業の狙いとしては、上記の内容について、学生のみならず実情を知っていただき、それがどのような枠組みの問題なのか、それに対してどのような工夫をすればよりよい地域社会となるのかを自分で把握・理解してもらえるようになることである。	
教養科目	岐阜学 科目	- 高年次教養セミナーI		毎回、本学教授陣が様々なトピックを1つ取り上げ、学部等を超えた学生が集い、それぞれの専門的見地を活かした議論を重ねていく科目である。専門科目を学び始めた学生や、就職活動、留学、インターンシップ、ボランティアなど、学生生活で様々な経験を積んだ学生が、自らの教養を今一度振り返り、さらに深化させていくことを目指す科目である。 (オムニバス方式/全15回) (82 大橋憲太郎/3回) 油と健康 (117 川上ちひろ/3回) 発達障害を知る入門編 (199 島田昌也/3回) 果糖の身体への影響を考える (323 福岡大輔/3回) 計算する機械のいまむかし (349 松原正也/3回) あなたに忍びよるサイバー犯罪	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	- 高年次教養セミナーⅡ		<p>毎回、本学教授陣が様々なトピックを1つ取り上げ、学部等を超えた学生が集い、それぞれの専門的見地を活かした議論を重ねていく科目である。専門科目を学び始めた学生や、就職活動、留学、インターンシップ、ボランティアなど、学生生活で様々な経験を積んだ学生が、自らの教養を今一度振り返り、さらに深化させていくことを目指す科目である。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(29 飯田泰弘/3回) 映画スクリプトを通して見る英語の構造 (284 新田高洋/3回) 物理をつかって生物をしらべる (295 長谷川曉人/3回) 一緒に「哲学」をしてみよう! (328 二村玲衣/3回) 里親という「親」から「家族」を考える (332 洞澤伸/3回) 若者たちが使う「バイト敬語」の違和感について</p>	オムニバス方式
教養科目	岐阜学 科目	- 社会の多様な働き方		<p>経済や文化をはじめとする社会情勢が目まぐるしく変化する現在では、以前にはなかった「多様な働き方」が生まれつつある。この授業ではNPO、NGO、そして民間企業等からゲストスピーカーを積極的ににお招きし、お話を伺うことで「多様な働き方」に触れると同時に、授業で扱う進路選択の考え方や方法をともに、学生一人一人が自己の個性をもとに自分の将来の働き方をイメージすることができるようにしていく。その過程で、大学での学びを振り返り、将来的に働くということと今の学びがどのように繋がっており、生きていくのかを考えていく。また将来的にどのような働き方が社会的に必要とされていくのかをグループごとで模索し、発表をしてもらう。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- キャリア形成論		<p>自分は将来どのような人生を歩んでいくのか。どんな仕事に就いているのだろうか。そもそも自分が就きたい仕事はどのような仕事なのか。こうした疑問は多くの大学生が抱えるものです。授業の題目にある「キャリア」というと、おそらく就職活動や学生生活の間を取るべき資格などが思い浮かぶと思う。だが、この講義は、就職活動に関わるテクニックを学ぶものではない。その一歩手前の、現在の自分が置かれている状況（世界や日本、そして身近な社会情勢）を把握し、その中で「生きる」とは、そして「働く」とはどういうことなのかという、広い意味での「生き方」や「働き方」について考えることを目的とする。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- ライフコース論(人生設計と生活保障)		<p>人それぞれが歩む人生の道筋は異なる。年代はもとより、国や地域、宗教、そして文化圏によっても歩まれるライフコースには様々なものがある。とりわけ日本では以前のように、学校を出たら安定的な仕事に就くことが難しくなっており、様々なライフコースが模索されている状況にある。この授業では世界で今どのようなライフコースが育まれており、また「若者」はどう実践しようとしているのかを探る。その成果を踏まえて日本で模索されるライフコースのあり方を振り返り、ひいては学生が自己の個性を分析し、適性を判断できる機会を通じて自身のライフコース(人生設計)を描く上でのヒントを得ることを目的とする。なお、受講者数にもよるが、グループでの作業や議論を積極的に取り入れる予定である。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- プロジェクト型インターンシップ		<p>本講義では、岐阜県内の企業や自治体等から課題の提示を受けて、グループで解決策を検討し、実際に提案を実施する。提案のためには、フィールドワークや文献調査、そしてインターネットでの情報収集も必要となるだろう。また、インターンシップ受け入れ先にて実際の就業体験を積む中で、より実践的な提案ができるようになることを目指していく。学生1人1人が課題の解決に資する意見やアイデアを出し合い、ディスカッションを繰り返す中で、学生ならではのアイデアを丁寧に練り上げていく。そのアイデアを自治体や企業の担当者前でプレゼンさせてもらい、直接にコメントを頂く機会を設ける。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- 現代社会とボランティア・地域活動		<p>ボランティア・地域活動(ボランティア活動等)に関する基礎的な知識を習得することに加え、学内外の様々なボランティア活動等に参加し(計10時間)、地域の人びとと共に活動することを通じて、実践的な生きた知識や技能を学ぶとともに、その過程において豊かな人間性や社会性を身に付ける。また、ボランティア活動等とおして、地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動する能力を習得する。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- 生活と金融・人生設計と資産形成		<p>現在の私達の日常生活はお金や資産の出し入れ、運用を基盤としており、その「資産の運用つまり金融」に関わる知識は「生活や人生設計」を考える上で必須のものとする。しかし、実際の社会は金融に関わるトラブルが多様で、しかも頻発している傾向にあり、またどう運用したら良いのかについての正確な情報に乏しいと言える。その初歩として、もっとも身近な「暮らし」に関わるお金や金融システムを身近な事例を踏まえながらわかりやすく講義していく。各回ともその場で考えてもらいながら進めていくスタンスとし、一方通行的な授業内容にはしない。社会人としての基礎力として必須の知識を初年次において学習し、金融、お金というものに関して自らの判断基準が明確になることを目的とする。</p>	
教養科目	岐阜学 科目	- 自己省察と将来のキャリア設計		<p>大学卒業後の人生の進路を決定するには、自己の志向、適正、労働条件、社会の変化、景気動向、地理条件など多くの要素を考慮しながら検討する必要がある。本講義では受講生が将来を考える材料となるよう、教員の人生経験談、岐阜県の企業で活躍するゲストスピーカーの話、先輩や社会人との座談会等を提供する。その前後では、受講生同士でのグループワークやラーニングポートフォリオの記述を通じて、感じたことや考えたことを言語化して共有する。多種多様な視点を取り入れながら、生きること・働くことの意義を考え、自分自身の様々な可能性に気づくことが、本講義の狙いである。</p>	共同
教養科目	岐阜学 科目	- 自分らしいキャリア設計I		<p>自分の進む道や仕事選び、人生の過ごし方など、生涯の中には様々な選択肢がある。「やりがいを持って人生を過ごしたい」、「自分の興味や適性をもっと知りたい」等々、キャリア設計は己を知り、各人が自らの責任で前向きに生き、自己実現を目指していくための中心であり、当然、大学での勉学はキャリア設計の基本となるものである。本授業では、多様化した社会の中で、自己を確立し、社会での役割を果たしていくために身につけなければならない事柄は何かを考え、努力方針を明確にすることを目的とする。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	-	アントレプレナー シップ入門	ビジネスの基礎的知識の無い学生が基本から学ぶことを前提として、アントレプレナーシップに関する知識の伝達やアイデア創出グループワークなどを行う。具体的には、ビジネスに関する基礎的事項、先行ビジネス・起業の事例、新ビジネス創出・起業に関する基礎的情報、社会で活躍している起業家や企業人の体験談／事業内容などを参考に、現代ビジネスや地域社会、自身の周辺における課題を主体的に調査・発見し、それを解決するためのアイデア（ビジネスアイデアなど）を考案する。その後、ビジネスプランに落とし込む作業（グループワーク等）を通して、ビジネスや社会活動において必要な知識やスキルを習得する。また、将来「会社における新規事業の企画・推進」や「起業（副業的起業・週末起業を含む）」などの際にも役立つ知識やスキルも習得する。その過程において、視野拡大と意識改革を行い、アントレプレナーシップを醸成する。	
教養科目	岐阜学 科目	-	アントレプレナー 実践学	既にアントレプレナーシップを有した、アイデア実現を検討中の受講生が中心となり、社会課題の解決につながる起業や新規事業の創出法について体系的に学習し、実践的取り組みと合わせて新たな価値を創造することを目的とし実施する。具体的には、授業の導入部分で、何をどう考え、何をしなければ革新的な事業創出につながるのか、どこにリスクがあるのか、ステップごとに基礎的事項から学ぶ。その後の前半授業では、受講生発案のビジネスアイデアについてフレームワークを活用し、特に「課題設定／顧客ターゲット／解決策」に焦点を当て、グループワーク等によりアイデアを磨き込む。後半授業では、それぞれの仮説について検証を行う。	
教養科目	岐阜学 科目	-	岐阜大学の歴史と 高等教育論	この授業では、(1)高等教育に関する現代的課題についてのディスカッション、(2)日本の高等教育制度の歴史、(3)岐阜大学の歴史を扱います。(1)については毎回、授業生同士で議論を行います。積極的な情報収集と発言が求められます。(2)と(3)については両者を関連付けて講義します。	
教養科目	岐阜学 科目	-	地域系インター シップI	インターンシップとは一般に、実際の現場で就業体験をすることを指す。この科目では、自治体・地域団体・NPO等、地域に関わる活動をしている団体の現場に赴いて研修を行い、提示された課題に対して解決策を提案する。課題によっては実行までを期待する場合もある。実際の課題について具体的に取り組むことを通じて、状況を広く把握し、論理的に解決策を組み立て、自分の役割を理解して主体的に活動できる力を伸ばすことをねらいとする。また、地域との様々な関わり方を知ることで、将来において自身がどのように地域と関わるかを考える一助とする。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	地域系インター シップII	インターンシップとは一般に、実際の現場で就業体験をすることを指す。この科目では、自治体・地域団体・NPO等、地域に関わる活動をしている団体の現場に赴いて研修を行い、提示された課題に対して解決策を提案する。課題によっては実行までを期待する場合もある。実際の課題について具体的に取り組むことを通じて、状況を広く把握し、論理的に解決策を組み立て、自分の役割を理解して主体的に活動できる力を伸ばすことをねらいとする。また、地域との様々な関わり方を知ることで、将来において自身がどのように地域と関わるかを考える一助とする。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	産業系インター シップI	インターンシップとは一般に、実際の現場で就業体験をすることを指す。この科目では、企業の現場に赴いて研修を行い、提示された課題に対して解決策を提案する。課題によっては試作品の作成や企画の実行まで期待する場合もある。実際の課題について具体的に取り組むことを通じて、状況を広く把握し、論理的に解決策を組み立て、自分の役割を理解して主体的に活動できる力を伸ばすことをねらいとする。また、実際の現場での活動を通じて、将来働く中で必要とされる能力を認識することにより、以後の学生生活・学習活動における目的意識の向上も期待する。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	産業系インター シップII	インターンシップとは一般に、実際の現場で就業体験をすることを指す。この科目では、企業の現場に赴いて研修を行い、提示された課題に対して解決策を提案する。課題によっては試作品の作成や企画の実行まで期待する場合もある。産業系インターンシップIを受講済の場合は、原則として異なる企業を受入先とする。実際の課題について具体的に取り組むことを通じて、状況を広く把握し、論理的に解決策を組み立て、自分の役割を理解して主体的に活動できる力を伸ばすことをねらいとする。また、実際の現場での活動を通じて、将来働く中で必要とされる能力を認識することにより、以後の学生生活・学習活動における目的意識の向上も期待する。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	地域リーダー実践 (上級)I	この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、後期開講の「地域リーダー実践(上級)II」の履修を条件とする。授業では実際の地域の課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。予め設定されたプロジェクト課題を選択し、プロジェクト指導教員の助言および現地コーディネーターとの連携のもと、原則グループで課題に取り組む。グループメンバーでミーティング日時を設定し、基本的に週に1回のミーティングをベースにプロジェクトを進める。必要に応じて現地実習も行う。グループワークを通して、受講生自ら目標設定・動機付け・進捗確認などを行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	地域リーダー実践 (上級)II	この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、前期開講の「地域リーダー実践(上級)I」の履修を条件とする。授業では実際の地域の課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。前期から継続してプロジェクト課題にグループで取り組む。必要に応じて現地実習も行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。	共同 集中
教養科目	岐阜学 科目	-	産業リーダー実践	この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコース」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得していることを履修条件とする。授業では実際の地域産業の課題解決等に向けて実践的に取り組み、リーダーシップを発揮できる人材あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。指導教員の助言と協力者との連携のもと、原則としてグループで課題に取り組む。受講生自らで目標設定・動機付け・進捗確認などを行い、自身の事業計画の発表と最終活動報告をプレゼンテーションとして行う。	
教養科目	岐阜学 科目	-	持続可能な地域と 環境リテラシー	この授業では、環境課題の解決に向けて行動するために必要な科学の概念や科学的検討のプロセス、科学と社会とのコミュニケーションなどについて、幅広い環境分野に関する講義や受講者のグループワークを通じて学ぶ。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	岐阜学 科目	-	グローカリゼーションと異文化理解	世界の情報の共有スピードは即時的となりその発信者は限定されない時代となってきた。世界各国の様々な地域（個人）が国際化（＝グローカリゼーション）する中で、国単位で考える国際化とは異なり各地域の個人に直接働きかけることで新たなニーズが生まれている。本授業では多様化社会の中で様々な起こりうる言語的・文化的差異を認識し、岐阜を中心とした東海圏の文化を発信するための考え方を学ぶ。また、グローバル人材にとって必要な基礎的な異文化理解力とその表現スキルを修得する。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	グローカルリーダー実践I	この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、後期開講の「グローカルリーダー実践II」の履修を推奨する。授業では実際の地域の国際的な多様性に伴う課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。予め設定されたプロジェクト課題を選択し、プロジェクト指導教員の助言および現地コーディネーターとの連携のもと原則、グループで課題に取り組む。受講生全員は、講義コーディネーターが実施する定期的な研修（事前・中間・事後・フォローアップ）に参加し、振り返りやグループワークを通して、受講生自らが目標設定・動機付け・進捗確認などを行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。	共同
教養科目	岐阜学 科目	-	グローカルリーダー実践II	この授業は「次世代地域リーダー育成プログラム」の上級段階の授業であり、同プログラムの初級段階で所定の単位を修得し、前期開講の「グローカルリーダー実践I」の履修を前提とする。授業では実際の地域のグローバル化に対する課題解決等に向けて実践的に取り組むことで、地域の中でリーダーシップを発揮できる人材、あるいはリーダーを支援する人材として必要な素養や能力を養う。予め設定されたプロジェクト課題を選択し、プロジェクト指導教員の助言および現地コーディネーターとの連携のもと原則、グループで課題に取り組む。受講生全員は、講義コーディネーターが実施する定期的な研修（事前・中間・事後・フォローアップ）に参加し、振り返りやグループワークを通して、受講生自らが目標設定・動機付け・進捗確認などを行う。プレゼンテーションとして自身の事業計画の発表、最終活動報告を行う。	共同
教養科目	スポーツ・健康科学 科目	健康科学講義	健康科学	「科学的根拠に基づいて判断し決断する能力」を養成することを目的としている。 (オムニバス方式/全15回) (22 足立美穂/1回) 障害者差別解消法と合理的配慮について (89 岡田英志/1回) 救急医療 (182 佐渡忠洋/1回) スポーツとアスリートの心的世界 (238 田尻下聡子/1回) 肝臓と栄養：低栄養と栄養が健康に与える影響 (270 永田知里/1回) 癌の疫学研究 (321 深尾琢/1回) 人はなぜカルトにはまるのか？-精神医学的視点から- (334 堀川幸男/1回) 糖尿病体質について (335 堀田亮/2回) “こころ”とは？カウンセリングとは？、ストレスマネジメントの基礎 (402 山本真由美/4回) 保健管理センターの役割、生活習慣病、日本の医療制度について、総括と理解度認定 (32 石原正志/1回) HIV/AIDS診療の現状 (404 山本容正/1回) 感染症と薬剤耐性	オムニバス方式
教養科目	スポーツ・健康科学 科目	健康科学講義	ヘルスプロモーションと地域保健	健康を守り、生活の質を高めることの基盤となるヘルスプロモーション（人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス）の考え方を理解し、市町村をはじめ、学校や企業等の地域で行われている様々な保健活動を通して、受講生自身の身近な課題や問題を取り上げ、ヘルスプロモーションを実践的に学習する。	共同
教養科目	スポーツ・健康科学 科目	健康科学講義	スポーツコンディショニング	スポーツにおける『コンディショニング』とは、身体的要素・精神や心理的要素・環境的要素・情報の要素などが多様に関与している。そしてスポーツにおける『コンディショニング』は、スポーツ活動を行ううえで選手の能力を十分に引き出しパフォーマンスの向上を図り、傷害や疾病を予防し良い体調を維持・向上させる上で必要である。選手の健康管理は、セルフケア・一次ケア（プライマリケア）・二次ケア（セカンダリーケア）と階層的に構成され、選手自身が自分のために実践する『セルフケア』が最も基本かつ重要である。よって本講義では、選手自身に健康管理の重要性を認識させ、自覚を持たせる自己管理の手法について講義を展開していく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	健康とQOL	<p>人の健康の改善、維持・向上に関する知識とスキルを学び、受講者皆さん自身の健康を自己管理する力の修得を目指す。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(23 阿部誠人/2回) 集中治療室で治療を受ける人のQOL, 感染症にかかった人のQOL (101 柿田さおり/2回) 慢性閉塞性肺疾患を有しながら生活する人のQOL, 心不全を有しながら生活する人のQOL (143 栗原佳代/1回) 透析を受ける人のQOL (230 高橋由起子/4回) QOLの歴史的背景・概念と構成要素, 保健医療領域におけるQOLと健康に関連したQOL (HRQOL), がん患者のQOL, 急激に健康破綻した人のQOL, 終末期にある人のQOL, 治療を必要とする人を支える家族のQOL (268 中川ひろみ/2回) 臓器移植を受ける人のQOL (314 日坂ゆかり/4回) 筋萎縮性側索硬化症を発症した人, 支える家族のQOL</p>	オムニバス方式
				<p>私たちの体はすべて食品からできている。しかし、生きるために必要な栄養素の種類と量を知らない人は多い。栄養のインバランスや運動不足などを原因とする生活習慣病のリスクは、現在、小中学生の3割、高校生の4割に及んでいる。生活習慣病の一次予防の基本は、栄養と運動である。そして、栄養と運動の必要量は、「日本人の食事摂取基準」および「健康づくりのための運動基準」にそれぞれ示されている。この授業の目的は、生活習慣病予防の基本である栄養と運動について、必要量の科学的根拠等を理解し、実生活に役立てられるようにすることである。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	健康科学講義	栄養と運動	<p>私たちは体はすべて食品からできている。しかし、生きるために必要な栄養素の種類と量を知らない人は多い。栄養のインバランスや運動不足などを原因とする生活習慣病のリスクは、現在、小中学生の3割、高校生の4割に及んでいる。生活習慣病の一次予防の基本は、栄養と運動である。そして、栄養と運動の必要量は、「日本人の食事摂取基準」および「健康づくりのための運動基準」にそれぞれ示されている。この授業の目的は、生活習慣病予防の基本である栄養と運動について、必要量の科学的根拠等を理解し、実生活に役立てられるようにすることである。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	雪上スポーツで学ぶ(スキー)	<p>スキーは、生涯スポーツの一つとして、また大学生が身に付けるべき教養実践科目として取り上げていく。厳しい冬の銀嶺と澄みきった青空を背景に、白い大斜面に思い思いのシュプールを描く…。スキーは自然との深い融合に喜びと楽しみがある。受講する諸君は、自己実現に欠くことができない安全で正しいスキー技術を体得する一方で、野外スポーツに欠くことのできない自然への畏敬、現代人に欠けていると言われる他者理解(思いやり)、宿舎での生活やゲレンデでのマナーといった生涯につながる教養ある態度も身に付けてもらいたい。さらにそこに集う人達とのコミュニケーションをより深め、雪国での楽しく充実した合宿生活を体験してもらいたい。</p>	共同 集中
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ヨガ・エアロビクス	<p>ヨガやエアロビクス・ダンスなどの運動を通して、身体感覚に集中し、動きを意識することに重点をおく。他者と比べることはなく、「自分にとって気持ちがいいとは何か」「正しい動きとは何か」について探求する。また、「楽しいという感覚」を確かめながら、生涯を通して主体的に運動実践を継続するための能力を養うことを狙いとする。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	スケートボード	<p>特に安全面に配慮しながら、スケートボードの基礎技術について学習・習得し、スケートボードの楽しさを味わう。主に、ストリート系の技の習得を目指す。個々のレベルによってはグラインド系の技の習得を目指す。</p>	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ハンドボール	<p>まずは、皆さんが今持っている力で行うゲームから入り、ハンドボールそのものを体験してもらいたい。その上で、攻防に必要な基本プレーを学び、ゲーム局面が発展していく面白さに触れることを本授業の狙いとする。ゲーム中心の活動を通して、ハンドボールの技術・戦術、ルールを理解し、「ゲームの中で滑らかにシュートを決めること(初心者)」ができるよう授業の目標を設定する。中・上級者には「基本プレーを駆使し、味方を活かしゲームの組み立てや展開ができること」としたい。授業の後半以降は各チームでゲームプランを設定してもらおう。また同時に、メンバー間のコミュニケーションやチームワークを図りつつ、「ゲームを楽しむ」その雰囲気共有することも本授業の狙いとする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ・健康科学分野	フットサル		個人、グループ、チームにおける戦術を理解し、実践することでフットサルの楽しさを感じることを経験してもらう。毎回、授業前半はテーマに沿ったトレーニングを行い、後半はゲームを行う。	
	スポーツ・健康科学分野	新卓球(ラージボール)		幅広い年代の人に卓球競技を普及させ、またレクリエーションスポーツとしても楽しめるように、という目的で、昭和63年日本卓球協会が新しく考案したのがラージボール卓球である。通常(直径40mm)よりも大きく(直径44mm)軽いボールを用いるためボールのスピードが出にくく、また変化も少ないため、ラリーが続き、初心者であってもラリーを楽しむことができる。このため、ラージボール卓球は生涯スポーツとしても注目されている。本授業では特に卓球初心者の人に卓球のラリーの楽しさを知ってもらうことを授業の狙いとしている。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	ファストピッチ・ソフトボール(ウィンドミル投法入門)		いわゆる競技ソフトボールである「ファストピッチ・ソフトボール」において、現在、最も主流となっている投法は、腕を1回転させてボールを投げるウィンドミル投法である。本授業では、ウィンドミル投法の基礎を体系立てて解説し、その習得を目指す。また、ソフトボールをプレーする上で必須となる、基本的な捕球・送球技術および打撃技術についても学習する。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	卓球・水泳		講義期間の前半は卓球、後半は水泳を行う。卓球は身体のリフレッシュを主な目的とする。競技経験の有無は問わない。水泳は陸上トレーニングで得られない体力作りや身体のリフレッシュを目的とする。授業内容は初心者が対象ではなく、ある程度泳げる者を対象とする。	共同
教養科目	スポーツ・健康科学分野	太極拳		太極拳を中心として東洋的な体の使い方を意識することによって、日常でも楽により効果的に体を使い、日常生活での姿勢の重要性を学ぶ。太極拳の国際的スタンダードである「簡化24式太極拳」の基本を徹底することを最大の目的とし、太極拳の真髄を学生諸君に体験して貰うことに努力する。導入として「五禽戯」を取り入れる。これは1800年ほど前、三国志の時代に神医と言われた華佗が考案した健康体操で、音楽にあわせて虎・鹿・熊・猿・鳥の動きを真似る比較的簡単な動作である。また、太極拳の体の用法は古武術と共通しているので「古武術に学ぶ体の使い方」を参考として体幹トレーニングも行う。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	バドミントンAI		本授業では、バドミントンというスポーツを通じて、生涯にわたる豊かなスポーツライフの資質となる基本的な知識および技能を獲得するとともに、他者との交流を通じた生涯スポーツにおける多様な楽しみ方への理解を深めることを目的とする。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	サッカー		個人、チームにおける戦術を理解し、実践することでサッカーの楽しさを感じることを経験してもらう。毎回、授業前半はテーマに沿ったトレーニングを行い、後半はゲームを行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	卓球	卓球は、場所をとらずに手軽にできる、日本では以前からなじみ深いスポーツである。そして、初心者でもラリーやゲームが容易にできる、すぐに楽しむことができる種目である。この授業では、楽しむだけにとどまらずに、スポーツとしての卓球の技術習得を目指す。つまり、フォアハンド・ロングとバックハンド・ショート of の技術を習得し、安定した返球ができることを目的とする。そのために、構え、グリップ、ストローク、フットワークなど基礎的な練習を繰り返す。また、様々な遊び感覚のゲームや公式ルールによるゲームも行う。単なる「遊び」としての卓球から、「スポーツ」としての卓球技術を学び、今までと違う一味違う卓球を身につけて、生涯スポーツに位置づけることを期待する。	
	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ボールゲームI	本授業では、球技系（ネット型・ゴール型）のスポーツを実施する。それぞれの種目における基本的な技能の獲得を目指し、ゲームを中心に授業を行う。また、それぞれのスポーツのルール・特性を理解するとともに、ゲームを楽しみながら積極的に身体を動かすことを目指す。本授業は履修に際し、性別・年齢・体力レベル・運動経験等の条件は設けない。そのため、体力や能力が異なる人たちとも積極的に関わりながらコミュニケーションをとり、チームで協働してゲームを実施することを目指す。	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ボールゲームII	本授業では、球技系（ネット型・ゴール型）のスポーツを実施します。それぞれの種目における基本的な技能の獲得を目指し、ゲームを中心に授業を行う。また、それぞれのスポーツのルール・特性を理解するとともに、ゲームを楽しみながら積極的に身体を動かすことを目指す。本授業は履修に際し、性別・年齢・体力レベル・運動経験等の条件は設けない。そのため、体力や能力が異なる人たちとも積極的に関わりながらコミュニケーションをとり、チームで協働してゲームを実施することを目指す。	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	ボールゲームIII	ボールゲームIIIでは、ゴール型球技・ネット型球技・ベースボール型球技を幅広く扱う。また、男女の体力差や各競技の習熟度の差を考慮し、ルールや用具を柔軟に変更しながら行う。授業は、各球技種目の技術や戦術を学習し、それらの「醍醐味を理解する」こと、グループやチームでの活動を通して、「協働することのおもしろさを学習する」ことを主な狙いとする。学生同士のコミュニケーションを軸に授業展開する中で、互いの特徴を理解し合い、競技そのものやチームで活動することの魅力を学習する。	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	バレーボールA	バレーボールは生涯を通じて楽しむことのできる代表的なスポーツである。体育館などの場所さえ用意すれば、仲間と手軽に楽しむことができる。この授業を通してバレーボールの面白さを体感し、生涯スポーツとして今後もバレーボールをやってみたいと思えるような授業を目指す。全ての受講生が積極的にボールを追って、仲間との一体感を楽しみ、充実した汗を流せるような授業を狙いとする。全員の活動量や楽しみを確保するために、基本的に初心者（高校までの授業での経験しかないレベル）を対象として行っていく。そのため、授業の最初の数時間はルールを制限した簡易なゲームから入り、基本技術の練習も適時入れていく。最終的には白熱したラリーが続き、ゲーム中に相手の攻撃をブロックしたり、組織的にレシーブしたりできるようなレベルを目指す。	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	テニスI	テニスは老若男女を問わず全世界で楽しまれているスポーツの一つで「生涯スポーツ」として運動習慣の獲得に適している。この授業では主に基礎技術の獲得を目指す。またゲーム方法の基礎を学び、ゲームを通じてマナーやコミュニケーション方法、パートナーへの信頼、対戦相手への尊敬心を養う。基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。	
教養科目	スポーツ・健康科学科目	スポーツ演習分野	テニスII	テニスは老若男女を問わず全世界で楽しまれているグローバルなスポーツの一つである。2~4人の少人数で実施できることや社会人になっても気軽にできること、から「生涯スポーツ」として適した種目である。この授業ではテニスの競技特性を理解し、ゲームにおける戦術戦略の立て方の習得を目指す。また、ゲームを通じてマナーやコミュニケーション能力、パートナーへの信頼、対戦相手に対する尊敬心を養うとともに基礎体力の向上および安全管理を含めた社会性を身につけることも目的とする。授業は実技形式で行なう。必要に応じてグループを形成して練習・ゲームを行なう。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ・健康科学分野	バスケットボールA		バスケットボールは時間内に高い位置のゴールにシュートを入れて得点を競う攻守混合型の球技である。「ボールを持ったらどうプレイする」などのプレイ選択には、個人技能だけでなくチーム内の役割や戦術が大きく影響する。一緒に練習やゲームをしていくうちに、確率の高いシュートにつなげる攻撃や協力して守るなど、攻防の対応力が向上しチームみんなが上達する。授業では、ゲームに役立つスキルと連携プレイの練習をして、リーグ戦のゲームに活用していく。基本的な攻防の知識を学び、各チームが工夫して実践していくことで、全員のレベルアップが図れる。ゲームを楽しみながらバスケットボールのスキルアップと体力の向上を目指す。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	ソフトボールB I		ソフトボールは誰もが楽しみやすく、生涯スポーツとしても多く取り組まれているスポーツの1つである。本授業では、ソフトボールを通じた「健康・体力づくり」と「ソフトボールを楽しむこと」を狙いとし、そのために必要な基本動作、ルールの習得を目指す。また、ゲームを通し個人やチームの課題を見つけ、その克服に向け積極的に取り組むこと、役割・協力・交流などの社会性を養うことも狙いとする。未経験者でもゲームを楽しめるように本授業では基本的に「スローピッチソフトボール」のルールで行う。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	アダプテッドスポーツ		日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門分科会によれば、『adapted sports』とは、ルールや使用する用具などを障害の種類や程度に適合 (adapt) することによって、障害のある人や体力レベルの低い人であっても参加することができるスポーツ活動のことを指す。よって個々の活動レベルに応じてスポーツ活動を実践することで、『生活の質』(Quality of Life: QOL) が向上することが期待できる。本講義では、個々の活動レベルに応じたスポーツ活動を通じて、楽しみながら運動を継続できるよう講義 (実技) を展開する。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	ジョギングII		安全で効率的なジョギングフォーム及びジョギングペースを身につけることや、運動強度の違いによって異なる生理的効果が得られることを学ぶことにより、生涯にわたってジョギングに親しむ態度や個人で目標を設定する能力を養う。授業の前半で走フォームを学習し、後半にジョギング運動を行う。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	バランスボールエクササイズ		なぜ同じ年齢でも老けている人と、若々しい人がいるのか。なぜやりたい事を実現できる人と、出来ない人がいるのか。なぜ人と比べてしまうのか。なぜ人目を気にしてプレーキをかけてしまうのか。自分が自分らしくなかなか生きていけないのには理由がある。けれど、心ばかりフォーカスを当てて頑張ろうと思っても、一時的なモチベーションで終わってしまったり、浮き沈みしてしまう。そしてそのヒントが体にある。どんなに食べても休んでも気が湧かない、面倒臭いと思ってしまう、いいアイデアが浮かばない、イライラする、なかなか前向きになれない、そんな時はエネルギー不足が考えらる。細胞、脳、自律神経、ホルモン、筋肉、骨格、内臓、私たちの体を作る全てからその「なぜ」を理解し、実際に体をバランスボールエクササイズで整えながら心や、意識までも変化させていく。	
教養科目	スポーツ・健康科学分野	剣道I		剣道の文化性と伝統的な考え方を正しく理解し、剣道の基本動作を習得する。さらに打ったり受けたりする対人的技能の向上をはかり、練習と試合ができることを目標とする。	
教養科目	英語科目	- 英語 1		様々な話題について平易な英語を用いて流暢かつ自然に話す方法を学習する。授業で学習した質問に対して、正確にかつ適切に応答することを中心に学ぶ。発音と非言語コミュニケーションも重視される。	共同
教養科目	英語科目	- 英語 2		英語の聴解と発音の基礎を習熟させる。特に英語が自然な速さで話された時にどのように聞こえるかについて学習する。この知識は能動的に発音を上達させる際と受動的に聴解を練習する際に応用できる。	共同
教養科目	英語科目	- 英語 3		標準英語で書かれた分かりやすい事実に関する文章の要点を理解する能力を向上させる。語彙力向上にも焦点を置き、言語的・文脈の手がかりを用いて意味を推測する方法を学習する。また、辞書を効果的に使えるようになる。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	英語科目	- 英語 4		英語を書く際のルールと英文構造に習熟させる。多様な種類の基本文からなる自然な英語の書き方を学習する。英文の校正方法を習得することにより、自分の作文を編集できるようになる。	共同
教養科目	英語科目	- EnglishAdvAncedReading		TOEIC対策用のリーディング教材を使用して、文法と読解にフォーカスしつつ、読みの速さと正確さの両立を旨とする問題演習を行う（TOEICスコア400～600点レベル対応）。必要な情報を素早く的確に理解するためには、語彙知識も欠かせない。頻出語彙を基に、語彙力の強化を図る。	共同
教養科目	英語科目	- EnglishAdvAncedWriting		物語を共有したいという人間の欲求は、人類の歴史と同じくらい古いものである。このクリエイティブ・ライティングのクラスでは、多くのライティング授業に見られる文法中心の指導とは異なり、学生の創造力を引き出し、自分自身のオリジナルストーリーを共有する機会を提供する（講義は全て英語で行う）。このクラスでは、2つの主要なクリエイティブ・ライティングのジャンル（小説形式の物語と脚本）を通して、創造力と想像力を駆使したライティングスキルを身につけることに焦点を当てる。さらに、これらのスキルを使って、自分自身や他の学生の作品を批判的に分析することによって、物語を学術的に批評することに挑戦する。	共同
教養科目	英語科目	- StudiumGenerAleA		ストゥディウム・ゲネラーレとはヨーロッパで800年の伝統を持つ「開かれた大学」である。その理念に基づいた講義を体験することを狙う。様々なトピックで初心者にも分かりやすく噛み砕いた講義を英語で開講する。	
教養科目	英語科目	- StudiumGenerAleB		ストゥディウム・ゲネラーレとはヨーロッパで800年の伝統を持つ「開かれた大学」である。その理念に基づいた講義を体験することを狙う。様々なトピックで初心者にも分かりやすく噛み砕いた講義を英語で開講する。	
教養科目	英語科目	- SummerCamp		このコースの主な目標は2つある。一方では、(i) すべての学問分野の学生にとって必要であり、(ii) すべての専門的キャリアに転用可能なアカデミックスキルの学習を促進することを目的とする。一方、一般教養を従来の教室にとらわれず、生徒のアクティブ・ラーニングを促進し、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ力に自信を持たせるための適切な学習環境を創出することを目指す。	
教養科目	英語科目	- 海外留学準備セミナー		大学生の海外留学に必要な留学計画力構築、語学力（英語）向上、異文化理解力向上を目的するとともにこの学習機会を提供することで海外留学に対する興味関心・向上心を高めることを目的とする。講座はすべて英語でおこなう。	
教養科目	言語と文化科目	言語と文化分野 言語と文化(ドイツ語)		グローバルに活躍する人材の育成が求められ、また日本国内においても外国人市民の存在が日常となり、多言語、多文化の状況に適應する能力は今後ますます必要となっていく。そうした情勢においては、英語以外の言語を知り、またその背景にある文化や社会について理解する姿勢は「勇気ある知識人」として欠くことのできない資質である。なぜなら、英語学習によりもの見方が平面的に広がるとするなら、英語以外の第二の外国語を学ぶことはそれが立体的に広がることになり、物事をより相対的にとらえる視点を獲得することにつながるからである。こうした観点から、本授業では、ドイツ語について学ぶとともに、ドイツ語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気づきを促す。	共同
教養科目	言語と文化科目	言語と文化分野 言語と文化(フランス語)		まず1つは、グループ学習：各小グループにテーマを1つずつこちらから提示する。それをもとに、各グループは授業外で学習・まとめをし最後に発表をする（テーマを提示してからののは、毎週90分のうち始めの15分程度で1グループが発表をしていく）。次に教師側から発表したグループと同じテーマについて、学生から出てこなかった内容を伝える授業を行っていく。テーマ以外にも、簡単な会話をしたり、映画を見て文化に触れたりする。また、フランスの最新の情報を伝え皆で考える。	共同
教養科目	言語と文化科目	言語と文化分野 言語と文化(中国語)		グローバルに活躍する人材の育成が求められ、また日本国内においても外国人市民の存在が日常となり、多言語、多文化の状況に適應する能力は今後ますます必要となっていく。そうした情勢においては、英語以外の言語を知り、またその背景にある文化や社会について理解する姿勢は「勇気ある知識人」として欠くことのできない資質である。なぜなら、英語学習によりもの見方が平面的に広がるとするなら、英語以外の第二の外国語を学ぶことはそれが立体的に広がることになり、物事をより相対的にとらえる視点を獲得することにつながるからである。こうした観点から、本授業では、中国語について学ぶとともに、中国語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気づきを促す。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	言語と文化(ポルトガル語)		グローバルに活躍する人材の育成が求められ、また日本国内においても外国人市民の存在が日常となり、多言語、多文化の状況に適応する能力は今後ますます必要となっていく。そうした情勢においては、英語以外の言語を知り、またその背景にある文化や社会について理解する姿勢は「勇気ある知識人」として欠くことのできない資質である。なぜなら、英語学習によりもの見方が平面的に広がるとするなら、英語以外の第二の外国語を学ぶことはそれが立体的に広がることになり、物事をより相対的にとらえる視点を獲得することにつながるからである。こうした観点から、本授業では、ポルトガル語について学ぶとともに、ポルトガル語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気付きを促す。	
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	言語と文化(朝鮮・韓国語)		グローバルに活躍する人材の育成が求められ、また日本国内においても外国人市民の存在が日常となり、多言語、多文化の状況に適応する能力は今後ますます必要となっていく。そうした情勢においては、英語以外の言語を知り、またその背景にある文化や社会について理解する姿勢は「勇気ある知識人」として欠くことのできない資質である。なぜなら、英語学習によりもの見方が平面的に広がるとするなら、英語以外の第二の外国語を学ぶことはそれが立体的に広がることになり、物事をより相対的にとらえる視点を獲得することにつながるからである。こうした観点から、本授業では、朝鮮・韓国語について学ぶとともに、朝鮮・韓国語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気付きを促す。	
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	言語と文化(アイスランド語)		グローバルに活躍する人材の育成が求められ、また日本国内においても外国人市民の存在が日常となり、多言語、多文化の状況に適応する能力は今後ますます必要となっていく。そうした情勢においては、英語以外の言語を知り、またその背景にある文化や社会について理解する姿勢は「勇気ある知識人」として欠くことのできない資質である。なぜなら、英語学習によりもの見方が平面的に広がるとするなら、英語以外の第二の外国語を学ぶことはそれが立体的に広がることになり、物事をより相対的にとらえる視点を獲得することにつながるからである。こうした観点から、本授業では、アイスランド語について学ぶとともに、アイスランド語が話されている地域の社会や文化について理解することを目的とした講義を行う。言葉を通して、その言葉を使用する人々の思考形態や価値観、文化的背景を知り、人間の多様性と普遍性への気付きを促す。	
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	短期海外研修A		本授業の目的は、海外研修で米国の大学生活を経験することにより、学習の場の広がりを体感する。現地研修前後の授業、および現地研修において、グループでリサーチの方法や予定を立て海外でそれを実行することを通じて、海外生活における注意事項を理解した上で、大学生活に必須である自律的に考え行動する力を身につけることを目指す。	共同
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	短期海外研修B		本授業は、米国の大学間協定校で実施される理工系分野に特化したラボ活動を含む専門科目受講と名古屋で実施する渡航前後の授業からなる。海外研修では、理工系学生の専攻分野に隣接したテーマで、実験やグループワークを中心に学習する。事前授業は理工系分野を英語で履修するための準備を行う。また、グループで事前学習をしたり、異文化適応について議論する。そして、海外生活における注意事項を理解した上で、大学生としての必要な専門知識や自律的に考え行動する力を身につけることを目指す。	
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	短期海外研修E		本授業の目的は、海外研修で米国の大学生活を経験することにより、学習の場の広がりを体感することである。また、現地研修前後の授業、および現地研修において、アメリカの社会文化、教育制度、そして異文化間適応能力の発達過程を意識的に学習して聞く。そして、海外生活における注意事項を理解した上で、大学生活に必須である自律的に考え行動する力を身につけることを目指す。	
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	短期海外研修F		タイにおける日系企業のグローバル展開と異文化を学び、グローバル人材の素養を身につける短期海外研修である。バンコクの日系企業訪問、タイ学生との交流、文化体験、歴史遺産視察などを行う。名古屋での事前授業では、タイの社会・文化や日本との関係性について知識を深めるとともに、現地での企業訪問や実践活動に向けて準備をする。海外研修では外国語を用いたコミュニケーションを実践し、自文化発信と異文化理解を行う。帰国後の事後授業では海外研修の振り返りと成果発表を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語と文化科目 言語と文化分野	短期海外研修F		本授業は、アジア・オセアニアで行う学外授業（海外研修）、渡航前および帰国後の名古屋での授業を通じて、アジア・オセアニアにおける歴史、文化、交流のあり方に関して理解を深める。	
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	ドイツ語I		名古屋大学の協定校：国立台湾大学のNTUPlusAcademyに参加して、台湾の言語や社会を学ぶ短期海外研修である。中国語のレベル別クラス、文化体験、台湾社会に関する専門講義、学生交流、歴史遺産視察などを行う。名古屋での事前授業では、台湾の社会文化や日本との関係性について知識を深めるとともに、現地研修に向けた準備をする。海外研修では外国語を用いたコミュニケーションを実践し、自文化発信と異文化理解を行う。帰国後の事後授業では海外研修の振り返りと成果発表を行う。	
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	ドイツ語II		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、ドイツ語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわちドイツ語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。この授業は、文法を中心にドイツ語の基礎を学ぶ。講義スタイルではなく、グループ学習やゲーム、歌のテキストを通して、楽しく勉強することを旨とする。	
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	フランス語I		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、フランス語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわちフランス語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。本講義では、生活における実際のシチュエーション（天気や昨日の出来事など）をフランス語で表現することにより、基本の文法や発音を学ぶ。具体的には、4人程度のグループを作り、出された簡単なクイズの答えを一緒に考えることによって理解度を確認。フランス語の歌、会話のビデオなども使用する。学習した内容はまとめてWEBサイトに載せる予定。	
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	フランス語II		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、フランス語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわちフランス語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。本講義では、生活における実際のシチュエーション（天気や昨日の出来事など）をフランス語で表現することにより、基本の文法や発音を学ぶ。具体的には、4人程度のグループを作り、出された簡単なクイズの答えを一緒に考えることによって理解度を確認。フランス語の歌、会話のビデオなども使用する。学習した内容はまとめてWEBサイトに載せる予定。	
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	中国語I		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、中国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわち中国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。	共同
教養科目	言語と文化科目 第二外国語分野	中国語II		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、中国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわち中国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。外国語習得の目的の1つは、それを通して、その言語を使用している人々のものの見方や認識の仕方を学び、異文化を理解することにある。したがってこの授業では、中国語の発音と常用表現の習得を学ぶと同時に、中国人のものの見方や文化について理解することも狙いとする。	共同

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養科目	言語と文化科目	第二外国語分野 朝鮮・韓国語I		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、朝鮮・韓国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわち朝鮮・韓国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。	
	言語と文化科目	第二外国語分野 朝鮮・韓国語II		グローバルに活躍する人材が求められる現代において、英語以外の外国語を学習することは、言語的側面のみならず異文化理解の側面からみても、ますます必要とされている。この授業では、朝鮮・韓国語によって情報や知識を発信・受信できるような能力の習得を目標とする。また英語以外の、すなわち朝鮮・韓国語を用いる地域の文化や社会についても理解を深め、そのことを通じて世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養する。	
教養科目	社会人リテラシー科目	- 日本語表現I(初級)		初級編は、大学での学習や日常生活でのさまざまな場面で適切な日本語を使い、レポートや論文が執筆できるとともに、よりよいコミュニケーション力も身に付けることを狙いとする。日本語の基本的な知識を身に付け、思考力を養いながら、進んで表現活動に取り組むことで、日本語力の向上や良好な人間関係を柱とした大学生活の充実を図れる態度を養う。	
教養科目	社会人リテラシー科目	- 先輩社会人に学ぶ：実りある学生生活を送るために		この授業は岐阜大学卒業生の話をおんデマンドの動画で視聴するものである。100名の卒業生の中から自分で10名選び、視聴する(45分/1人)。目的は以下の点にある。(1) 卒業生は、どのようなことに力を入れて学生生活を過ごしていたのか(勉強、部活、アルバイトなど)、(2) どのように卒業後の自分の就職志望(業界、職種)を決め、就職活動を進めていったのか、(3) いざ働く中で、卒業生はどのような失敗体験(「しくじり体験」)を経験し、そこから何を学んだのか、を動画視聴を通じて学ぶ。そうすることで、今後の学生生活をより実りあるものとすると同時に、卒業後のキャリア形成を描くヒントを得ることを目指す。自分が将来就きたい仕事が決まっている人も決まっていない人も、幅広く様々な業種で活躍する卒業生の話に耳を傾けてみてほしい。	
教養科目	数理・データサイエンス・AI科目	- データ科学基礎		社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識を獲得することを授業の狙いとする。	共同
教養科目	数理・データサイエンス・AI科目	- データ科学基礎演習A		社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、汎用的な分析技能を獲得することを授業の狙いとする。この授業では、表計算ソフトExcel及び統計解析向けプログラミング言語Rを用いたデータの可視化や分析を実践する。	共同
教養科目	数理・データサイエンス・AI科目	- データ科学基礎演習B		社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、汎用的な分析技能を獲得することを授業の狙いとする。この授業では、プログラミング言語Pythonを用いたデータの可視化や分析、機械学習に係る処理等を実践する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考		
教養基礎科目	-	-	基礎数学		将来、生物科学の研究に必要となる数学の基礎的な内容を学ぶ。線形代数、および微分積分の基礎について学ぶ。生物学の文献にあらわれる数式を理解し、数理的計量や数学モデルを用いた将来予測をできるようにするなど、自然現象を記述する言葉として数学を活用できるように学習を進める。	
教養基礎科目	-	-	物理学 I		物理学に関する基礎的な事項、特に、考え方や専門科目とのつながりなどを踏まえながら教授する。	共同
教養基礎科目	-	-	化学 I		応用生物科学部では、生体の最小単位である原子の成り立ちから、生体機能をつかさどっている分子の構造や性質を十分に理解する必要がある。そのためには化学に関する正しい知識を身につけることが必要である。本講義では、高等学校で学んだ化学の基礎知識の再確認した上で、あらゆる物質の構成単位である原子及び化学反応に関わる電子についての知識を深め、化学結合、物質の状態と物性に関わる力について学ぶ。化学の基本量子の世界量子力学：原子の素顔化学結合分子の形と電子構造液体と固体	共同
教養基礎科目	-	-	生物学I		高等学校における「生物基礎」および「生物」で学んだ知識をもとに、大学課程で学ぶべきより発展した生物学の内容について講述し、応用生物科学部における専門課程を学ぶ学生として身につけておくべき生物の知識を深める。細胞の基本構造と機能、エネルギーと代謝、細胞の分化、増殖、生命の連続性-生殖、発生、遺伝、遺伝の制御、動物における反応と制御-動物体の成り立ち、情報の受容と伝達、情報の統合と反応、恒常性の維持、植物体の構造と機能、植物の生長と恒常性、植物の環境応答	共同
教養基礎科目	-	-	生命倫理学		生命倫理学 (Bioethics) の起こりから現在に至るまでの歴史的背景を理解したうえで、議論されている代表的な倫理的課題について学ぶ。生命倫理学は医学系を中心に発達して来た経緯があるが、近年、バイオテクノロジーの急速な発展を受けて、医学系以外のライフサイエンス分野においても生命倫理に関する知識が求められている。将来、ライフサイエンス分野の研究者および技術者をめざす理系学生として、また今後社会に出て活動する社会人として、具備しておくべき基礎的知識の修得と倫理観の備わった人材育成の第一歩として講義を行う。	共同
教養基礎科目	-	-	物理学II		熱力学、電磁気学、原子核・放射線などは、生体反応、生物素材の物性、気象・土壌・水圏現象と密接に関わる。よって、これらについて高校物理や1年前期の物理学 I の学習範囲を発展させた内容を教授する。	共同
教養基礎科目	-	-	化学II		生命現象と、それらを解明するために中心的役割を担っている化学について学ぶ。化学の多数の項目の中から、化学熱力学を中心に平衡論ならびに速度論を概説する。気体の性質、熱力学、熱力学、ギブスエネルギー、物理平衡、化学平衡	
教養基礎科目	-	-	生物学 II		自然環境において生じるさまざまな問題を理解する上で必要な生物現象の基礎について、理解を深めることが授業の狙いである。したがって、この授業では、植物の分類、植物の成長や繁殖、また植物集団の構造についての知識や分析に必要な方法論を、講義や野外での実習を通して身につけてもらう。植物とは何か、そして植物の過去から現在までの変化、生物はどのようにして姿形や行動を変化させてきたのか、植物を知るための野外実習、植物の花、種子、葉の形や機能、そして生長について、植物集団の構造を知るための野外調査(草編)、森林の構造的特徴、およびそれがどのように形成されるのか、樹木集団の構造を知るための野外実習、植物の環境を知るための野外実習	共同
教養基礎科目	-	-	地学		地球の構造・プレートテクトニクスと火山や地震などの地球の活動・景観と地形の形成・地層と地球の歴史・気象・防災の分野を主に扱い、天文学については扱わない。岐阜を基点にした郷土の自然教材を題材にして実際に観察や体験が可能になるように配慮し、また、生物分野に關係のある地球科学分野の教材を活用する。高校で地学を履修していない学生が多数である現状を踏まえ、高等学校修了程度から大学理学部程度の内容を基準にして、地球科学が人間の日常生活と深く結びついたものであり、その地球科学の自然観が自らの生命を守るために欠かせないことを具体例をもとに論究してゆく。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	-	地球・生命・ヒト・人	○	<p>現代は「人新世」とも呼ばれる。これは、人類が地球環境を改変するほどまでの影響力、すなわち地質学的営力をもつにいたったという認識にもとづいた地質学的時代区分に由来する。このような地球における人類が占める位置を正しく認識するためには、地球史の中に生命史、そして、生命史の中に人類史を位置づけることにより、私たち自身がどのような存在であるのかということ冷静に見つめる視座が必要不可欠ではないか。農林水産業に代表される一次産業には、まさに人類が地球という環境を活かすための様々な工夫が詰まっていると同時に、現在生じている様々な環境問題の原因ともなっている。地球システム論とは、このような視点から、地球史、生命史、そして人類史を概観し、人類がどうあるべきかのひとつの視野を提供する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 大西健夫/3回) 地球システム論-地球史概観/人類と20世紀の環境問題 (201 清水将文/2回) 生命史-微生物と植物の切っても切れない関係 (388 矢部富雄/2回) 生命史-生命とは/生命誕生の条件/情報革命と人類 (403 山本義治/2回) 生命最大の発明?光合成/進化する生命、地球と生命の共進化 (397 山根京子/2回) 人類史-農業革命と人類/人類とは?様々な側面を持つ人類、銃・細菌・鉄 (7 八代田真人/2回) 人類史-人類と様々な動物の家畜化の歴史 (15 広田勲/2回) 人類史-ヒトは地球の資源をどのように利用してきたか</p>	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	情報処理演習	○	<p>情報倫理を身につけた上で、「データを取得する能力」、「データから情報を解析・読み取りを行う能力」、「情報を発信する能力」の3点の基礎能力を獲得するため、メーラー (Outlook)、ブラウザ、各種Officeアプリ (Word, Excel, PowerPoint) を使って情報リテラシーの基礎についての基礎的知識と技能を演習形式で習得する。あわせて、各種オンラインの情報システム (TACT、Teamsなど) の活用方法についても教授する。</p>	主要授業科目
専門基礎科目	-	ヒトと自然	○	<p>ヒトと自然では、人間と自然環境との関係について、特に自然資源としてこれらを利用してきた歴史的な経緯から現状、これからのあり方に至るまでの知識・技術を包括的に提供する。また、座学で学んだ事柄を現地で体験することで、実感を伴う知見の定着を図る。人間と自然環境との関係は、これまでの人間社会においては極めて重要な資源利用のあり方であったし、また今後も決して切り離すことのできないものである。人間と自然環境との「これから」を知った上で「これから」を考える能力を獲得することにより、持続可能社会を目指す上で他分野にわたって活躍し得る人材の基盤形成を目指す。 (オムニバス方式・一部共同/全15回)</p> <p>(1 大西健夫・5 平松研/3回) (共同) ヒトと川 (7 八代田真人/3回) ヒトと草地 (8 安藤正規・11 加藤正吾/3回) (共同) ヒトと森 (10 岡本朋子/3回) ヒトとムシ (8 安藤正規・383 森部絢嗣/3回) (共同) ヒトと野生動物</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 主要授業科目
専門基礎科目	-	フィールド科学基礎実習	○	<p>生物圏での資源の管理・自然環境の取り扱い方やそれらと地域社会との関わりについての基礎知識を養うために、自然環境を主な材料として、野外で生物の観察や見学会を行う。人間社会・環境・生物の諸要素についての学習を通じて、フィールド科学の方法論を紹介し、現場で考えるフィールドワークの能力を身につける。生物資源、自然環境、地域社会を取り扱う際に注意しなければならないことを、一つでも実習の中で見つけ出してもらうことが目標である。教員が、それぞれの分野でグループ学習を企画し、テーマのうちの一つを受講する。グループ学習は、2泊3日の宿泊形式で行う。</p>	共同 主要授業科目
専門基礎科目	-	かたちと分類の科学	○	<p>生物の「かたち」、自然がうみ出す「かたち」は美しい。その美しさは、芸術的センスからばかりでなく、科学的センスにおいても感嘆の対象と言える。この講義では、生物や自然にあらわれる「かたち」を、進化的、発生的、生態学および数学的な視点から俯瞰し、その共通性や特異性を「機能」と結びつけて再検討する。「かたち」と「機能」のつながりの来歴と客観的法則を考えることで、自然界における「かたち」の科学的で基礎的な理解を試みる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(52 岩澤淳/2回) 生物：代謝とかたち、卵のかたち (1 大西健夫/2回) 自然：枝分かれしたがる自然、水をコントロールする工夫とかたち (7 八代田真人/3回) 形 (かたち) とは何だろうか?、生物：ものを食べるかたち、動物の大きさとかたち (10 岡本朋子/3回) 昆虫：昆虫の体のつくり、昆虫の感覚器、流体がうみ出す様々なかたちとパターン (11 加藤正吾/2回) 生物：植物の大きさとかたち~植物にみるアロメトリー (327 藤原慎一/3回) 生物：動物の進化とかたちの来歴、体を支えるかたち~動物の筋骨格系、骨格の形態と機能</p>	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	生化学		<p>生物の基本的な活動や現象を化学的に理解することを目的とする。まず生体を構成している物質 (糖、ヌクレオチド、核酸、アミノ酸、タンパク質) に対する化学構造とその性質を学ぶ。次いで、生体物質の化学構造に基づいて、エネルギー代謝がどのように制御されるか、および代謝の乱れによって生じる疾病がどのように起こるかについて学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	-	水文学	○	すべての生命にとって必要不可欠な水。その総量は思いのほか少なく限られてる。しかし、水が地球上を循環している巧妙な仕組みがあるおかげで、私たち人間を含む地球上の生命は、半永久的に水を利用することができる。本講義では、この水循環が生じるメカニズムとその特徴を講義する。また、水はいろいろな物質を溶かし込むことにより、私たちにとって必要な栄養をも運んでくれる反面、汚染物質をも運んでしまう媒体でもある。この物質循環のメカニズムもあわせて講義する。最後に、環境問題と水循環・物質循環との関係を事例的に講義する。 (オムニバス方式/全15回) (1 大西健夫/12回) 水文学とは、地球の大気大循環と水循環、降雨特性と降雨形成のメカニズム、蒸発散のメカニズムとその推定法、土壌中の水移動と流出プロセス、地下水流出のメカニズム、河川形成と河川流出のメカニズム、流出モデル、極端現象の水文統計解析 (190 篠塚賢一/3回) 水質形成のメカニズム、同位体などを用いたトレーサー水文学	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	水理学	○	河川、湖沼、沿岸海域などの水域における環境形成に際して影響の大きい物理的要因として、さらには、地域環境に関わる技術者として必要な素養として、流体の力学(水理学)を講述する。講義内容は水理学の基礎を中心とし、実際の水域における水理学的現象についても適宜紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (5 平松研/8回) 水の基本的性質、静水力学、流体の分類と完全流体の流れ、常流と射流 (16 吉岡有美/7回) 管の中の流れ、開水路の流れ、流体力、地下水の水理、環境と水理	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	土質力学	○	地盤の有効利用と災害防止の観点から、土の工学的特性の把握と力学的挙動の予測手法について学習する。地盤の力学的挙動に関し、基礎理論に対する理解と予測手法の適用方法に対する知見を修得する。	主要授業科目
専門基礎科目	-	動物園学・博物館概論	○	動物園(水族館も含む)は、生きた動物、主に野生動物を収集・飼育し、種の保存を図りながら展示や研究等を行う博物館の一形態である。動物園は、レクリエーション、教育・環境教育、種の保存、調査・研究に加え、自然認識がその中心的な役割とされ、また昨今注目される生物多様性の保全にも大きく貢献し、現代社会に必要不可欠な場所になっている。動物園は単なるレジャーランドではない。動物園の存在意義と機能について、歴史的背景から紹介し、動物園とは何か、動物園学とは何かを、博物館学の観点から概説する。	主要授業科目
専門基礎科目	-	アルゴリズム基礎	○	アルゴリズム基礎では、生物圏環境学科において必要となる水、土、生態、生物現象を数理的に取り扱う。 (オムニバス方式/全14回) (1 大西健夫/4回) プログラミング言語の基礎 (4 西村真一/4回) 数値解析の基本的な素養となる誤差や行列の基本的な解法 (14 西山竜朗/4回) 初歩的な微分方程式の解法 (8 安藤正規/2回) VBAを基本言語とし、年次進行にともなうPythonやRなどの他言語への導入	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	基礎生態学	○	陸上生態系の一次生産者である植物の生態の知識を高め、それらが織りなす生態系を理解することは、人類の生存に欠くことのできない農業生産の持続性や、人類が抱える地球環境問題の解決の糸口となる。植物の特性を深く理解するためには動物との違い、また、生態系を理解するためには時間スケールと空間スケール、加えて人為にも着目する必要がある。	主要授業科目
専門基礎科目	-	フィールド科学応用実習	○	研究活動や、卒業後の社会活動・貢献には、より高度で実践的な科学的手法が必要となる。この実習ではその手法の習得を目的とする。研究分野間で異なる様々な調査手法を用いて、科学的に検討し学習する。そのような科学的思考に集中できるように、この実習では皆さんの調査立案によって、教員が助言を行う学習方式をとります。異なる分野から2テーマを選択する。夏季集中講義として行う。	共同 主要授業科目
専門基礎科目	-	水理計測実験法および実験・実習	○	実験、野外での実習を通じて水域環境を支配する物理的特性の計測および計算技術を習得する。水理実験場を用いた水理実験の他に、必要に応じた水理計算、および野外の河川などでの現地調査も随時行う。	共同 主要授業科目
専門基礎科目	-	材料計測実験法および実験・実習	○	土中水の保持や移動に関わる物理特性、ならびに環境構築材料の理工学的・力学的特性といった、材料の特性を計測し評価するための理論や原理の理解を深めるための実験・実習を行う。材料には、植物生育環境としての土壌、ならびに建設材料としての土質という両面から重要である土と、建設材料として代表的かつ特徴的であるコンクリートを取り上げる。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	-	-	生物計測実験法および実験・実習	<p>生物圏の中における生物の成長や形態形成、生態ならびに生物群集を把握し、理解するための基本的な調査・実験方法を習得する。生物活動に関する基本的な測定実験技術の習得を目指す。群集レベル、個体レベル、生理レベルなど様々なスケールを対象とする。 (オムニバス方式・一部共同/全15回)</p> <p>(2 楠田哲士/1回) 動物の性ホルモンの定量 (7 八代田真人/1回) 家畜の体重・体尺測定法 (8 安藤正規/1回) 樹幹解析 (10 岡本朋子/3回) 昆虫群集の解析, 昆虫の形態変異 (7 八代田真人・11 加藤正吾/1回) (共同) アロメトリー (13 玉木一郎/2回) 毎木調査 (13 玉木一郎・17 片畑伸一郎/2回) (共同) DNA分析 (17 片畑伸一郎/4回) 植物色素の定量と生理活性の測定, 光合成の測定</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	生物統計学	<p>本講義では、主として生態系や生物活動全般を対象としたデータ分析を行うときの基礎をなす統計学的手法を学修する。古典的な統計学の基礎を中心に学修し、最後にAIを支える機械学習の前提条件に触れて、生態環境モデリング I で扱うモデリングの基礎につなげる。</p>	共同 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	土壌科学	<p>土壌は、動植物や微生物にとって重要な生育の場であると同時に、地域環境さらには地球環境の中で、水や各種物質・ガスおよび熱エネルギーの循環系の一部を担っている。本講義では、土壌の物理化学的性質と諸機能、および土壌内で起こる水・物質輸送の諸過程について解説する。さらに、土壌の諸特性や環境因子の把握に関する各種測定法を紹介する。</p>	主要授業科目
専門基礎科目	-	-	生物多様性学	<p>基礎生態学で学習した生態学に関する基礎的知識を土台にして、進化や生物間相互作用の観点から、生物種に特有な反応や行動を起こすことに直接関係する近接要因だけではなく、系統や適応からそのような現象が種として進化してきたかという究極要因からも生物現象を考えられるようになることを目的とする。競争や捕食、共生などの種間の相互作用、生物多様性の創出と維持機構などについて、自然選択や適応度などの進化の概念に基づいて理解できるようになることを目指す。 (オムニバス方式・一部共同/全15回)</p> <p>(10 岡本朋子/8回) 至近要因と究極要因, 自然選択と適応, 性選択, 社会性の進化, 血縁度, 擬態, 捕食-被食と進化, 寄生 (13 玉木一郎/6回) 進化的に安定な戦略 1・2, 土壌圏における共生系, 種分化, 分子系統学, 地理的変異 (10 岡本朋子・13 玉木一郎/1回) (共同) 送粉・種子散布共生系</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	遺伝学	<p>遺伝とは、動物や植物が持つ固有の性質が子孫に伝えられることである。生命現象の理解を深める上において、遺伝に関する基礎的な知識は重要である。本講義では、遺伝の基本的なしくみやメンデル遺伝学から始まり、近年発展している分子遺伝学やゲノム科学等についても解説し、動物や植物に関する遺伝の基礎について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 只野亮/13回) 遺伝子の本体と機能, 減数分裂とメンデル遺伝学, 遺伝の染色体基礎, 染色体の基本構造, 染色体構造変異と多様性, 細菌、ウイルス遺伝学の発展と分子遺伝学の誕生, DNAの複製・組換え・修復, 遺伝暗号の解説, 原核生物の遺伝子発現調節機構, 真核生物の遺伝子発現調節機構, 組換えDNA技術と遺伝子工学, トランスポゾン, 細胞質遺伝とオルガネラゲノム, (6 松村秀一/2回) 集団の遺伝学, ゲノム科学の発展と未来</p>	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	動物生理学	<p>最も理解が進んでいるヒトやモデル動物 (マウスなど) での知見を中心に、その他の動物の生理機能もふまえて生理学の基礎を講ずる。 (オムニバス方式/全15回, 定期試験含む)</p> <p>(78 大塚剛司/6回) 生理学の基礎, 血液と体液, 循環とその調節, 呼吸システム, 体液の調節と尿の生成排泄, 外部環境からの防御, 脳の統制システム (7 八代田真人/2回) 消化と吸収, エネルギー代謝 (52 岩澤淳/5回) 内分泌とホルモン制御, 神経の制御・統合, 情報伝達と感覚, 筋肉と骨の動き, 生殖と発生・老化</p>	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	植物生理学	<p>植物生理学を植物体のレベルから解説する。特に植物の成長と、養分吸収・光合成・物質の転流・植物ホルモン・花芽分化などとの関係を解説するとともに、実際の植物生産における実用例を紹介する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	-	-	動物行動学	<p>動物はその生存、繁殖に向け、様々な行動を発現させる。動物行動学※は多種多様な動物の行動を生物学的に研究する学問であり、動物の行動をいろんな角度から研究する。本講義では、動物の行動を生物学的に理解することを目的に、機構、機能、発達、進化の観点から解説する予定である。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全15回)</p> <p>(285 二宮茂/6回)</p> <p>動物行動学※とは、行動の分類とその機能、行動の分類とその機能、行動観察法、行動の発現機構、動機付け・葛藤行動・異常行動、行動の発達・学習</p> <p>(6 松村秀一/9回)</p> <p>行動の進化・行動生態学、捕食者回避と採餌、なわばりと渡り、コミュニケーション、繁殖行動、配偶システム・子への投資、社会行動利他行動、まとめ</p>	オムニバス方式 主要授業科目
専門基礎科目	-	-	動物園動物管理学	<p>生物多様性保全において、動物園が果たす役割は益々増大している。環境省の生物多様性国家戦略や種の保存法、世界動物園水族館保全戦略などに動物園の役割が記されている。現代の動物園における動物の飼育管理には、野生動物の危機・保全との関係から考える必要がある。動物園を舞台とした主に生息域外保全に着目し、野生動物の絶滅危機、法令、飼育管理、保全繁殖、普及啓発の領域を中心に概説する。なお、本講義は「動物園学・博物館概論」を踏まえて、その後編として動物園での動物管理の視点で講述する。</p>	主要授業科目
専門基礎科目	-	-	作物学	<p>主要な食用作物をとりあげ、起源、生態生理的特徴、栽培、現状を解説する。</p>	
専門基礎科目	-	-	農村デザイン学	<p>農山村地域は、農林業を中心とした生産活動と日常生活を営む重要な基盤であり、豊富な地域資源に恵まれ、多面的な機能を発揮しながら都市生活を支えている。この「人が手を入れながら維持してきた二次的自然」の生態空間要素に着目しながら、地域資源の特質、歴史的展開と変質、生態的な意義と課題を講述する。また後半部では、農村の実態把握、予測、計画、といった流れを事例を踏まえ実践的に理解していく。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全15回)</p> <p>(9 伊藤健吾/7回)</p> <p>農村デザイン学とは？、農村を支える一次産業—農業、林業、水産業、農村の抱える問題—少子高齢化と過疎化、農村地域の資源活用1, 2</p> <p>(15 広田勲/5回)</p> <p>世界の農村1, 2, 3, 4, 5</p> <p>(9 伊藤健吾・15 広田勲/3回) (共同)</p> <p>現場の声を聴いてみる、故郷の現状を知る、農村の未来について考える</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専門基礎科目	-	-	環境リテラシー入門	<p>環境リテラシーとは、現代人に必須の教養ともいえる。環境問題研究の科学史をふまえ、環境問題研究について具体的な事例を踏まえて解説する。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全13回)</p> <p>(1 大西健夫/4回)</p> <p>科学と社会との関係の変遷</p> <p>(412 吉野純/3回)</p> <p>IPCC</p> <p>(376 村岡裕由/3回)</p> <p>生物多様性条約</p> <p>(171 斎藤琢・308 原田守啓/3回) (共同)</p> <p>シチズンサイエンス</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専門基礎科目	-	-	農業経済・経営学入門	<p>経済学・経営学を構成している専門要素を学び、それらが農業経営の高度化と発展にどう関わっているのかを把握し、産業構造としての農業・農村の基盤維持に関わる農業経営学的要素を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(94 奥岡桂次郎/2回)</p> <p>農業経営というプロジェクトを動かすために、プロジェクトの価値算定</p> <p>(153 後藤尚久/2回)</p> <p>戦後の日本の農業政策、農業協同組合の役割</p> <p>(188 篠田朝也/2回)</p> <p>農業経営に役立つ管理会計とは、農業経営に管理会計を導入する</p> <p>(193 柴田仁夫/2回)</p> <p>農業経営の基礎、実践企業の講演</p> <p>(223 高木朗義/2回)</p> <p>農業経営のリスクマネジメント、農業経営のPPP (PublicPrivatePartnership; 官民連携)</p> <p>(256 出村嘉史/2回)</p> <p>治山と河川、農業と文化的景観</p> <p>(383 森部純嗣/2回)</p> <p>野生動物被害から守る農業、地域資源を活用した農業デザイン</p> <p>(336 前澤重禮/1回)</p> <p>農業経済学・農業経営学の総論</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	-	野生動物管理学入門		野生動物管理学とは、「野生動物による農林業被害や環境・植生破壊の防止」と「地域における野生動物個体群の健全な存続」との両立を科学的に迫る「実学」である。近年、野生動物に起因する農林業被害が各地で激化する一方で、絶滅の危機にある種も増えている。そこで本授業では、主として国内における野生動物管理上の諸問題（歴史的・社会的背景を含む）を紹介するとともに、その解決に貢献し得る保全生物学的な知識・技術に関わる基礎事項を講じる。これにより、野生動物をめぐる諸対策の現場で活躍し得る人材の「基盤形成」を目指す。	共同
専門科目	-	環境化学分析法	○	生物圏・環境に見いだされる多様な化学物質の主要な分析手法の原理および実験法を学ぶ。薬品や分析機器周辺のカス等の基本的な取り扱い方、比色定量法、分光光度法をはじめとした各種の光分析法、液体ならびに気体成分のクロマトグラフィー法、そして質量分析法などを学ぶ。なお適宜、原理の説明とともに測定の実験デモンストレーションとあわせて簡単な機器操作を学習する。	共同 主要授業科目
専門科目	-	空間情報計測学Ⅰ	○	測量は、地球上の地物の位置、形を正確に把握するための基本的な技術であり、フィールドを対象として研究をするあらゆる学問分野（生態学、農業土木学、環境科学、考古学、歴史地理学、文化人類学など多岐わたる）において、研究を進める上での基盤的な情報を提供してくれる重要な技術である。その歴史は古いが、現在、衛星観測技術、ドローン等の新技術の著しい発展にともない、測量技術そのものが大きく進化を遂げつつある。本講義・実習では、実際の測量現場で現在標準的に利用されている測量法を学習するとともに、従来からの古典的な測量の基本原則を説明し、様々な種類の測量の実施方法、並びに測量結果の処理方法について学習する。	主要授業科目
専門科目	-	生態環境モデリングⅠ	○	生態環境を構成する水、土壌、生態系、ならびに生物現象を記述するための基本的な微分方程式、方程式群を一通り知り、これら方程式を用いた現象記述の基本的な考え方を理解する力を涵養する。あわせて、式を解くことができなくても、式を読み解くリテラシーを養う。また、実際にどのように現象を支配する方程式を解くことができるのか、初等的な方法を学ぶ。	共同 主要授業科目
専門科目	-	空間情報計測学実習Ⅰ	○	測量は、地球上の地物の位置、形を正確に把握するための基本的な技術であり、フィールドを対象として研究をするあらゆる学問分野（生態学、農業土木学、環境科学、考古学、歴史地理学、文化人類学など多岐わたる）において、研究を進める上での基盤的な情報を提供してくれる重要な技術である。その歴史は古いが、現在、衛星観測技術、ドローン等の新技術の著しい発展にともない、測量技術そのものが大きく進化を遂げつつある。本講義・実習では、実際の測量現場で現在標準的に利用されている測量法を学習するとともに、従来からの古典的な測量の基本原則を説明し、様々な種類の測量の実施方法、並びに測量結果の処理方法について実習で行う。	主要授業科目
専門科目	-	生物識別野外調査実習－動物－	○	動物の調査研究は、野外でのフィールド調査の他、牧場や動物園などにおける飼育下での研究、これらを専門の飼育施設と連携して実施する研究もある。また、生体から採取した各種試料や派生物を扱う実験室内での科学実験も含まれる。本実習では、生物の研究フィールド等を訪問し、実物の研究対象生物やその生息環境・飼育環境を理解し、現場での動物観察法や調査研究手法等を学ぶと共に、実際にデータを収集し解析するまでの技術も学ぶ。	共同 主要授業科目
専門科目	-	生物識別野外調査実習－植物－	○	植物の種類を識別する際に必要となる外部形態は葉だけではなく、花・果実・芽鱗・托葉・樹皮・根系など様々な部位に及ぶ。また、植物を識別する際には、生活史への理解も重要である。そのため、大学キャンパス内外の森林や緑地などを各回ごとにテーマを設定し、形態だけではなく、成長様式・繁殖様式などを現場で観察しながら教授する。標本採集を行いつつ、実践的野外観察を行う。また、室内では、標本作製や詳細な観察による植物画の描画を通じて植物の種類を識別できる観察力を身につける。	共同 主要授業科目
専門科目	-	生物識別野外調査実習－昆虫－	○	昆虫は地球上で最も多様性に富んだ分類群であり、生態系においても様々な役割を担う。本講義では、捕虫網等の採集用具を用いて実際に昆虫採集を行うことで、身近な環境における昆虫の種・形態の多様性を認識する。採集後は種の同定を行い、半永久的に保存可能な標本作りを学ぶ。	共同 主要授業科目
専門科目	-	生物識別野外調査実習－水棲生物－	○	本実習では、水棲生物を対象に、実際のフィールドにおいて捕獲方法、識別方法を学ぶ。身近な水棲生物（魚類、両生類、爬虫類、水棲昆虫、貝類など）の名称と特徴を覚え、同定することができるようになることを目指す。水田、河川、干潟という様々な環境の水棲生物を対象とする。また、環境指標生物として重要な希少種および外来種については重点的に理解を深めてもらう。	共同 主要授業科目
専門科目	-	専門英語演習		科学英語の読解力・作文力の習得を目指し、環境生態科学の各専門分野に関連した英語課題を題材に演習を行うことで、科学英語論文が理解でき、簡単な英訳ができる能力を身につける。	共同
専門科目	-	卒業研究	○	問題の本質を見極め、自ら実験や調査を行い、得られた結果を客観的に評価して問題の解決に当たるという作業を経験することにより、理論的思考能力および問題解決能力の涵養を図るとともに、成果を論文としてまとめ発表することにより、記述能力およびプレゼンテーション能力の涵養を図ることを目的とする。	共同 主要授業科目
専門科目	-	水利環境学	○	人間生活を快適に営むために必要な用水に関する条件を総称して「水利環境」と呼び、生活用水、灌漑用水、工業用水、環境用水、地域用水、洪水制御を対象とするが、本講義では、とくに農地や農村地域をとりまく水利環境の条件と計画手法を中心に説明する。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	-	-	構造力学	○ 農業生産基盤、環境整備のためには、農業水利施設をはじめとした各種構造物の設計と施工が必要となる。その中で、構造物の力学的安定性を支える設計理論の基本が構造力学である。その理論と実際の計算方法を学ぶのが本講義であり、せん断力、軸力および曲げモーメントなど各種部材に作用する力、断面二次モーメントや断面係数等の重要な値の意味を理解するとともに、梁、トラス、ラーメン、柱などの各部材に作用する力と変形状態に関する解法を修得する。	主要授業科目
専門科目	-	-	水・物質循環学	地球温暖化や生物多様性の問題で示されたように、人間活動が地球のバイオスフィア（生物圏）に大きな影響を与えていることが21世紀になって広く認識されるようになった。生態系生態学とはどのような学問であり、環境の時代と言われる21世紀においてどのような役割を担っているのだろうか。本講義では、地球上のシステムとしての生態系の構造と機能、及びその広域的な評価について解説する。 (オムニバス方式/全15回) (77 大塚俊之/7回) 生態系生態学とは、生態系を記述する、生態系のNEPとは、生態系遷移とNEP、炭素のBiogeochemistry、窒素のBiogeochemistry、マングローブ林の物質循環 (171 斎藤琢/8回) 多様な生態系における炭素循環、森林生態系における水循環、森林生態系における熱循環、陸域生態系モデルの基礎、陸域生態系モデルの応用、リモートセンシングの基礎、リモートセンシングの応用、陸域生態系と地球環境の相互作用	オムニバス方式
専門科目	-	-	農業生態学	地域環境に適合した農業生態を創成、維持、発展させるために、農業生態分析の基本的な考え方、農業生態系の構造的特徴の把握、地域固有の農業生態の成立と維持過程を分析するための実態調査と結果についての要因分析、必要な生態管理に関わる各種の手法を習得する。具体的な事例も踏まえ、農耕地生態系の多様な機能や価値についても考察する。 (オムニバス方式/全15回) (15 広田勲/9回) 農業生態学の概要と目的、多様な自然環境への農業の適応、生業複合における生物資源の利用、持続的生物資源管理と利用、熱帯生物資源利用の実際、自然環境と農耕文化、農業生態研究における総合と分析の手法 (9 伊藤健吾/6回) ファームングシステムと農業生態、農業生態の成立と変容、クロッピングシステムの種類と機能、野生・半栽培・栽培	オムニバス方式
専門科目	-	-	植物生理生態学	生態系におけるエネルギーと物質の循環を支えている光合成に焦点を絞って、環境条件の変化に対する光合成の応答を細胞から生態系レベルにわたって解説するとともに、それらが地球環境問題や農業生産とどのように関連するのかについて解説する。環境条件の時空間変動に対する光合成の応答パターンとそのメカニズムを細胞から生態レベルにわたって理解し、それを持続的な農業生産や地球環境問題の解決に応用する能力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (17 片畑伸一郎/8回) ガイドンス、生理生態学の視点、光合成の基礎、光合成の環境応答、植物の水分生理、植物の繁殖生理、 (376 村岡裕由/7回) 光合成の種間差と窒素利用、植物の形態的・生理的な光馴化とその適応的意義、植物群落の光合成、地球環境変動と生態系、陸上生態系の光合成	オムニバス方式
専門科目	-	-	動物保全遺伝学	○ 絶滅が危惧される動物を適切に保全していくためには、個体数を減らした野性下の集団や飼育下の集団が直面する遺伝学的な問題について正しく理解することが重要である。本講義では、主として進化生物学、集団遺伝学に基づく保全遺伝学の基礎を学ぶ。生物が保有する遺伝的多様性は生物進化や種・集団の存続にとって重要であることを理解するとともに、生物の絶滅に影響する遺伝的要因を学び、絶滅を最小化する遺伝的管理について考える。 (オムニバス方式/全15回) (12 只野亮/2回) 遺伝的多様性の評価 (6 松村秀一/13回) 大集団における進化、小集団における進化、遺伝的に存続可能な集団、分類学的問題の解決と管理単位の決定、野生集団の遺伝学と管理、飼育集団の遺伝的管理、再導入のための遺伝的管理、法生物学や種の生物学的特性の理解における分子遺伝学の利用、集団存続可能性解析（PVA）	オムニバス方式 主要授業科目
専門科目	-	-	動物保全生理学	○ 動物保全生理学とは、「生物多様性とその生態学的意味を明らかにし、生物、個体群、生態系が環境変化やストレス要因にどのように反応するかを理解し予測し、幅広い分類群において保全問題を解決するために生理学的概念、ツール、知識を適用する統合的科学分野」であるとされている。本講義では、主に栄養学領域と繁殖学領域についての基礎的知識を学ぶとともに、それらの情報が様々な動物の保全にどのように関わっているか、あるいは貢献できるかを含めて概説する。 (オムニバス方式/全15回) (2 楠田哲士/8回) 動物保全生理学とは、動物の生殖のライフサイクル、動物の繁殖に関わる内分泌・ホルモンの合成と排泄、動物の卵巣周期とホルモン、動物の多様な繁殖生理、動物の泌乳、動物の生殖器の構造と人工繁殖技術 (7 八代田真人/7回) 動物の食性と消化器官、動物の食物と栄養素、動物の栄養と疾患、動物の栄養要求と飼料設計、飼料の調達・保管・法規制	オムニバス方式 主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	-	-	グローバルインターンシップ	大学や研究機関を含む国外の様々な事業所において一定期間研修を行う。なお、語学留学は本科目には含まない。 ※研修前に、国外のインターンシップ受け入れ先の選定、および研修内容について担当教員の指導を受ける。研修期間は実施機関までの往復旅行期間を除く5日間以上とし、研修期間中は実施機関の監督のもと研修を受ける。	共同
専門科目	-	-	水利施設学	わが国に止まらず全世界で食料生産を支える農業水利施設について、ダムを中心としてその仕組みと設計の概要を理解するとともに、昨今の実務に関する話題に触れる。農業水利施設の役割と特徴を把握し、設計ならびに保全管理に関する基本的な事項を理解する。さらに、研究だけでなく実用としても広く普及したコンピュータシミュレーション手法の基礎を理解する。	
専門科目	-	-	農地工学	農地は、食料生産の場であり、重要な土地資源のひとつである。農地を食料生産の場として整え、土地資源として利用可能なものとするためには、造成・整備や、その後の改良・保全といった様々な技術が必要となる。農地で生じる諸問題とその解決方法を理解し、さらに環境や社会情勢の変化に応じて適用していく必要がある。このような技術体系全体を指して、農地工学という。本講義では、農地工学の技術体系や工学的実践方法について、日本と乾燥地などの世界の水田、畑地を対象に説明していく。	
専門科目	-	-	インターンシップ実習	自らの専門性、将来のキャリアに関連した各種の民間企業、国および地方自治体などの事業所において一定の期間、社会活動や就業体験に参画し、大学で得た専門知識の実社会での意義を考えるとともに実習から得られた実体験を大学の勉学に活かして、自己実現をめざした学習の目標設定、動機付けの機会を提供する。	共同
専門科目	-	-	博物館実習Ⅰ（学内実習）	博物館における館実習の事前・事後指導と他の博物館科目の補足を兼ねて、学内外の施設において、学芸員の心構え、資料の取り扱いや展示等について学ぶ。 A. 見学実習：多様な博物館の姿を観察する。 B. 実務実習：資料を実際に取り扱う。 C. 事前・事後指導：実習全体の指導、館実習に向けた指導を行う。 （博物館実習ⅠとⅡをセットで実施する）	共同
専門科目	-	-	空間情報計測学Ⅱ	空間情報計測学Ⅰおよび実習Ⅰを踏まえて、簡易測量法である平板測量、セオドライトを用いた各種の角測量の方法、路線測量法、などを学習する。また、写真測量の原理の説明をしたうえで、最新の測量法のひとつであるUAVによる測量にも触れる。UAV測量をユニオンの協力により実施し、それ以外の項目は西村が担当する。	
専門科目	-	-	保全生態学	○ 現在、日本における生物、生態系の保全は、希少種を対象としたものや開発とセットになったものがほぼすべてを占めている。何をどのように保全していくべきなのか、多くのステークホルダーの間で意見の相違がみられるが、各々が考えて意見をもち、それについて説明できる知識と経験を身に付けることが議論には不可欠である。本講義では、これまで行われてきた保全の歴史を振り返るとともに、受講生それぞれが人間を含めた生態系の在り方について考えていく機会を提供する。	共同 主要授業科目
専門科目	-	-	陸水生圏環境学	河川、湖沼、水路、ため池、汽水域などの身近な水圏・水域における生態系および環境のありかたについて多角的な視座から講述する。それぞれの講義の中で、生息生物（魚類、水生昆虫類、プランクトン、水生植物など）、食物網（捕食-被食モデル）、物質循環（主に栄養塩）、物理・化学的環境要因（水理・水質）、人間との接点（人工構造物と生態工学）について説明する。 （オムニバス方式／全15回） （5 平松研／12回） 陸水生圏環境学の概要、水環境を数値で見ると、河川における生物と環境、湖沼・ため池・貯水池における生物と環境、汽水域における生物と環境、陸水生圏環境学総括 （9 伊藤健吾／2回） 日本と濃尾平野における陸水生物と環境	オムニバス方式
専門科目	-	-	昆虫学	○ 本講義では、昆虫学の基礎となる基礎昆虫学と、それを踏まえた応用編である応用昆虫学について講義する。基礎昆虫学では、形態から生理までを講義し、応用昆虫学では害虫管理について講義する。昆虫に関する基礎的な事項を習得し、作物生産現場で問題となるような害虫管理について対応できるような基本的な知識の習得を目指す。	主要授業科目
専門科目	-	-	森林管理学	○ 持続可能な社会の実現の上で、巨大な生態系サービスのソースである森林の維持・管理・保全は欠くことのできない重要なタスクの一つである。本講義では森林科学の基礎となる「森林生態」、「森林施業」、「森林保護」等、森林を維持・管理・保全していく上で必要となる各分野について網羅的に講義をおこなう。日本の国土面積の1/3を占める森林を持続的に管理していく上で本分野において活躍し得る人材の基盤形成を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （8 安藤正規／13回） 森林と樹木、日本の林業史、世界の森林管理動向、森林生態、森林土壌、森林施業、森林経営、森林計測、野生動物の管理・獣害、病虫害・気象災害、特用林産物、木材の性質、森林バイオマスの利用 （162 五味高志／2回） 流域圏科学、治山・砂防	オムニバス方式 主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	-	植物環境制御学	○	農作物の収量や品質は、その遺伝的形質や生育する環境要因に依存する。実際の生産現場において、被覆栽培トンネル、温室、植物工場などを利用して生育に不適な環境を改良するのが環境調節工学である。また、植物生理学や育種学の分野では、グロースチャンパーのように光（強度、光質、日長）、温度、湿度、培地水分、ガス組成などの物理的環境要因を完全に制御して植物の生理生態反応（光合成、蒸散、転流、光形態形成、成長速度など）を解析する装置も研究に利用されている。これらの施設を適切に利用するためには、環境を適切に制御するために必要な工学的・物理的な原理の理解、および生理生態反応を適切に評価するための物理指標の理解が必要である。本講義では、物理的な制御環境要因に対する植物の生理生態的な応答や生育への影響について解説し、実際の植物生産施設における施設内微気象形成の原理と環境制御方法の各論を紹介する。	主要授業科目
専門科目	-	植物病理学	○	我々の生活を支える農作物を栽培する上で、病原微生物による病害は大きな問題となる。本講義では、植物を加害する病原微生物の種類や特徴、植物病原微生物の病原性発現機構、植物の防御応答システムなどについて解説する。 (オムニバス方式/全15回) (201 清水将文/8回) 中間試験、植物と病原体の相互作用、病原体の病原性発現機構、病原体の病原性発現機構、病原体の病原性発現機構、植物の抵抗性発現機構、植物の抵抗性発現機構、植物の抵抗性発現機構 (210 須賀晴久/7回) 植物病理学とは、病原体の同定と維持管理法、病原体の種類と分類―菌類―、病原体の種類と分類―細菌―、病原体の種類と分類―ウイルス―、病害の発生、ゲノム解析と植物病理学の新展開	オムニバス方式 主要授業科目
専門科目	-	空間情報計測学実習Ⅱ		空間情報計測学Ⅰおよび実習Ⅰを踏まえて、簡易測量法である平板測量、セオドライトを用いた各種の角測量の方法、路線測量法、などを学習する。また、写真測量の原理の説明をしたうえで、最新の測量法のひとつであるUAVによる測量にも触れる。	
専門科目	-	生態環境モデリングⅡ		WEBからフリーで入手可能な様々な時空間情報、GPSデータ等の現地調査で取得した観測データ、さらにリモートセンシングデータなどを、時空間情報として統一的に扱う方法をGISをプラットフォームに学習する。あわせて、これらのデータを用いた初等的なモデリング手法を学習する。さらに、構造物の設計・施工に必要な不可欠なCAD技術もあわせて学習する。	共同
専門科目	-	キャリア演習		環境生態科学への就職支援を目的として、一般の講義や実習の理解度を向上させることを目的として基礎的な演習を総合的に行う。これにより、就職後は高度技術者として、かつ技術士（補）などの高度な資格取得への道を拓くことが可能になるよう、様々なメニューを用意する。基礎力養成を目的とした課題をTACTに公開し、予習としては各課題の説明資料の作成、授業ではその資料を用いた発表と質疑応答を行う。地域工学、農学、森林科学の各専門分野について演習を行う。	共同
専門科目	-	環境微生物学	○	環境中の微生物の多様性と機能から、地球上の物質変換における微生物の化学的役割およびこれらの環境微生物の解析技術について講義する。また、環境汚染の歴史を振り返りながら環境汚染を化学的に理解し、更に微生物学的観点から講義する。	主要授業科目
専門科目	-	農業政策学		食料・農業・農村問題の現状について概観し、その形成過程、問題構造を経済学的側面から、理論的かつ歴史的に分析・考察する。同時に、持続可能な食料・農業生産と環境保全のあり方について教示する。受講生がこうした諸課題について理解するとともに、課題解決のための政策の変遷を学び、その有効性について考察する力を養うことを目的とする。	
専門科目	-	博物館実習Ⅱ（学内実習）		博物館における館内実習の事前・事後指導と他の博物館科目の補足を兼ねて、学内外の施設において、学芸員の心構え、資料の取り扱いや展示等について学ぶ。(1) 見学実習：多様な博物館の姿を観察する。(2) 実務実習：資料を実際に取り扱う。(3) 事前・事後指導：実習全体の指導、館内実習に向けた指導を行う。(博物館実習ⅠとⅡをセットで実施する)	共同
専門科目	-	博物館実習Ⅲ（館内実習）		各専門分野の博物館（自然史博物館、動物園、水族館、植物園等）での実務体験実習を行う。学内実習で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身に付け、博物館で働く心構えを涵養する。	共同